

令和5年度  
こうべ動物共生センター管理運営業務  
実施報告書



公益社団法人Knots

Public Interest Incorporated Association Knots

# 令和5年度 こうべ動物共生センター管理運営業務 実施報告書 【目次】

①	本事業の全体コンセプト	3
②	センターの管理・運営に関する業務	6
③	アニマルセラピー 動物ふれあい事業	24
	・わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）	
	・わんちゃんお出かけセラピー	
④	一緒に学ぼう！ For Kids 子どもを対象にした動物共生教育事業	37
	・獣医師体験プログラム	
	・犬とともにだちになろう	
	・いきものといっしょ	
	・VRで体験！いぬねことのくらし	
	・「いのちの教育」プログラム	
⑤	一緒に学ぼう！ 飼い方相談事業	59
	・犬のしつけ方教室案内	
	・老犬との暮らし方教室	
	・和犬教室	
⑥	お困りごと 飼育者支援事業	66
	・飼い主相談 飼い方相談・犬猫のしつけ相談	
⑦	参加してみよう！	81
	・お散歩診断 飼い方相談事業	
	・体験！ドッグダンス 飼い方相談事業	
	・教えて！介助犬 身体障害者補助犬の普及啓発事業	
	・ペットとの災害避難マップを作ってみよう！ 防災関連	
⑧	受託者企画事業の展開	90
	・セラピー研究フィールド	
	・こうべ動物共生プラットフォーム	
	・市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集	
	専用ウェブサイトの構築	
	出沒・こうべ動物共生センター	
	・こうべ動物共生情報の提供・収集	
⑨	センター広報	94

## ①本事業の全体コンセプト

### こうべ動物共生センターとは？

— Kobe Center for Human-Animal Interaction —



こうべ動物共生センターは、動物関係の公的機関で初めて「共生」と名付けられた、保護動物の譲渡と教育・啓発を行うことを目的とした施設です。

神戸市は、平成29年4月に日本で初めて、人と猫が共生する社会の実現を目指す「神戸市人と猫との共生に関する条例」を施行しました。これは、阪神・淡路大震災の際、神戸市で行われた歴史的な動物救援事業からの長い取り組みのひとつの成果でもありました。また、当センターがある「しあわせの村」は30年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備されたSDGs視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設です。

「共生」という言葉には、「人と動物、お互いの関係を大切にし、一緒に暮らしていこう」という思いが込められています。当センターでは、その影響を科学的に解明し、人と動物の幸せな暮らしを支える関係者を繋ぎ、市民ひとりひとりに寄り添う課題解決を目指します。

愛護から共生へ...人と動物の幸せな共生を通じて、「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現していきます。

1995年1月17日午前5時46分 阪神・淡路大震災

神戸市・兵庫県・神戸市獣医師会等の民間団体による歴史的な動物救援事業が行われ

「人と動物の共生」という概念の礎となった

阪神・淡路大震災動物救援事業について：神戸大学附属図書館「震災文庫」

専用ウェブサイトにおいては、阪神淡路大震災の被災動物救援事業記録集である「大震災の被災動物を救うために 兵庫県南部地震動物救援本部活動の記録」を、上記のバナーリンクより読んでいただけるようにしており、神戸市の「人と動物の共生」の根底にある事業を引き継いでいけるよう発信を行っている。



# ①本事業の全体コンセプト

神戸市の「幸せな動物との共生」を支えプラットフォームを構築  
 「ずっと一緒に幸せに暮らしていける」SDGs 視点を持たたたかな神戸市



市民は「サービスの受け手」であると同時に「サービスの送り手」でもある

相談・サービス活用 ← 業としてのサポート → 就業と雇用

**官民協働の場** 《こうべ動物共生プラットフォーム》  
 「市民を幸せにする動物共生チーム」  
 関連団体 動物取扱業者 登録事業者 関連事業 事業者 ボラン ティア等  
 各地域：地域包括支援センター/社会福祉協議会/自治会/病院/学校とも連携・協働  
 「試み・開発の場」「人材育成の場」  
 連携とスキルアップのため、賛同する神戸市内外の企業、団体、個人の参加を促し、多様なサポーターを集積させていく。

**事業協力** ↓ **教育・研修・情報提供** ↑ **コーディネーター** ↑ **事業協力** ↑

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
**こうべ動物共生センター**

《セラピー研究フィールド》  
 科学的影響を明らかにし、広く市民の生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外のアニマルセラピーに係る専門家による研究フィールドを構築  
**「試み・開発の場」「人材育成の場」**  
**アニマルセラピー**  
 ・わんちゃん読書会 (R.E.A.D.プログラム) の実施・研究

➔ **神戸市の研究として進化**  
 [アドバイザー]  
 ・中山裕之先生 (東京大学名誉教授 / VISION VETS GROUP (WG) Lab 学術役員)  
 ・土居裕和先生 (長岡技術科学大学 工学研究院 情報・経営システム系 准教授)  
 ・柴内裕子先生 (赤坂動物病院総院長 / 公益社団法人 日本動物病院協会 (JAHA) 相談役)  
 ・加藤元先生 (ダクタリ動物病院 総合院長 / コロラド州立獣医科大学客員教授 兼 アンバサダー)  
 ・鳥村俊介先生 (大阪公立大学 生命環境科学域 小動物臨床医学 准教授)  
 ・木下美也子先生 (グリーン・チムニーズ&フアーム サム&マイライ・ロス研究所 教育プログラム部長)  
 ・アンドレア・ピッツ先生 (インククルーシブ 教育教授 IU 国際応用科学大学・ドイツ)

**一緒に暮らそう**  
 ・保護動物の譲渡および見学

**一緒に学ぼう!**  
 ・老犬との暮らし方教室 他

**お困りごと**  
 ・獣医師等による電話相談  
 ・来所相談 (予約制)  
 ・お困りごと相談会

**一緒に学ぼう! For Kids**  
 ・獣医師体験プログラム  
 ・いきものといっしょ  
 ・わんにゃん教室 the VR (仮称)  
 ・犬ともだちになろう  
 ・いのちの教育プログラム

**参加してみよう!**  
 ・お散歩診断  
 ・楽しくつづきを学ぼう  
 ・ドッグスポーツにチャレンジ!  
 ・介助犬と歩こう!

実施においては、IAHAIO のガイドラインに沿って、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮する。

《専用ウェブサイト》 「つなぐ」場 「市民交流の場」  
 資料・報告を専用ウェブサイトで提供し、来所できない市民への利便を図る。しつけ教室や飼養相談及びその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供し、センターの成果を活用。市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せる。  
 プラットフォーム構築のため、初年度は「市民を幸せにする動物共生チーム」の登録を開始できる。登録サイトを開設 → 将来的な可能性 (自治体 DX 関連によるアプリ等の IT 技術の活用)

《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》  
 「市民を幸せにする動物共生情報」

《適正飼養アドバイザー会議》  
 ① 共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成  
 ② 上記プログラム実施に向けてのアドバイス (事業者向け研修の実施)  
 ③ 各区での教室・相談に対応できる体制づくり  
 ④ 「こうべ動物共生プラットフォーム」の研修体制の整備  
 [アドバイザー]  
 ・村田香織先生 (獣医師 / 公益社団法人 日本動物病院協会 (インストラクター養成講座委員会 アドバイザー))  
 ・近藤悦子先生 (獣医師 / JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター)  
 ・中塚圭子先生 (人と犬との共生教室「ドルチェカーネ・中塚」主催 / JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター / JKC 公認訓練士)

登録・情報提供  
 参加・相談・交流・支援 (ふるさと納税・ボランティア等)  
 情報収集 (自分の近くにある共生支援情報)

地域との交流機会提供  
 センターを市民に広報  
 《出役・こうべ動物共生センター (出張イベント)》  
 「つなぐ」場 「市民交流の場」  
 防災イベントとコラボし、各区で年1回しつけ教室、相談、センターの業務を市民に知的に実施。センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集。

内外への情報発信

成果のフィードバック (QOL向上)・共生マインドの醸成・災害時の情報提供  
 成果のフィードバック (QOL向上)・共生マインドの醸成・防災の意識向上

ビジネス活用・サービス向上



## ①本事業の全体コンセプト

### 【「IAHAIO白書」全ての事業をIAHAIO白書に沿って実施】

動物とのふれあいを実施するにあたっては、活動に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、当法人がIAHAIO\*の正会員であることから「IAHAIO白書」（IAHAIO White Paper）に沿って行っている。

\*IAHAIO=International Association of Human-Animal Interaction Organizations

人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国のDelta Society（現PetPartners）、フランスのafirac、イギリスのSCASが中心となって1992年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としている。

#### 《IAHAIO白書》

#### IAHAIO動物介在介入の定義とAAIに係る動物の福祉のガイドライン

IAHAIO白書では、『**動物介在介入 Animal Assisted Interventions (AAI)**とは、動物を意図的に取り入れまたは編入された人の治療効果のための目標設定がされて構成されている健康、教育、人的サービス（例：社会福祉事業）への介入である。関係する人や動物に関する知識を持っている人が関与している。動物介在介入は、動物介在療法（AAT）や動物介在教育（AAE）、動物介在活動（AAA）等正規の人的サービスに、人と動物のチームを組み込んでいる。さらに動物介在指導（AAC）もこれに含まれる。これらの介入は学際的アプローチによって開発、実施されなければならない。』と定義されている。

AAIに参加している人と動物の福祉を守るために、人の福祉、動物の福祉についてそれぞれガイドラインが定められている。

#### 人の福祉（抜粋）

- ・クライアントの安全対策がなければならない。専門家はAAIに関わっているクライアントのリスクを軽減しなければならない。クライアントに動物種や品種のアレルギーがないことを確認し、人によってはリスクが高いことやリスクの種類（例：免疫抑制された患者の感染、動物を通じて人から人に感染する疾患等）による除外の基準の認識を持っていなければならない。
- ・動物のハンドラーは、関係している受益者に必要なケアを理解しなければならない。AAIにおいて人に応じて起きる状況についてもトレーニングを受けている方がよい。

#### 動物の福祉（抜粋）

- ・適切な性質をもち適切なトレーニングを受けた動物のみがAAIに選ばれるべきである。
- ・動物と活動するハンドラー及び専門家は、動物の不快感やストレスのサインを読み取ることも含め、福祉を確保するための動物のニーズについて学び、トレーニングを受けていなければならない。
- ・介入中の動物の福祉に責任がある専門家は、活動中そして終了後も、動物が健康で、適切に休め、快適で、世話を受けられることを保証しなければならない（例：水の提供、動物に安全で適切な床材）。動物に過剰な作業を要求してはならないので、活動時間は制限しなければならない（30～45分間）。
- ・適切な獣医学的なケアを提供しなければならない。AAIまたはAAAに参加する動物は、選定の過程において、また定期的にも獣医師による検査を受けなければならない。
- ・人と動物の共通感染症を防ぐため、適切な手段をとらなければならない。専門家は動物に最低年一回は獣医師免許保持者による適切なワクチンの接種、寄生虫の予防を受けさせなければならない。





## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【電話対応・来所者対応・メール対応】

2023年4月～2024年3月相談・問合せ集計

相談・問合せ			電話・来所			カテゴリー		
合計	431		合計	431		合計	431	
相談	129	29.9%	電話	372	86.3%	飼犬	43	10.0%
問合せ	302	70.1%	来所	17	3.9%	飼猫	47	10.9%
			メール	42	9.7%	寄付	43	10.0%
						健康	1	0.2%
						事業	28	6.5%
						施設	11	2.6%
						譲渡	107	24.8%
						野良犬	7	1.6%
						野良猫	89	20.6%
						ボランティア	3	0.7%
						その他	52	12.1%

		電話	来所 (しつけ以外)	メール	相談 件数	問合せ 件数
令和5年	4月	26	1	4	10	21
	5月	24	6	6	18	18
	6月	32	3	5	12	28
	7月	32	1	6	6	33
	8月	33	0	6	14	25
	9月	37	1	2	7	33
	10月	40	1	2	10	33
	11月	23	1	3	9	18
	12月	35	0	0	10	25
令和6年	1月	23	1	1	3	22
	2月	31	1	1	13	20
	3月	36	1	6	17	2
<b>合計</b>		<b>372</b>	<b>17</b>	<b>42</b>	<b>129</b>	<b>278</b>

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 令和5年4月～令和6年3月までの電話・来所・メールによる相談・問合せ内容

#### ◎飼い犬に関する相談

- ・後期高齢者の方より、夫が亡くなり高齢のシュナウザーを飼っているが、一人で世話は難しくなってきたので、飼ってもらえる人に譲渡してほしい。
- ・未去勢のオスを飼っているが、その後飼ったメス犬に咬みつきにいき、それを止めようとした自分たちも咬まれる。どうしたら良いか。
- ・入院された方の家に犬がいる。預かってもらうか実家まで犬を運んでもらえないか。

#### ◎飼い猫に関する相談

- ・自分の家で飼っている猫を引取ってもらいたい。
- ・母が猫を2匹飼っているが、認知症で施設に入所することになった。自分が猫の面倒を見ようと思っているが、移動の手段がない、どうしたら良いか。

#### ◎野良猫に関する相談

- ・庭に猫が子どもを生んでいる。引き取りしていないか。
- ・地域猫の世話をしているが餌代も上がりやれなくなっている。そちらで世話をして貰えるか。もしくは自分に何かあった場合には面倒みてもらえるか。
- ・子猫を2匹保護した。病院が休みのためどうしたら良いか。

#### ◎譲渡に関する相談

- ・子猫はいるか。
- ・白猫がほしい。
- ・HPに譲渡会とあるが、子犬もいるか。
- ・ところが気になって電話した、譲渡の流れを聞きたい。

#### ◎その他の相談

- ・子どもがコンビニの駐車場で狸の子どもを拾って帰って来てしまった。どうしたら良いか。
- ・道ばたでカラスが飛べなくなっていてうずくまっている。どうしたら良いか。
- ・中央区で犬が迷子とチラシが入っていた。鈴蘭台で目撃情報があったと書いていたが、ここで獣医さんが散歩させている犬に似ているが、その犬ではないか。
- ・西区竹の台で民家の庭にあまりにも痩せ細って骨と皮だけのゴールデンレトリバーがいる。かわいそうなので保護して貰えないか。

飼い犬、飼い猫の相談では、高齢や病気による飼い主の死亡、入院、施設への入所のための引取り相談が過半数を占める。また、季節的なことと言うと野良猫が子猫を産んでいるので引き取って貰いたいという相談も多い。猫に関しては圧倒的に野良猫の相談が多く、相談を受けても共生センターではどうにも対処できないということも多々ある。市民ひとりひとりの課題解決のためには、それに応じたフォローが必要であるため、適切な窓口に繋ぐなど、電話での相談対応についても相談内容を丁寧にお伺いすることで、問題解決の糸口となるよう真摯に対応したい。



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 《見学・視察対応》

施設や事業の見学・視察依頼が多くあり、所管の環境衛生課と共に対応にあたった。休館日である火曜日のKnotsスタッフ不在時の対応や、神戸市ご関係者への施設案内・事業説明等は、環境衛生課での対応をお願いした。

- ・ 4月22日（土）一般社団法人ネコノタメナラ代表理事大津様来訪
- ・ 4月26日（水）神戸市健康局保健所保健課荻野部長、食品衛生課為国課長、富田係長来訪
- ・ 4月30日（日）ガールスカウト見学
- ・ 5月11日（木）神港橘高校 課題研究見学（財田様）
- ・ 5月26日（金）セラピー研究フィールドアドバイザー土居裕和先生来訪  
動物管理センタートライやるウィーク学生来訪  
あかし動物センターより2名来訪
- ・ 7月27日（木）北海道紋別市より市議会議員3名来訪
- ・ 7月28日（金）葺合高校生(マツイ様) 職員へインタビュー来訪
- ・ 8月 5日（土）三木東高校生 職員へインタビュー来訪
- ・ 8月 6日（日）千葉県より高校生来訪
- ・ 11月9日（木）兵庫県弁護士会様来訪
- ・ 12月1日（金）公益財団法人福岡県動物愛護センター 業務課長佐野様来訪

### 【令和6年】

- ・ 1月10日（水）長崎市議会議員様来訪
- ・ 1月28日（日）鹿児島県動物愛護センター様来訪
- ・ 1月31日（水）共同通信社神戸支局白石記者来訪
- ・ 2月19日（月）仙台市動物愛護センター職員様視察
- ・ 3月15日（金）関西国際学園中等部来訪



ガールスカウト様 見学の様子

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 《取材対応》

各メディアの取材依頼に対して、所管の環境衛生課、譲渡動物の飼養管理を受託されている公益社団法人神戸市獣医師会の皆様と共に対応にあたった。

令和5年 9月24日	(日)	サンテレビ
令和6年 1月21日	(日)	サンテレビ NHK総合
1月31日	(水)	共同通信社
3月7日	(木)	神戸新聞
3月20日	(水・祝)	共同通信社

### <取材の様子>



令和6年1月21日 サンテレビ



令和6年1月21日 NHK

### <専用ウェブサイトで取材情報を配信>

お知らせ

2024.01.22

## 「防災わんにゃんフェスタ」がテレビで紹介されました

1月21日（日曜）、こうべ動物共生センターにおいて「防災わんにゃんフェスタ」を開催し、テレビ局に取材に来ていただきました。その様子が以下の番組で紹介されました。

1月21日（日曜）18時～ サンテレビ「ニュースSUNデー」

[防災わんにゃんフェスタ ペットと暮らす神戸市民に向けて](#)

1月21日（日曜）18時45分～ NHK総合 ニュース・気象情報（関西）

[神戸 ペット飼っている人の防災対策を考える催し](#)

お時間のある方は、是非ご覧くださいね！



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【ふれあい室の開放】

各種プログラム等の事業で使用しないときは、一般市民に向けて開放している。室内での食事は出来ないが水分補給については可能として自由に利用できるようにしているが実利用されていないため、随時、絵本を補充し、事務室に来られた方や犬猫の見学に来られた方に利用の案内を行った。来年度については市民参加型の常設展示を行う等、来所してもらええる工夫を考えている。



ふれあい室の開放中がわかるように、入口に「開放中」と掲示し、利用を呼びかけている。



防災わんにゃんフェスタで展示した資料については常時展示し、市民への啓発に活用した。



主に、動物関連の絵本や小説などが並べられている。誰でも自由に読むことができる。

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【専用ウェブサイト】

共生センターの事業については、資料・報告を専用ウェブサイト上で提供し、来所できない市民への利便を図り、国内外への情報発信を行っている。

サイト内では、「こうべ動物共生センター」の事業運営に関するコンセプトの下に、譲渡動物の紹介や教育・啓発・研究に関する教室やプログラムの告知と報告を行っている。

こうべ動物共生センター ウェブサイト <https://kobe-chai.jp>

#### 【サイトの構成】

##### 《こうべ動物共生センターとは》

- ・ こうべ動物共生センターとは？
- ・ セラピー研究フィールドアドバイザー
- ・ 適正飼養アドバイザー会議
- ・ IAHAIOについて
- ・ 事業報告

##### 《一緒に暮らそう》

- ・ わんちゃんの紹介
- ・ ねこちゃんの紹介

##### 《一緒に学ぼう！》

- ・ 和犬教室
- ・ 老犬との暮らし方教室
- ・ 教室実施報告
- ・ 人と動物の共生の歴史
- ・ 5 Freedomsとは？

##### 《一緒に学ぼう! For Kids》

- ・ 獣医師体験プログラム
- ・ 犬とともだちになろう
- ・ いきものといっしょ
- ・ 「いのちの教育」プログラム
- ・ VRで体験！犬猫とのくらし
- ・ 実施報告

##### 《お困りごと》

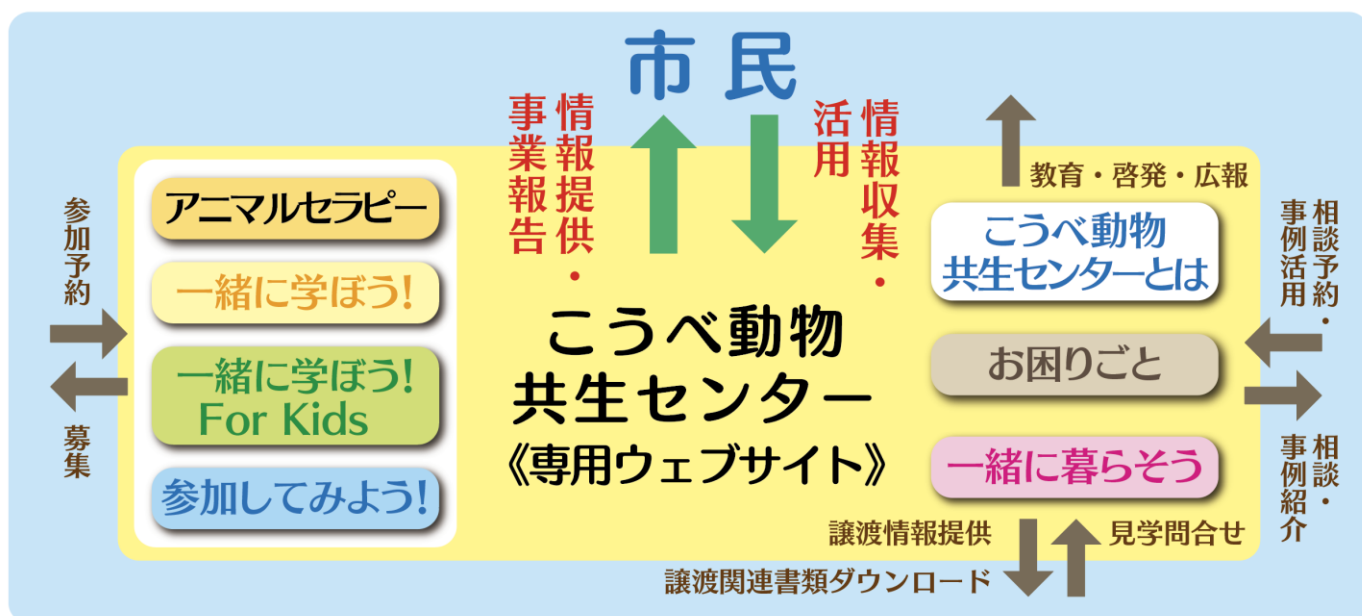
- ・ 来所による相談／子犬のしつけ方相談会
- ・ 獣医師による電話相談（健康相談／問題行動相談）

##### 《参加してみよう!》

- ・ お散歩診断
- ・ 楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！
- ・ 教えて！介助犬
- ・ 実施報告

##### 《アニマルセラピー》

- ・ わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）
- ・ わんちゃんお出かけセラピー
- ・ 研究報告





## ②センターの管理・運営に関する業務

令和3年10月の正式オープンより、情報発信において「こうべ動物共生センター」専用ウェブサイトは大きな役割を果たしており、神戸市内、市外に共生センターの存在意義と事業内容の認知が進んでいる。

令和5年度、**年間アクセス数は107,835（1日平均約300）**。

ウェブサイト上には、《こうべ動物共生センターとは（市民への教育・啓発）》《一緒に暮らそう（譲渡動物の紹介）》《一緒に学ぼう！（大人・子どもが参加できるプログラム）》《お困りごと（市民の相談窓口）》《参加してみよう！（市民参加プログラム）》などワンストップサービスの窓口としての機能が掲載されている。

各事業の実施報告では、実施の様子や相談事例などをわかりやすく掲載している。

このように、専用ウェブサイトはセンターに足を運ぶことができない市民との重要なコミュニケーションツールとなっており、オンラインでの予約制度や情報発信は、行政と市民とをつなぐ「“つなぐ”場」「市民交流の場」への有用な役割を担っている。

### 【トップページ（部分）】



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【プログラムレポート】

実施した事業の報告は「プログラムレポート」として、実施後速やかにレポートを作成し、環境衛生課の確認後、専用ウェブサイトに掲載している。トップページでは、常に最新のプログラムレポートにアクセスでき、各事業のページにおいても、事業ごとにレポートを確認できるようにしたり、過去の実施報告についても、専用ウェブサイト内の複数のページからアクセスしやすいように工夫している。

各事業のプログラムレポートを市民に見ていただくことは、それぞれの事業内容について知っていただく機会となり、参加申込にもつながっているだけでなく、参加された方がレポートを楽しみに見てくださっているというお声掛けをいただくこともある。

このように、事業の成果を市民にフィードバックすることで、市民ひとりひとりの課題解決につなげ、市民とのコミュニケーションの手段としても重要な役割を果たしている。

### プログラムレポート

≡ レポート一覧



令和5年度「わんちゃんお出かけセラピー」(3月27日)

2024.03.27

わんちゃんお出かけセラピー



令和5年度「いきものといっしょ」(3月27日)

2024.03.27

いきものといっしょ



令和5年度「教えて!介助犬」(3月20日)

2024.03.20

教えて!介助犬



令和5年度 獣医師体験プログラム「人と共に生きてきた馬について」(3月17日)

2024.03.17

獣医師の世界を体験しよう!

#### 令和5年度「和犬教室」(12月9日)

12月とは思えない暖かな土曜日です。

近藤悦子先生をお招きして「和犬教室」を開催しました。「和犬教室」は、「自立心旺盛」「頑固」「警戒心が強い」といわれる特性を持った柴犬等の日本犬を対象としたしつけ方教室です。



講師 近藤先生

当日参加の犬は2匹。同じ7ヶ月の柴犬の子犬です。

まず、自己紹介の後、良い所と困っているところをそれぞれが話し、それを踏まえながら園内の散歩に出ました。

2匹とも人も犬も大好きな子犬たちですが、まだまだ子犬のためとても元気で、ゲイガイと引っ張ってしまうそうです。

散歩の途中では、2匹とも同じ月齢ということで2匹で元気に遊びました。

子犬にとって同じような月齢、年齢の犬同士で遊ぶ経験も成長には大切です。

しつけや遊びなど、指導の場を通じてお互いの心と心を通わせ、関係を築いていくことが大切です。

来所できない市民に対する利便を図り、開館時間内外を問わず各種プログラムの参加申込や問い合わせフォームによる相談受付が可能となっている。

事業の参加希望者が開催日程を確認できるだけでなく、実施内容のレポートの掲載を楽しみにしておられる方も多く、何ヶ月先の開催を楽しみにしているという声を数多く耳にする。

また、事業の参加者だけでなく、講師や協力ボランティアなどプログラム提供側も事業の実施レポートを楽しみにして下さっており、参加者と実施者が相互に共通の情報を享受できる場を提供している。

市民に有益で正確な情報を一早くお届けできるよう、引き続き尽力していきたい。



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【来所相談の事例報告】

申元レポート 2023.05.31

令和5年度「来所相談」(5月)

実施実績: 5月8日(水曜・祝) 1件

相談犬種: ボーダーコリー (6ヶ月オス)

「・お散歩に出る時、急に興奮し走り回って飛びつくことがある ・興奮環境をどのようにしたら良いか」という内容のご相談。

貴族の家での飼育状況をお聞きし、ボーダーコリーの犬種の特性をお伝えした上で、アドバイスをお伝えいたしました。ボーダーコリーは運動量がとても必要な犬種です。

運動が足りていなかったりすることで、ストレスが溜まり常態興奮・問題行動が出ることもあります。また、まだ6ヶ月の子犬は人懐の年齢に換算すると小学生の中学生くらいの活発な時期で、いろいろなことを吸収する時期でもあります。

まず、一緒に室内を歩かせる散歩時には、常にリードを短く持ち歩かせるのではなく状況を見ながら長さも変えるということをお勧めしました。興奮する場合は、散歩に出る前にまず家でボール遊びなどをしてすこし落ち着いてから散歩にでもお伝えしました。



何かをするときには必ず「座れ」のコマンドを出してから行うことや、遊びで噛んで来たときなどの対処の方法、家の中でも楽しくストレス発散できる方法や頭を使いながら楽しめるノーズワークなども併せてお伝えしています。とにかく好奇心旺盛で運動が大好き、人懐が大好きなボーダーコリーなので、人との生活が楽しめることができれば良いですね。

申元レポート 2023.09.30

令和5年度「来所相談」(9月)

実施実績: 9月6日(水曜)

相談犬種: ラブラドル・レトリバー (10歳オス)

今回の相談は、「飼い主のお母さんがコロナ感染した後、涙をすると泣けてしまう。家でもお母さんのことだけ避け、一緒に散歩に行きたがらない」という内容です。

お話を伺った後、まずは、一緒に公園を歩いてみました。



ここでは、嫌がるそぶりも見せず、カンクンといろいろな匂いを嗅ぎながらお母さんと一緒に歩いていました。

家庭での様子をお聞きし、朝のご飯についてはお父さんがあげているということでしたので、お母さんが朝夕のご飯をあげることにしてみても、再度、信頼関係を築いてみてはどうかとアドバイスさせていただき、犬の嫌がることをしない(嫌がる場所に行かない)なども併せてお伝えしています。

また、今年の夏の暑さは尋常ではなく、散歩に行きたがらないのは気候や年齢的なことも影響している可能性もあるため、お母さんの体調が戻り、少し涼しくなり散歩しやすくなるまで様子を見て、それでも散歩に行きたがらない状況が続くようなら、再度ご相談いただくことにしました。

その他、「教育・啓発・研究」の教室・プログラムの実施報告は、本報告書のP.24～89を参照。

毎月2回、しつけや困りごとの相談に対して専門家による来所相談を受けている。個人情報に配慮しつつ、来所相談の様子なども発信することで市民がサイトを通して同様の事例を学ぶことができる。また、来所相談日がわかるように、事務室前など複数の箇所に来所相談の案内を掲示している。

通常に来所相談に加え、4ヶ月齢までの子犬の「社会化期」の様々な経験が今後の成長に大きく影響してくることを鑑み、今年度も「子犬のしつけ方相談会」を昨年度に引き続いて実施した。日常的に「子犬を飼い始めたがしつけ方がわからない」「トイレトレーニングができない」という相談も入るため、令和6年度は回数を増やして子犬のしつけ方に関する相談会を実施する。各地域でも同じプログラムが受講できるよう、将来的な《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を目指し、プラットフォームに参加する事業者対象の研修として「パピー教室」を開催する準備を進めていきたい。



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【譲渡動物紹介】

**こうべ動物共生センター**  
で会えるわんちゃん



メリー ♀  
募集中



ジェット ♂  
募集中



シェーン ♂  
おためし飼育中

**こうべ動物共生センター**  
で会えるねこちゃん



とく ♂  
募集中



〇次郎 ♂  
募集中



リズム ♀  
募集中



むつみ ♀  
募集中

#### 譲り受けを希望する方の主な条件 (令和5年1月16日から)

- 兵庫県内に在住していること。
- ペット飼育可能な家に居住していること。\*
- 申請者が申請日において、18歳以上であること。\*
- 犬の飼育に関して、同居家族全員の同意があること。
- 将来引越し、転勤等の可能性があり、犬が飼えなくなる恐れがある場合や単身世帯で動物の飼えなくなった場合に、その犬の飼育を任せられる人がいること。\*
- 現在、犬猫合わせて3頭以上飼育していないこと。
- 譲り受ける犬の繁殖制限対策（不妊去勢手術）を行うことに同意すること。
- 現在、犬を飼育している場合は、狂犬病予防法に基づく登録及びその年度の狂犬病予防注射を受けていること。

\*の項目に関しては詳細な条件がありますので、以下の案内をご覧ください。

[わんにゃん譲渡制度の案内〔犬〕 \(PDF\)](#)

#### 譲渡の流れ



\*申請書等（申請書・確認シート・誓約書）はwebまたはこうべ動物共生センターの窓口で入手できます。必要事項を記入の上、こうべ動物共生センターに提出してください。

申請書等： [PDF](#) [EXCEL](#)    確認シート： [PDF](#) [EXCEL](#)    誓約書： [PDF](#) [WORD](#)

譲渡の詳細な流れにつきましては、[わんにゃん譲渡制度の案内〔犬〕 \(PDF\)](#)をご覧ください。

譲渡犬・猫の紹介ページにおいては、譲渡動物の飼養管理を受託している（公社）神戸市獣医師会のスタッフと情報交換を行いつつ、種別、年齢、体重といった基本情報のほか、性格についても記載している。

また、譲渡動物の状況についても、日常の様子がわかる動画をアップするなど、個体の特徴や情報がより伝わるよう工夫をしながらのPRに尽力している。

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【《一緒に学ぼう！》人と動物の共生の歴史のページ】

The screenshot shows the 'History of Human-Animal Interaction' page. It features a navigation bar with search and language options, and a main content area with several sections:

- 人と動物の共生の歴史 HISTORY**
- 支配から共生へ～動物園をめぐる人と動物の交流史**

私達に身近な動物といえば、犬や猫などのコンパニオンアニマル（伴侶動物、いわゆるペット）だが、その他に馴染み深いものが動物園の動物である。本稿では、歴史学者の清井祐一氏を始めとする専門家の著述に導かれつつ、動物園の世界史を概観し、動物園を通じた動物と人間の関わり方について考えてみたい。

**私たちの動物コレクション～支配する人間と支配される動物**

動物園の歴史は、メソポタミアや中国など、古代文明の動物コレクションまで遡ることができる。例えば、イラク北部を支配したアッシリア帝国では、アッシュールバニパル王（紀元前7世紀）が、王都ニネヴェでメソポタミアライオンを飼育していたことが知られている。王はまた、ゾウやダチョウを飼っては、飼育して見世物にしていたという。古代の王たちは、征服地から猛獣や珍奇な動物を集めることで、自らの富や権力を誇示したのだった。

こうした動物コレクションは、その後世界各地で作られ続けた。中世や近世のヨーロッパでは、動物コレクションはメナジェリーと呼ばれ、動物たちを調べる娯楽的なショー「アニマル・コンバット」も頻りに行われていた。太陽王と呼ばれたフランス王ルイ14世（1638～1715年）は、ヴェルサイユ宮殿の敷地内に、広大なメナジェリーを造営した。園全体を展望するパヴィリオンを中心に飼育エリアが敷設され、種族地などから集められた多種多様な動物が収容された。このメナジェリーは、アニマル・コンバットこそ行われなかったものの、世界のすべてを手中に収めようとする、ルイ14世の絶対的な権力を象徴するものだった。

こうした、古代から近代に至る動物コレクションは、あくまで人間とは異なる野生動物を、人工的な施設に収容し、飼いならし、鑑賞するという、人間による一方的な「支配をあらわす場」（清井氏後掲書20ページ）として機能していたのである。
- 動物園の誕生～分類・研究される動物たち**

17～18世紀に博物学（自然界の動植物や鉱物を体系的に分類・研究する学問）が進展すると、メナジェリーを管理し、動物を科学的に観察し理解したいという、博物学者らの運動が盛んになっていった。この流れを受けて、現代につながる「動物園」（zoological park: 動物学公園の意味）が、フランス革命（1789～1799年）さなかのパリで誕生した。「ジャルダン・デ・プラント」と呼ばれたこの動物園は、収集した動物を科学的に研究することを目的として設立された。これに対抗するように、イギリスでは、1828年にロンドン動物学会によってロンドン動物園が設立された。当初は入園に学会の許可が必要だったが、後に一般公開されると、一層市民の人気スポットとなった。ヨーロッパで生まれた動物園は、19世紀のうちに海を渡り、アメリカ合衆国と日本で続々と開園された（日本最初の動物園である上野動物園は1882年開園）。

しかし、当時の動物園では、動物は分類にしたがって展示され、本来の生態や生息地はそれほど意識されていなかった。そのため、飼育環境が合わず、動物が短期間で命を落とすこともしばしば起きたという。また、戦争の戦利品として略奪した動物を動物園に収容するなど、領土・植民地の拡大と主導権争いに明け暮れていたヨーロッパの国際情勢が、園の運営にも少なからず反映されていた。
- 展示手法の革新～造られた動物パラダイス**

20世紀に入り、それまでの常識を覆す飼育・展示手法がドイツで生まれた。1907年に開園したハーゲンベック動物園は、「無網放牧式」という新しい飼育スタイルを採用した。そこでは、動物たちは檻に閉じ込められることなく、広い空間を自由に動き回ることができた。さらに、ハーゲンベック動物園は、この飼育方法を展示にも巧みに応用した。放し飼いにした様々な種類の動物を、視界全体に覆って配置する「パラダイム」という展示装置を編み出したのである。

このパラダイムでは、「手前にはライオンが雄叫ぶような地がある、そのバックにはシマウマやヤギやイノシシなど草食動物がいる。さらにその奥にはライオンたちが寝るような寝るべり、寝る背後に巨大な崖山がそびえ、そこをハイパーコーストが雲を突き抜けている」（清井氏後掲書、110ページ）というように風景を演出することができた。この革新的な展示手法は評判となり、各地の動物園で模倣された。日本では、名古屋の東山動物園が、このパラダイム方式の影響を受けた展示手法を採用している。

ただ、ハーゲンベック動物園のパラダイムは、実際の自然を再現したものでなかった。地球上のあらゆる地域の自然を再現した敷地内で表現する。という野心的な方針のもと、生態も生態地も異なる動物たちが、平和裏に共存するように演出されていた。それは世界中のどこにも存在しない、いわば人工の動物パラダイスだったのである。
- 戦争と動物園～人間に翻弄される動物たち**

2度の世界大戦は、動物園にも深刻な影響を及ぼした。空襲によって破壊された動物園から、猛獣や大型動物が市中へ逃げ出すことを恐れ、各国で多くの動物が殺処分された。名作絵本「かいりき豆」で描かれた、上野動物園の3頭のゾウの痛ましいエピソードは特に有名である。

一方で、動物園の生き物は、戦意高揚のための愛国的活動にも利用された。例えばロンドン動物園では、雄鶏先から園に帰ってきたパンダが、空襲を恐れない勇敢な動物としてポスターに描かれ、食糧増産のためにゾウが卵を産したりもした。戦争は、支配する人間と、支配される動物という、それまでの動物園に潜んでいた関係を、この上なくはっきりと浮き彫りにしたのである。
- 飼育環境の改革～「動物の権利」運動とニュータイプの動物園**

第二次世界大戦が終わると、動物園は急速に復興していった。終戦から1960年代にかけて、世界中で何百もの動物園・水族館・動物系テーマパークが開園した。特に日本とアメリカは突出して多く、それぞれ50～60施設も誕生した。

この時期は、戦前から進んでいた、動物園のレクリエーション施設化が進展した。動物の姿を売り物にするアニマルショーが盛んに行われ、子供の動物への愛情を育むというねらいから「子供動物園」も相次いで開設された。上野動物園で

清水 智樹先生（京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点（WPI-ASHBi）特定講師・博士（文学））による、人と動物の共生の歴史「支配から共生へ～動物園をめぐる人と動物の交流史」や、国際的な動物福祉の指針である「5 Freedomsとは？」を紹介し、「人と動物の共生」について広く市民が考えることができる内容を紹介している。

The screenshot shows the '5 Freedoms' page. It features a title '5 Freedomsについて' and a list of five freedoms with their descriptions:

- 5 Freedoms (ファイブ・フリーダム (5つの自由)) とは？**

5 Freedomsとは、家畜の適切な飼育状況の指針として1960年代の英国で提唱された理念が起源とされています。理由では、人間の嗜好品である畜産品の動物を対象として、それらの動物が「精神的、肉体的に満たされている」ことが保証されている動物のことです。

動物も人間と同様に、たったひとつの「いのち」を生まれ、健康や感覚をもち合わせています。また、それぞれの動物の種類ごとに生態習性、精神面などで基本的な需求（ニーズ）があります。人間の管理下ではそれらのニーズが満たされないことが多く見受けられます。そうした状況を解消し、出来る限り自然な暮らしの生活を送るようできる環境を提供するための責任を明確にするのが、動物への福祉の指針となるべきだと考えられています。

こうべ動物共生センターでは、国際的な動物福祉の指針である5 Freedomsの理念を尊重して事業を行っています。
- 5つの自由、動物福祉の指針 The Five Freedoms for Animals**
- 1. 飢えと渇きからの自由 Freedom from Hunger and Thirst**
  - 健康でいられるための十分な食料が与えられているか。
  - 新鮮で清潔な水がいつでも飲める状態になっているか。
- 2. 不快からの自由 Freedom from Discomfort**
  - その動物に適したペレットが提供され、自由に移動する飼育環境にあるか。
  - 飼育環境が清潔に保たれているか。
  - 風湿や気温などにさらされていないか。
  - きつすぎる首輪をしていない、怪我をしったりする危険な環境にいないか。
- 3. 痛み・傷害・病気からの自由 Freedom from Pain, Injury or Disease**
  - 痛みにならないよう麻酔管理がされているか。
  - 病気や怪我、もしくは怪我の兆候が検出していないか。
  - 病気や怪我、治療の兆候があれば、十分な獣医診察が受けられる環境にあるか。
- 4. 正常な行動を表現する自由 Freedom from Distress**
  - 正常な行動するための十分な空間や適切な環境が与えられているか。
  - その動物固有の習性に応じて、群れあるいは単独で飼育されているか。
- 5. 恐怖や強圧からの自由 Freedom from Fear and Distress**
  - 恐怖や精神的苦痛、不安や過度なストレスなどがもたらしている兆候を示していないか。
  - それらの兆候があらば原因を調査し、飼育環境が改善されているか。

参考文献： 清水 智樹先生 | 人と動物の共生の歴史のページ (ウェブページ)

今後も、国内外の専門家の知見を含めた情報やレポートなどを掲載し、市民ひとりひとりが「人と動物の共生」について考える機会を提供し、共生センターの事業への参加や共生への意識向上のきっかけを与えていきたい。

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【犬猫譲渡制度等の補助】

譲渡事業については、譲渡動物の飼養管理（公益社団法人神戸市獣医師会受託）を除く業務のうち、以下の業務を行った。

受付事務の対応において、希望者の方々へわかりやすい説明を心がけた。**申請に関する書類は全てウェブサイトからもダウンロードできるように対応しており、申請書類の郵送希望の方に対しては郵送対応するなど、譲渡希望者の利便を図っている。**

- ・ **譲渡申請書類受付**（センター窓口、メール、郵送、FAXによる対応）

犬猫の譲渡申請希望者に対し、譲渡までの流れと申請書の書き方、添付書類（誓約書・管理規約）の有無、確認シート記入等について説明を行い、記入した書類の確認後、受付印押し（公社）神戸市獣医師会に引き継ぎ、神戸市動物管理センターに提出した。

- ・ **譲渡見学会受付**（センター窓口、電話、メールによる対応）

犬猫の譲渡申請希望者に対し、犬猫の見学会参加希望日を聞き取り、予約を受け付けた。参加日当日は窓口にて案内業務を行った。譲渡申請希望のない市民に対しても、見学希望があった場合、犬猫譲渡制度について説明を行い、確認シートの記入を行った後、譲渡見学会について案内した。今年度は、5月、6月、3月に午後の時間帯のみ、神戸市動物管理センターでの見学が実施され、共生センターでの見学同様、予約受付を行った。

- ・ **譲渡前講習会受付**（センター窓口、電話、メールによる対応）

犬猫の譲渡申請書類を提出後に神戸市の審査を終え、譲渡可否決定通知書の届いた市民からの講習会受講希望日時を聞き取り予約を受け付けた。参加日当日は会場であるふれあい室のテーブルセッティングやモニターの準備なども行い、案内業務にもあたった。

- ・ **お試し飼育、正式譲渡等の日程調整受付**

譲渡前講習会終了後、譲渡希望者に対してはお試し飼育開始日の相談、正式譲渡希望者には正式譲渡の日程について希望日時を聞き取り、譲渡動物の飼育管理を行っている（公社）神戸市獣医師会と日程調整を行うなどの受付業務を行った。お試し飼育期間の延長等の希望があった場合には希望をお聞きし、（公社）神戸市獣医師会とその都度対応を行った。



## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【犬猫譲渡制度等の補助】

#### ・ 広報補助

譲渡制度の周知についても専用ウェブサイトは重要な役割を担っており、譲渡制度や譲渡動物の情報を掲載するだけでなく、譲渡動物の情報の更新などもまめに行った。また、神戸市で管理するInstagram、デジタルサイネージに掲載する譲渡動物の写真等の情報提供を行った。デジタルサイネージについては、専用ウェブサイトに掲載されている譲渡動物の情報や参加可能な事業に関するチラシ画像、神戸市人と猫との共生推進協議会のPR動画等を盛り込んだ内容を掲示しており、デジタルサイネージの仕様に合わせたデータ作成も行っている。さらに、人通りが多い事務室前に譲渡動物の写真を掲示、譲渡動物情報のチラシの作成、しあわせの村本館や温泉健康センターにもチラシを置いてもらうなど、より市民に譲渡情報が行き届くように対応している。時間外や休館日も情報を確認できるようにし、多くの来場者に見ていただけるよう工夫している。

#### 譲渡動物一覧



サイネージの譲渡動物情報



今年度より、毎月1回月初に神戸市動物管理センターから（公社）神戸市獣医師会事務局に最新の譲渡動物一覧を送付し、会員病院での掲示等を行うことになった。最新のデータを当法人職員が作成している。



事務室前の譲渡動物情報

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【業務従事者関係】

#### 《人員配置》

常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ3名で人員配置を行った。平日は2名体制とし、会議日や各事業実施日においては必要に応じて増員し、業務時間内に欠員が生じないようにした。また、各事業実施日においては、当法人のボランティア登録制度を活用し、ボランティアの方々にも「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」「犬とともにだちになろう」等の事業運営にご協力いただいた。

超短時間雇用については、就労継続支援（B型）事業所の継続利用が可能であることから、当法人の障害者自立支援事業の連携先であるNPO法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B型）事業所Patch との連携が認められており、Patchと同じ法人の就労継続支援（B型）事業所ころわの利用者である軽度の知的障害者の方を雇用している。事務室前トイレや共生センターふれあい室等清掃の業務を担当、体調不良による欠勤が一度もなく、丁寧な清掃作業により清潔を保つことができている。

#### 《研修の実施》

業務に従事するスタッフに対し研修を実施し、委託内容に関する技術向上に係るスキル向上に努めた。今年度実施した研修は以下のとおりである。

#### ◎令和5年11月9日（木）「いのちの教育」研修会

奈良県と当法人共催の「いのちの教育」研修会に、共生センター出務者以外のスタッフ全員が参加した。この研修への参加は、共生センターの事業として実施している「いのちの教育」プログラムの実施スキルの向上を目的としている。

奈良県うだ・アニマルパークで開催のこの研修には、全国の自治体職員や教育関係者が参加しており、意見交流の場では、こうべ動物共生センターで実施している「いのちの教育」プログラムについて報告を行った。



#### 《来所者に対する安全管理》

- ・1月26日（金）

神戸市動物管理センターで実施された消火訓練にスタッフが1名参加

- ・2月21日（水）

神戸市消防局が実施する応急手当定例講習会（普通救命コース）をスタッフが1名受講

## ②センターの管理・運営に関する業務

### 【しあわせの村の他の事業との連携協力】

#### ◎会議への出席

こうべ動物共生センターは、しあわせの村内の営業施設として、以下の4つの会議への出席が求められている。

##### ①しあわせの村会議

しあわせの村会議とは、村内医療・福祉施設及びしあわせの村運営共同事業体（JV）の代表者により組織し、令和2年度に発足した。神戸市（しあわせの村リニューアル検討有識者会議提言）が目指すソーシャルインクルージョンを村で実現する取り組みに向けた連携と意見交換の場である。上記の委員のほか、営業施設、運営事業者がオブザーバーとして参加しており、Knots（共生センター管理者）もオブザーバーとしてオープン後の令和3年度第2回の会議より出席させていただいている。また、毎月事業開催予定や来場者数等の報告を行っている。

令和5年度は開催されなかった。

##### ②しあわせの村広報部会

しあわせの村広報部会とは、村内医療・福祉施設及びしあわせの村運営共同事業体（JV）、営業施設、運営事業者の主に広報担当者が参加し、しあわせの村全体の広報について検討、意見交換をする会議の場である。Knotsは令和3年度第1回の会議より出席。

令和5年度は開催されなかった。

##### ③しあわせの村営業施設 広報担当者ミーティング

しあわせの村営業施設広報担当者ミーティングとは、村内営業施設の販売促進や集客、広報に特化した内容について、各営業施設の広報担当者が参加し、意見交換をする会議の場である。Knotsは令和3年度第1回の会議より出席。令和5年度は2回開催された。

開催日時	議 題
第1回 令和5年7月3日（月） 13:30～14:30 トリム園地 （見学後、あおぞらアミーゴ内）	1. メンバー紹介 2. 施設見学（トリム園地の新しい遊具、工事状況） 3. 各施設のトピックス、予約状況、イベント開催状況等 4. 入村者アンケート結果説明会 （令和4年度しあわせの村入村者アンケート調査結果報告書 が配布された） 5. 今年度のスケジュール 第1回 7月3日（月） 第2回 下半期（秋～冬）
第2回 令和6年3月28日（木） 15:00～16:00 ジャングル温泉 （見学後、本館・宿泊館7階）	1. 施設見学（営業再開するジャングル温泉） 2. 各施設からのお知らせ 3. 入村者アンケート結果について （令和5年度しあわせの村入村者アンケート調査結果報告書 が配布された）



## ②センターの管理・運営に関する業務

### ④しあわせの村まつり実行委員会

しあわせの村内の福祉施設関係団体、近隣地域、ボランティアの参加協力により、広く市民が交流する「しあわせの村まつり」が公益財団法人こうべ市民福祉振興協会職員のみを中心とする実施体制及び企画内容の見直しを図るため、村内全施設の職員等で構成する「しあわせの村まつり実行委員会」が令和2年度に設置された。「しあわせの村まつり」の在り方、今後の方向性等について議論する場であり、Knotsは令和3年度第3回の会議より出席させていただいている。令和5年度は1回開催され、後日出店者説明会も開催された。

開催日時	議 題
第1回 令和5年6月23日（金） 13:30～14:30 （本館・宿泊館7階展望ルーム）	1. 出席者自己紹介 2. 令和5年度しあわせの村まつり（概要）について (1) 第33回しあわせの村まつり～村の小さな夏まつり～（概要） (2) 参加意向について（出店・手持ち花火・その他） (3) 今後の予定 ①出店 ・出店団体募集案内 6月23日（金） ・出店申込締切 7月14日（金） ・出店備品等締切 7月31日（月） ②手持ち花火 ・村内施設利用者向け優先枠 ・一般申込開始 7月21日（金） 3. その他 ・第2回しあわせの村まつり実行委員会 11月頃
しあわせの村まつり 出店者説明会 令和5年7月18日（火） 13:30～14:30 （野外活動センターあおぞら ミーティング室）	・出店日程表の配布 ・主催者が用意する備品等の説明 ・出店内容等連絡フォームの提出について ・現地確認

### ◎しあわせの村の事業・イベント等への参加

しあわせの村（公益財団法人こうべ市民福祉振興協会）より御案内を頂いた事業・イベント等については、可能な限り参加させていただいた。

開催日時	事業・イベント内容
令和5年8月28日（月）／9月16日（土） 17:00～20:00 （野外活動センターあおぞら周辺）	第33回しあわせの村まつり～村の小さな夏まつり～公益社団法人Knotsとして出店し、こうべ動物共生センターの事業PR等を行った。
令和5年10月1日（日） 10:00～15:00 （温泉健康センター体育館）	第34回こうべ福祉・健康フェア こうべ動物共生センターとして出展し、防災関連の展示、啓発活動を行った。
令和5年12月14日（木） 10:30～11:00 （しあわせの村本館・宿泊館エントランスホール）	第12回 こころのアート展 オープニングセレモニー 選考委員の講評・解説を聞き、作品巡覧を行った。

## ②センターの管理・運営に関する業務

### ◎ローンボウルズ場の多目的利用

令和5年度の共生センターの事業では「楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！」でサブコート（練習場）の年間利用を申請していたが、今年度は天候などの理由により利用はしなかった。

### ◎温泉健康センター体育館での事業実施

#### 「第34回こうべ福祉・健康フェア」

主催：公益財団法人こうべ市民福祉振興協会／社会福祉法人神戸市福祉協議会／ふれあいのまちKOBЕ・愛の輸血運動推進委員会／神戸市教育委員会／一般社団法人神戸在宅医療・介護推進財団

10月開催の「第34回こうべ福祉・健康フェア」において、災害時のペットとの同行避難についての啓発や避難場所情報や避難グッズの展示、「ペットとの避難マップ」作成への参加・募集を呼びかけた。

今後もしあわせの村内でのイベントとのコラボレーションをして、共生センター以外の場所での事業実施を進めていきたい。



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

#### 【セラピー研究フィールド】

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外の専門家による研究フィールドを構築している。

調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、当サイト上で提供し、市民の皆様への利便を図ると共に、国内外へ情報発信する。

※実施においては、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、IAHAIO (International Association of Human-Animal Interaction Organizations) の「IAHAIO 白書 (IAHAIO White Paper)」 (P.5参照) に沿って行っている。

#### 《国内アドバイザー》



**中山裕之先生**  
東京大学名誉教授/  
動物医療センター  
Peco獣医療研究所長



**土居裕和先生**  
長岡技術科学大学 技  
学研究院 情報・経営  
システム系 准教授  
(学術博士)



**柴内裕子先生**  
赤坂動物病院総院  
長/公益社団法人  
日本動物病院協会  
(JAHA) 相談役



**加藤元先生**  
ダクタリ動物病院 総合  
院長/コロラド州立獣  
医科大学客員教授兼ア  
ンバサダー



**島村俊介先生**  
大阪公立大学 獣医  
学部 小動物臨床医  
学 准教授

\*グリーンチムニーズ (アメリカ・ニューヨ  
ーク州) とは

AATやAAA等を行う、情緒障害・学習障害等  
を持つ子どもを治療するための長期療養型施設。  
自宅から通学する子どももいるが、半数は寄宿  
舎で暮らし、生活も共にしている。自然や動物  
たちに囲まれた環境の中で、その自然や動物と  
の関わりを通して命あるものを大切に作る心  
を育み、自己肯定感につながる教育を行っている。  
子どもたちは、専門家によるサポートを受けな  
がら、社会復帰を目指す。

#### 《海外アドバイザー》



**木下美也子先生**  
〔アメリカ〕  
グリーン・チムニー  
ズ\*&ファームサム&  
マイラ・ロス研究所  
教育プログラム部長  
/神戸市出身



**Prof. Andrea Beetz**  
〔ドイツ〕  
MA心理学/博士号 (心  
理学) /博士号特殊教  
育) 特別・インクル  
ーシブ教育教授 IU国際応  
用科学大学・ドイツ

アニマルセラピーの一環として「わんちゃん読書会 (R.E.A.D.プログラム)」を実施するにあたり、アドバイザーの先生方にはメールやオンラインミーティングを通して、プログラムの取り組み方や研究の手法について様々なアドバイスを頂いた (実施内容・研究手法については「アニマルセラピー 動物ふれあい事業」 (P.25~33) に記載)。今年度は土居裕和先生にこうべ動物共生センターに来ていただいて今後のアニマルセラピー事業へのアドバイスをいただいた。次年度は、木下美也子先生が一時帰国される時期に合わせて講演会の実施を予定しており、こうべ動物共生センターにも来ていただいて、対面でアドバイスを頂く機会を設ける。



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## 【わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）】

R.E.A.D.プログラムとは、Reading Education Assistance Dogsの略で、アメリカではAAT（動物介在療法）\*の一環として行われている。人間相手ではなく、子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長をうながすことを目的としたプログラムである。

こうべ動物共生センターでは、セラピー研究フィールドを設置して、科学的影響の調査を行いながら「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を行っている。



こうべ動物共生センターでは、市民及び参加する子どもたちに分かりやすくするため、「わんちゃん読書会」という名称を使用している。

\* AATとは  
Animal Assisted Therapyの略で、目標をもって計画、構築された治療的介入で、医療、教育、人的サービスの専門家（心理学者やソーシャルワーカー等を含む）によって監督、実行される心理療法のこと。

「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」には、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動にボランティア参加をしている飼い主様とわんちゃんたちにご協力をいただいている。

このプログラムでは、「ひとりで読む」「犬に対して読む」「人に対して読む」の3パターンで音読しているお子さんの様子を動画で撮影させていただき、株式会社シーエーシー様が技術提供をしてくださっている感情分析ソフト「心 sensor」を使ったデータ分析やアンケート調査などを用いて、認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証を行っている。



また、わんちゃんたちに対してはウェアラブルデバイスのペットバイタルセンサー装着による心拍計測、および唾液採取による自律神経活動指標の評価と、参加中の様子のビデオ撮影を行い、行動からストレス反応の評価を行う。

このように人の側からと犬の側からの研究を同時に行い、人と犬相互の科学的影響を調査・研究している。

### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

【長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授 土居 裕和先生（国土  
館大学（前任校）理工学部倫理委員会承認）による研究】

#### 研究課題名：「動物介在療法R.E.A.D. が学童の認知機能・精神状態に与える影響の 実証的検証」

##### ■ 研究の手法について

お子様には、対動物条件、対人条件、統制条件の3条件での計測に参加していただく。計測に参加する前のタイミングで、背景情報（年齢、性別など）に関する質問紙に回答していただく。各条件での実施内容は以下のとおり。

絵本の読み聞かせを「ひとりで読む」「犬に対して読む」「人に対して読む」各10分ずつ行っていただく。その間の顔動画を撮影させていただく。また、読み聞かせ中の朗読音声を収録させていただく。また簡易なアンケート調査\* により、読み聞かせ後の気分を評価させていただく。

##### 〔対動物条件・犬に対して読む〕

マットや毛布を敷いてスペースを作り、そこに研究対象者は犬と一緒に座って本を読んでいただく。

##### 〔対人条件・人に対して読む〕

こうべ動物共生センターのスタッフ1名に対して、絵本の読み聞かせを行ってもらう。

##### 〔統制条件・ひとりで読む〕

一人で、音読を行っていただく。



##### \* アンケート調査内容：SCAS スpens 児童用不安尺度

SCAS スpens 児童用不安尺度はDSM-IV-TRに基づいて作成された子どもの不安症を6つの下位尺度で評価できる検査である。

- ① SCASは子どもの不安症を測定する目的で開発された自己記入式の質問紙である。子どもの不安症は、児童の心理的問題の中で最もよく見られるものとされており、6～12ヶ月の有病率は10%前後もあると考えられている。
- ② DSM-IV-TRに基づいて作成されており、不安障害全体の程度に加えて、分離不安障害、社交不安障害、強迫性障害、パニック障害、全般性不安障害、外傷恐怖（限局性恐怖症）の6つの下位尺度を備えている。
- ③ 回答は「いつもそうだ」から「ぜんぜんない」までの4段階評価である。質問項目は児童にもわかるように平易であり、難しい漢字には振り仮名がつけられている。
- ④ 標準化が行われ、小学3年生から中学3年生を対象に使用できることが確認されている。

A photograph of the SCAS (Spence Children's Anxiety Scale) response sheet. The form is titled "SCAS 回答用紙" and includes a header with "Spence Children's Anxiety Scale" and "児童用". It has a section for "【やり方】" (Instructions) and a list of 8 items to be rated on a scale from 1 to 4. The items are: 1. 何か心配なことがあります (I sometimes feel worried), 2. 怖いところをこわいと思います (I think some places are scary), 3. こまったことがあったとき、おなかの調子が悪くなります (When I have a problem, my stomach gets upset), 4. なんとなくこわい (I feel a little scared), 5. 家で一人であるとき、こわいと思います (I think I'm scared when I'm alone at home), 6. 手ストを握るとき、こわいと思います (I think I'm scared when I hold a stress ball), 7. 公衆トイレを使うとき、こわいと思います (I think I'm scared when I use a public toilet), 8. 眠れない (I can't sleep).

### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

【大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授 島村 俊介先生による研究】

#### ■ 研究の内容

生体は外的刺激、いわゆるストレスを受けると恒常性を維持するための反応が見られる。R.E.A.D.プログラムに参加するイヌにおいても、「本の読み聞かせ」以外の様々なストレスが加わることになるため、外的刺激の最小化、あるいは標準化を行い、目的の「本の読み聞かせ」に対する反応を抽出することが重要となる。

今回の研究では、参加するイヌにかかるストレスの評価を目的として、そのストレス反応の基準設定、及び新奇環境刺激への馴化の評価を行った上で、R.E.A.D.プログラムがイヌに与える影響について検証していく。

#### 〔評価指標〕

今回、プログラムが実施される中で、参加するイヌたちに協力してもらい、以下の指標を評価する。

#### 〔自律神経活動指標〕

参加するイヌの心電情報から自律神経活動指標の推移を評価する。

収集方法：イヌにウェアラブルデバイスを装着してもらう。

収集期間：プログラム参加前から参加後まで継続して心電情報を収集する。

解析方法：収集した心電情報から解析アルゴリズムを用いて指標を算出する。

#### 〔生理的指標〕

プログラム参加前後の唾液中のオキシトシンとバソプレッシン濃度を測定する。

収集方法：唾液サンプルは専用の唾液回収用キットを使用する。

測定方法：ELISA 法により測定する。

#### 〔行動的指標〕

参加するイヌの行動からストレス反応を評価する。

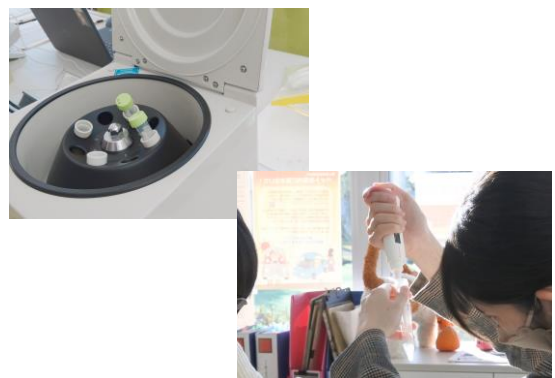
収集方法：参加中のイヌの様子をビデオ録画する。

撮影期間：R.E.A.D.プログラム実施中

解析方法：撮影動画からイヌの表情や行動を検証し、ストレス反応をスコア化する。



イヌの行動をスマホの録画機能で記録



スポンジに含ませた唾液を、遠心分離機を使用して抽出後、成分濃度を計測



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

子どもたちから、「ひとりで読むのは緊張したけど、わんちゃんに読んであげたのがうれしくて楽しかった」「わんちゃんが、自分が読んでいる絵本をきいてくれるのが、うれしかった」などの感想が寄せられた。

寄り添って耳を傾けてくれるわんちゃんたちが、子どもたちに安心感と自己肯定感を与えてくれているように見受けられる。保護者方の方からは「家ではわんちゃんが飼えないが、うちの子は犬が大好きなので、外でわんちゃんとふれあった後は、心がほっこりすると言って楽しそうにしています」と伺えた。参加してくれた子どもも、「今日はとっても幸せな気持ちになった」とうれしそうに教えてくれた。



#### 土居裕和先生考察

「分析した感情のうち不快感情に相当するものにおいては、条件間で差はみられなかった。今回調査した範囲では、動物を前にした読み聞かせが、児に負担を与えているという兆候は認められなかった。「Engagement(注意・集中)」は対人条件で、他の2条件に比べて高い傾向にあった。読み聞かせをする人の存在が、児に緊張感を生んでいた可能性を示唆している」

#### 島村俊介先生考察

「現在データの解析では、R.E.A.D.に参加することによる犬へのストレスは見受けられないが、さらなるデータの積み重ねでより詳細な分析研究を進めていきたい」

子どもに対する研究は2年間のデータ分析を通して、動物への読み聞かせが子どもに負担を与えていないことがわかったことから令和5年度で研究を終了する。犬に対する研究は令和6年度も引き続き実施する。

# 動物介在療法R.E.A.D.実施中の児の心理状態に関する報告書

土居 裕和(長岡技術科学大学)  
高橋 幸雄(国士舘大学)  
小野寺 楓凜(国士舘大学)

## 1. はじめに

Reading Education Assistance Dogs (以下、R.E.A.D.)は、子どもの識字能力の改善を目的にアメリカの図書館で始まった活動で、子どもが動物(主に犬)に本の読み聞かせを行うものです。犬は子どもの読み方に対して評価を下さないため、音読が苦手な子どもであっても自信を失うことなく取り組めるプログラムであり、子どもの読む意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できるとされています。

しかし、R.E.A.D.の効用に関する報告の大半は逸話的なものであるため、R.E.A.D.の効果が、科学的に確かめられたとは言い難い状況にあります。そこで、本調査では、R.E.A.D.を模して、犬に読み聞かせを行っている最中の子ども達の心理状態を、表情分析により評価することで、R.E.A.D.の実施が、児に精神的な負担をかけることがないかどうかを調べました。

## 2. 方法

### 2-1. 研究参加者

公益社団法人Knotsが実施する「わんちゃん読書会(R.E.A.D.プログラム)」に参加した児童のうち、保護者のインフォームド・コンセントと、本人のインフォームド・アセントが得られた児42名(年齢: 平均=7.69, 標準偏差=1.37; 女児29名 男児13名)

### 2-2. 方法

研究対象者に絵本の読み聞かせを約20分間行ってもらい、その最中の顔動画像を、研究対象者の前に設置されたビデオカメラで撮影しました。絵本の読み聞かせは、以下の3つの条件で行いました。

#### 〔条件①: 対犬条件〕

公益社団法人日本動物病院協会(JAHA)のCAP P(訪問活動)チームに所属する犬を前にして絵本の読み聞かせを行ってもらいました。

#### 〔条件②: 対人条件〕

こうべ動物共生センターのスタッフ1名を前にして、絵本の読み聞かせを行ってもらいました。

#### 〔条件③: 統制条件〕

研究対象者に一人で、音読を行ってもらいました。

### 2-3. 分析

収録した顔動画像は、株式会社シーエーシーの心sensorを利用して分析しました。心sensorは、Affective社の感情認識人工知能によって、顔動画像から時々刻々と変化する表情を分析できるソフトウェアです。



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## 3. 結果

心sensorでは、表情を作り出すAction Unitの動きの 패턴に基づいて、動画の各フレームごとに、13種類の感情の強度が数値化されます。心sensorの分析結果の一例を図1に示します。

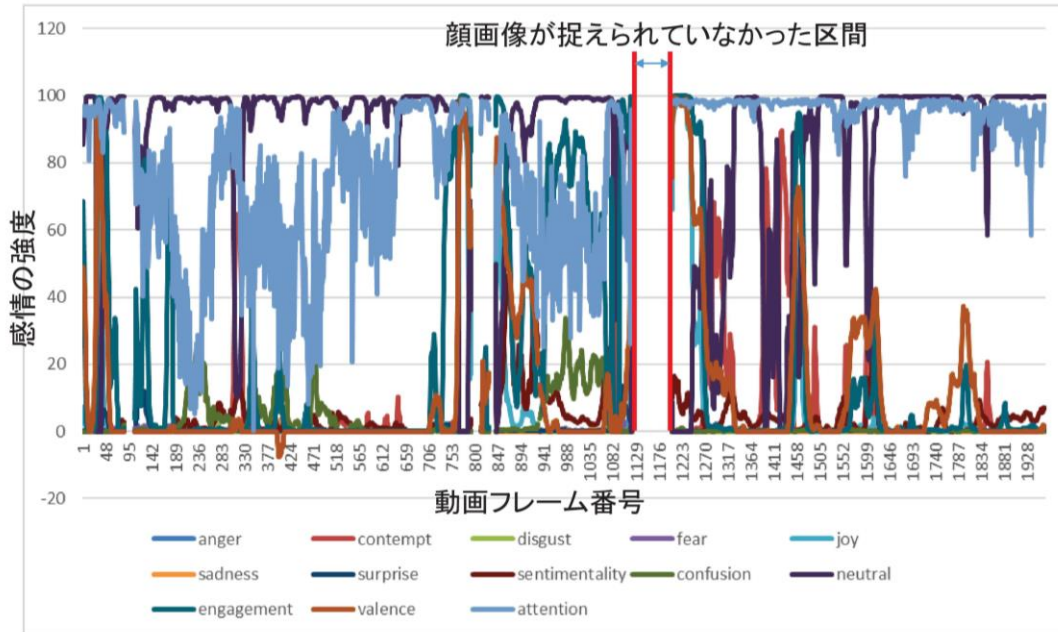


図1. 心sensorによる感情強度の時系列変化の分析例

心sensorで評価した10種類の感情の平均を、各条件ごとに計算しました。分析を行った感情は「Anger (怒り)」「Contempt (軽蔑)」「Disgust (嫌悪)」「Fear (恐怖)」「Joy (喜び)」「Sadness (悲しみ)」「Surprise (驚き)」「Neutral (無感情)」の8つの感情と「Engagement(注意・集中)」「Valence(肯定的表情・否定的表情)」の2つの特殊指数の計10種類です。なお、感情強度の平均を計算する際には、動画に児の顔が捉えられておらず、感情強度を評価できていない区間は除外しました。各感情の感情強度を、一要因分散分析で統計分析しました。

その結果、「Anger」「Contempt」「Disgust」「Fear」「Sadness」「Surprise」「Joy」「Neutral」「Valence」の8つの感情では、有意差はみられませんでした。

その一方で、「Engagement」には有意傾向がみられました。「Engagement」の各条件における感情強度のグラフを、図2に示します。

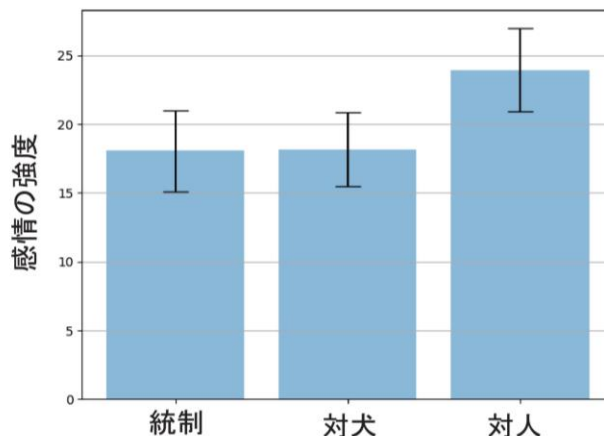


図2. 各条件における「Engagement」の感情強度. エラーバーは標準誤差.



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## 4. 考察

本調査では、犬に絵本を読み聞かせるという体験が、児に精神的な負荷を与えるか否かを検証することを目的に、対犬・対人・統制条件の3条件で、読み聞かせ中の児の表情を分析しました。

分析した感情のうち、「Anger」「Contempt」「Disgust」「Fear」「Sadness」が不快感情に相当しますが、これらの感情において、条件間で差はみられませんでした。統計的な有意差がないことをもって、直ちに効果がないとは言い切れません。しかし、今回調査した範囲では、動物を前にした読み聞かせが、児に負担を与えるという兆候は認められませんでした。

一方、効果は非常に弱いものの、「Engagement」には、対犬条件とその他の条件とで差がみられました。

このうち「Engagement」は、絵本読みの最中の集中度を反映したものと考えられます。対比較で有意差はありませんでしたが、平均をみると、Engagementは対人条件で、他の2条件に比べ高い傾向にありました。これは、読み聞かせをする人の存在が、児に緊張感を生んでいた可能性を示唆しています。

### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## わんちゃん読書会 (R.E.A.Dプログラム) に参加する イヌのストレス検証研究

2年を終えての経過報告

獣医学部 小動物臨床医学  
島村俊介



### 研究の目的

近年、「ペット」に代表される動物との関わりによる肯定的な効果が現代社会に生きる人への新たな処方箋として注目され、動物介在活動や動物介在療法を包括する、いわゆるアニマル・セラピーが様々な場所で盛んにおこなわれています。一方で、アニマル・セラピーに参加するイヌをはじめとする多くの動物への影響について配慮すべきとの指摘がなされるようになってきました。

「動物介在療法・活動が動物に影響を及ぼさないように  
予防的措置・配慮をすること」

人と動物との相互作用に関する国際学会 (IAHAIO) における提言 1998

これは単に動物福祉の面からだけでなく、ストレスを感じた動物がヒトに対して対抗しようとして咬んだり引っこ抜いたりするといった事故の防止という面からも重要と考えられています。しかしながら、アニマル・セラピーに参加する動物のストレスについての報告は少ないのが現状です。そこで、私たちはR.E.A.Dプログラムに参加するイヌのストレスを検証することに挑戦することとしました。

### 研究スケジュール

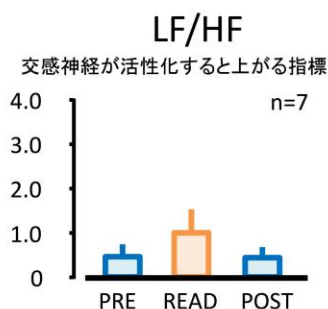
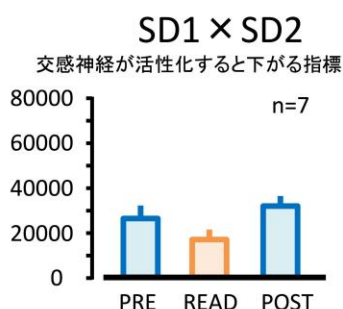
READ参加前 (PRE) と後 (POST) に別室 (控室) で飼い主と共に安静条件にイヌをおき、READ中のイヌの変化をその前後と比較することとしました。



イヌたちはウェアラブルデバイスを装着してR.E.A.Dに参加します



### 結果 (2022年度末時点まで)



#### 心拍リズムと自律神経

心臓の拍動リズムは、外環境に適應するため、自律神経による調節を受けて変動しています。この自律神経にはアクセルに例えられる交感神経とブレーキに例えられる副交感神経のバランスで調節を行っていて、**ストレスがかかる**と交感神経が活性化し、心拍が早くなります。



イヌには予めREAD参加前にウェアラブルデバイスを装着することで、実験期間を通じた心電情報を取得しました。心拍間隔の変動から自律神経活動を指標化する心拍変動解析を用いて、取得した心電情報からイヌたちのストレスを検証しました。R.E.A.D参加前後の安静状態 (青色) と比較してR.E.A.D中 (橙色) の指標 (SD1×SD2、LF/HF) は、交感神経の活性化を示す傾向が見られましたが、明らかな (統計学的に有意な) 変化は見られませんでした。

### 結果 (2023年度)

- ・本年度は、5頭の参加犬からのべ12回のサンプリングを実施。
- ・これまでに収集したサンプルを解析中。

今後

これまでに収集したデータを解析して、研究の最終報告としてまとめる予定。

### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

#### 令和5年度 わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）実施状況

日 程			参加人数・頭数		
			子ども	付添	犬
第1回	令和5年	4月16日（日）	1	3	2
第2回		4月29日（土）	2	2	2
第3回		5月21日（日）	3	4	2
第4回		6月18日（日）	2	3	2
第5回		9月18日（月・祝）	2	2	2
第6回		10月9日（月・祝）	2	2	2
第7回		11月3日（金・祝）	2	4	2
第8回		11月26日（日）	3	7	3
第9回		12月16日（土）	2	2	1
第10回	令和6年	1月13日（土）	2	3	4
第11回		2月4日（日）	3	3	2
第12回		2月25日（日）	1	1	2
<b>合 計</b>			<b>25人</b>	<b>36人</b>	<b>26頭</b>

#### 《参加犬種》

トイプードル／オーストラリアン・ラブラドゥードル／ポーチュギーズ・ウォーター・ドッグ／ジャック・ラッセル・テリア／MIX（トイプードル・ミニチュアダックスフンド）／MIX（トイプードル・ヨークシャーテリア）



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## 【出張！わんちゃん読書会】

こうべ動物共生センターで実施している「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を共生センター以外の施設でも実施し、より多くの市民に参加してもらう。

開催日時：令和5年11月12日（日） 14:00～16:00

開催場所：こども本の森 神戸 多目的室

参加人数：子ども9名、保護者9名 計18名／ボランティア4名／犬5頭



参加者募集は実施施設であるこども本の森 神戸が行い、10名の定員に52名の応募があった。

「出張！わんちゃん読書会」開催に先立ち、主催者であるこども本の森 神戸の森川館長よりご挨拶いただいた。



JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動ボランティア参加の飼い主様と愛犬たちにご協力をいただいた。子どもたちは、「ちゃんと聞いてくれた！」「時々違う方を見てたけど、最後まで横で聞いてくれた！」と読み聞かせの様子を語ってくれた。読み聞かせの後の交流タイムで犬とのふれあいを通して接し方なども学んでもらうことができた。

共生センターでの実施だけでなく、アウトリーチ開催をすることで、より多くの市民に共生センターの事業を知ってもらうことができた。神戸市内の図書館では初の試みであったが、今後も様々な場所での開催要望に応えていきたい。



### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

## 【わんちゃんお出かけセラピー】

高齢者・障がい者にとって、動物と触れ合うことは、心に安らぎを生むとともに、体を動かす機会にもなり、日常生活での活動への意欲の向上につながると言われている。これまで子どもを対象としたアニマルセラピー事業を実施してきたが、対象を高齢者・障がい者にも拡大し、しあわせの村内の高齢者施設を訪問して犬と触れ合っていた「わんちゃんお出かけセラピー」を新たに実施することとなった。

実施にあたっては、「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」同様、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動ボランティアの皆様と愛犬たちに協力していただいた。

開催日時：令和5年10月25日（水） 14:00～15:00

開催場所：神港園 しあわせの家

参加人数：25名／ボランティア5名／犬5頭



「神港園しあわせの家」では、以前に施設内でわんちゃんを飼っておられたそうで、その犬が亡くなってからは施設の皆さんが犬とふれあう機会が無かったため、今回の活動を施設の利用者の皆様はとても楽しみにしてくださっていた。



これまでに一度も犬に触ったことがないのか、少し躊躇しておられる方もおられたが、一度撫でてみると急に穏やかな笑顔になる姿がとても印象的だった。また、犬を撫でながら、以前、飼っていた犬の話や懐かしそうに話してくださる方もおられ、施設のスタッフの方は、「皆さんが普段見せないような笑顔を見せてくれている」と驚かれていた。



神戸市ご出身の獣医師で、JAHAを設立された91歳になられる加藤元先生が見学にお越しくくださった。加藤先生は、人と動物と自然を大切にするヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンドの理念のもとに活動を続けてこられ、長年にわたって最先端のアメリカの小動物獣医学と教育を日本に紹介されてきただけでなく、日本中の大学やアメリカの大学でも指導をしてこられた。加藤先生にはセラピー研究フィールドアドバイザーを務めていただいている。

### ③ 「アニマルセラピー」 動物ふれあい事業

開催日時：令和6年3月27日（水） 14:00～15:00

開催場所：神港園 しあわせの家

参加人数：25名／ボランティア4名／犬4頭



膝の上でふれあうときには、衣服に毛が付かないようにタオルやブランケットを敷いた上に犬を乗せるようにしている。膝に乗せることで、犬の暖かさや息づかいも感じることができる。



輪っか状にした手の中をジャンプする特技を披露したり、参加者の皆さんにもボールを投げてもらい、取りに行き、噛んで戻って来る技を披露した。参加者の方々も大きな拍手で盛り上げてくださった。

「かわいいね」「わんちゃんとふれあいができて良かった」「また来て欲しい！」などの感想をいただいた。

人間と犬との関わりは1万5000年以上前からといわれているが、長い共生の歴史の中でお互いに心の扉を開く相互作用があり、現在では家族の一員として大切な存在になっている。そのような社会の状況の中、飼いたくても犬を飼えない等、施設等の入居者、利用者の方々は日頃から犬と関わる機会が限られている場合が多い。しあわせの村のビジョンでもあるソーシャルインクルージョンや人と動物の共生の視点から、しあわせの村内の施設等との連携した事業の成果を広く市民へ発信し、「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現していけるよう、令和6年度は他の施設での開催についても調整を行い、事業を拡げていきたい。



## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【獣医師体験プログラム】

獣医師の職域は広く、ペットの暮らしや産業動物の飼育、野生動物の保護、感染症や食品衛生、環境問題など、人が生活していく上で必要な多岐の分野に関わっている。そうした幅広い獣医師の世界を体験して学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深める。なお、「獣医師体験プログラム」の監修は、獣医師・獣医学博士で当法人監事である堀尾政博先生にお願いしている。



#### 【監修】

#### 堀尾 政博先生（獣医師／獣医学博士）

産業医科大学医学部講師を経て、長崎大学熱帯医学研究所 教授（平成29年退職）。

長崎大学では、高度安全実験施設（BSL4）の設置準備副室長としても活躍した。

学校法人ヤマザキ学園（動物看護・ケア教育）

で副校長を務めた経験も持つ。

令和5年度は下記の通り「獣医師体験プログラム」を開催した。毎回、現場で働いておられる専門分野に長けた獣医師の先生方を講師としてお迎えし、専門的な話を聞かせていただきながら、スライド、標本なども見せていただくことで、子どもたちが普段経験することのないような貴重な学びの場を提供することができた。

### 令和5年度：12回実施（複数実施含む）

開催日	タイトル	分野	協力依頼・講師	参加者	保護者
令和5年 5月14日 (日)  低・高学年 2回開催	水族園動物の お医者さん	水族園	神戸市立 須磨海浜水族園・ 毛塚千穂 先生	低学年 13 高学年 12	25
6月11日 (日)  低・高学年 2回開催	野生動物との 共生	野生動物	株式会社野生動物 保護管理事務所・ 箕浦千咲 先生	低学年 11 高学年 10	21
7月28日 (金)	多様な動物が 生きる「地 球」という環 境	動物園	神戸市王子動物 園・ 伊藤慎治先生	8	4
8月10日 (木)	エキゾチック アニマルの生 態と診療	エキゾチッ クアニマル	北須磨動物病院・ 佐々井浩志先生	講師都合に より延期	

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

8月21日 (月)	「公務員」としての獣医師の仕事	公務員	神戸市保健所西部衛生監視事務所・南 優姫先生	9	12
9月3日 (土)  低・高学年 2回開催	いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには	小動物	大阪公立大学獣医学研究科・酒居幸生先生	低学年 11 高学年 12	19
10月21日 (土)	身近な大動物・牛	大動物	芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生	19	14
11月23日 (木・祝)	感染症って何？	公衆衛生	大阪公立大学・笹井和美先生	10	9
令和6年 1月28日 (日)	私たちの暮らしと動物との関わり	産業動物	兵庫県農業共済組合（神戸市立六甲山牧場）・島中みどり先生	11	14
3月17日 (日)	人と共に生きてきた馬について	大動物	大阪公立大学獣医学研究科・石川真悟先生／公益社団法人神戸乗馬倶楽部	21	25
<b>合計</b>	<b>12回実施</b>			<b>147人</b>	<b>143人</b>

令和5年度においても、幅広い獣医師の世界を知り学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深めることができた。その中でも生命を尊重する心、自然に感動する心、探求心を高めるなど豊かな人間性をはぐくむことができるプログラムとなるよう内容にも工夫した。今年度においては、子どもたちのアンケートから希望の多かった、エキゾチックアニマルについて神戸市獣医師会のご協力を仰ぎ、獣医師会所属の先生に講師をお願いしたが、先生のご都合により延期となった。次年度はさらに内容をブラッシュアップし、子どもたちが興味を持って参加できるプログラムを考えたい。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【水族園動物のお医者さん】

水族園には多様な生きものが暮らしている。その健康を守るには、本来の生育環境や生態を背景とした生きものの特徴を知ることが大切である。水族園で暮らす動物たちの病気や治療について楽しく学ぶ。

開催日時：令和5年5月14日（日）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市立須磨海浜水族園・毛塚千穂先生

参加人数：子ども25名、保護者25名 計50名



今回のテーマは「水族園動物のお医者さん～今日はペンギン」と題して、ペンギンがメインのお話をしていただいた。

ペンギンの卵と鶏の卵の比較。小さい方が鶏の卵、大きい方がペンギンの卵。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

\* 低学年

- ・ペンギンクイズがおもしろかった。
- ・ペンギンの赤ちゃんがうまれるところがよかった。
- ・たまごを持てたのがたのしかった。

\* 高学年

- ・ペンギンの住む地いきが意外だった。
- ・ペンギンの卵のおはなしが特におもしろかった。
- ・水族館の獣医の仕事内容が聞いておもしろかったです。
- ・ペンギンやイルカ、アザラシなどの産卵の様子、仕方などがおもしろかった。

子どもたちが一度は訪れている水族園の先生からの具体的な治療や飼育の話、実際に貴重な標本に触れることで楽しく学ぶことができた。また、現場の先生の話を通じて直接聞くことにより子どもたちのイメージも広がり、海に生きる動物への興味も深まったのではないかと感じる。今回は子どもたちにも馴染みのあるペンギンの話がメインということで、わかりやすくもあり、皆熱心に聞いていた。また、イルカの出産シーンは低学年の子どもも高学年の子どももとても印象深かった様子。低学年と高学年の2回に分け、伝え方についても工夫していただくことで、理解度も深まったと思われる。



## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【野生動物との共生】

里山では野生動物による農作物の被害が多発しているが、なぜそういったことが起こるのかを学ぶ。地球は人間だけのものではなく、多くの野生動物や昆虫などの生き物が共に生きる場所であることを知り、どうすれば野生動物と共存できるのかを考える。

開催日時：令和5年6月11日（日）低学年：13:00～14:00 / 高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：株式会社野生動物保護管理事務所 関西支社 研究員・箕浦千咲先生

参加人数：子ども18名、保護者21名 計39名



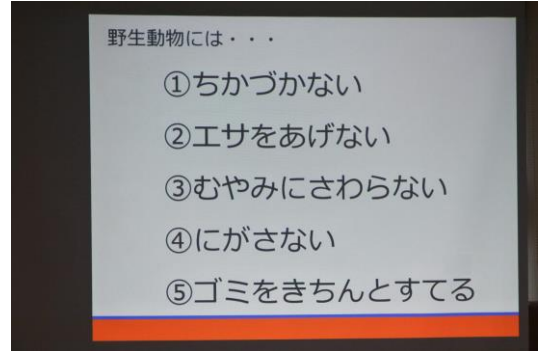
色々な生き物がいて、色々な「生態系」があることを「生物多様性」という。そして、この「生態系」を守るのが野生動物の獣医師の仕事である、と説明。



発信器入りの首輪を付けた動物の居場所をアンテナで追跡するという調査を子どもたちに体験させてもらった。この調査は、動物の行動範囲や生態を知るのに役立つ。



わなに捕まった動物を眠らせて安全に山に返すための吹き矢の実演。



「野生動物と人が同じ地球で幸せに暮らすために私たちができること」

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

##### \* 低学年

- ・ほねをさわったのがおもしろかった。
- ・あしあとクイズがおもしろかった。
- ・センサーカメラの動物が前をとったときだけさつえいするのがふしぎだった。

##### \* 高学年

- ・外来生物と在来生物のバランスや生態系を守るお仕事は本当に素晴らしいと思った。地球のお医者さんだということもとても素晴らしいと思った。

「野生動物と人が同じ地球で幸せに暮らすために私たちができること」が実行できると自分たちも「地球のお医者さん」であることを子どもたちが理解できていた様子だった。今年度はこれまで見たことのなかった実演や調査体験があり、次年度も体験型フィールドワークを取り入れるよう準備を進めている。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【多様な動物が生きる「地球」という環境】

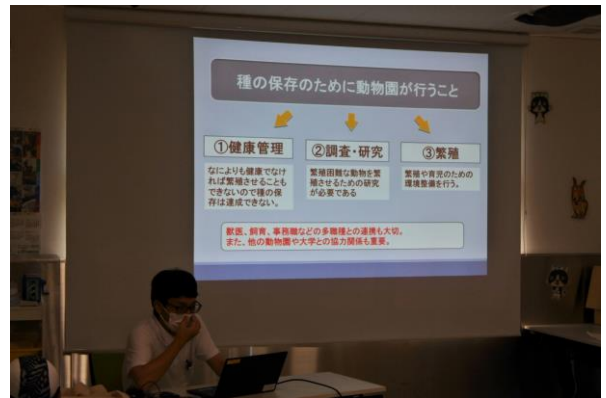
地球（動物園）には様々な種類の動物が生活しているが、それぞれ生きていくために必要な食べ物や環境などが違う。そうした多様な生物が生きていくことができる地球を持続可能な環境として保持するために必要なことを学ぶ。

開催日時：令和5年7月28日（金）14：00～15：00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市立王子動物園獣医師・伊藤慎治先生

参加人数：子ども8名、保護者4名 計12名



スライドを見ながら、動物園の動物たちの話から、地球環境の話まで幅広い内容をお話しして下さる。また、多様性についての説明もあり、地球上の生き物全てが繋がっているということがわかる。

動物園の役割についての説明。ただ、動物を見て楽しむだけではなく、種の保存についても大きな役割があるとのこと。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ゾウのけつえきけんさがおもしろかったです。
- ・パンダやカバ、ゾウや鳥などのしいくは、いろいろなくふうがしてそのくふうがいろいろあっておもしろかったです。
- ・ゾウの血かんが太い所がびっくりしました。

子どもたちも楽しく訪れている動物園の動物ということで、子どもたちも興味深く先生の話聞いていた。また、動物を取り巻く環境が破壊されてきている現実を目の当たりにし、子どもたちなりに真剣に考えていた様子だった。愛嬌のあるパンダなど動物園のいろいろな動物たちの生態や飼育方法を知ることや、普段見る機会が無い動物園のバックヤードも映像で見ることができ、子どもたちがこれまで知らなかったことを学べた。特にパンダの治療が人間と同じように行われる映像やカバの歯磨きなどを見た子どもたちは、動物がおとなしくしている姿にとっても驚いていた。また、獣医師が動物の生態のみではなく、動物を取り巻く環境や自然という地球環境まで幅広く関わっていることや、そういったことが自分たちの生活の中にまで関わっているということも理解できた様子だった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【公務員としての獣医さんの仕事】

公務員獣医師の仕事は、食の安全の確保、人畜共通感染症対策、動物愛護や福祉の増進、野生動物保護党自然環境保全対策等の広範な分野にわたるが、その中の動物愛護や福祉について学び人と動物の幸せな共生について考える。

開催日時：令和5年8月22日（月）14:00～15:00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市保健所西部衛生監視事務所・南優姫先生

参加人数：子ども8名、保護者6名 計14名

公務員としての獣医師の仕事は、「ペットショップのような動物を取り扱っている店の立ち入り」「レストランや食品工場などへの立ち入り」など、店がきちんと衛生的に営業されているかをチェックし、指導したりする仕事も含まれているため、獣医療にはとどまらず多種多様な業務内容となっている。今回は、神戸市保健所西部衛生監視事務所での仕事内容について南先生にお話していただいた。



南先生より衛生監視事務所とはどのような業務を行うところかという説明がある。



食品、環境、動物の衛生を監視することが仕事で、営業している店が衛生的に保たれているかを監視および指導・規制をしている。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・動物が健康で幸せに生きるためには、動物を飼育する環境が健全であったり、周りの人がまず健康であることが大切ということが知れてよかった。
- ・動物病院で働く獣医師さんと保健所で働く獣医師さんの違いが分かって面白かったです。
- ・飼い主になるにはどうすればいいかという話がためになりました。

保健所の獣医師は公衆衛生獣医師といい、人の生活に入り込んでいる動物が対象なので、動物の健康が深く人の生活に関わっていると教えていただく。公務員としての獣医師と動物病院との違いは、「目の前の動物を治すのが専門ではなく、社会の問題を解決するという役割を担っている」とのこと。

動物の診察をするだけが獣医師の仕事ではなく、動物の飼い方の指導や店舗の立ち入り検査、規制・緩和なども獣医師の仕事であるということがわかり、子どもたちも獣医師には幅広い仕事内容があるということがわかったようだった。



## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには】

人間にとっていちばん身近に存在する動物「ペット」の健康と幸せ（福祉）を守るためには、どういったケアが必要なのかを学び、飼い主が日常的に健康状態を観察して獣医師と連携してペットの健康を守ることの大切さを学ぶ。

開催日時：令和5年9月3日（日）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：大阪公立大学 獣医学研究科 小動物臨床教室 ・酒居幸生先生

参加人数：子ども23名、保護者19名 計42名



大学の病院には9つの診察室があり、それぞれ獣医師と動物看護師がペアになって診療にあたっている。病状によっては、レントゲン検査、超音波検査やCT検査なども行っている。

先生から、注射の仕方を教えてもらい、ぬいぐるみの犬を使って子どもたちも注射の模擬体験を行った。ぬいぐるみだと分かっているにもかかわらず、みんな恐る恐る注射していた（針の無いシリンジを使用している）。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

\* 低学年

- ・ねずみはドドドドってしんぞうがなるんだとおもった。
- ・さいけつのれんしゅうがたのしかった。

\* 高学年

- ・自分の心臓音を聞いたり、犬のもけいでさい血のれんしゅうをしたり参考になりました。
- ・自分のしんぞうの音がきけておもしろかったです。

犬や猫は模型を使用するが、薬や聴診器などについては実際に使用されている物を使用し、獣医師と同じように白衣を着用することで、子どもたちも獣医師になった気分でも模型の動物に接し、注射器や聴診器の使い方を先生から教えてもらいながら熱心に模擬診療に取り組んでいた。ペットと暮らしている子ども、ペットと暮らしたいと思っている子ども、将来獣医師になりたいと思っている子どもにとって、ペットと暮らすことがどういうことか、どんなことに気を付ければ良いか等考える機会にもなった。また、聴診器で自分たちの心臓の音を聞く体験ができたことで改めて「いのち」ということについても考えることができたようだった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【身近な大動物・牛】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物にはとくべつな世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、牛が私たちの生活のあらゆる場面で関わりを持っていることを理解する。

開催日時：令和5年10月21日（土）14:00～15:00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生

参加人数：子ども8名、保護者8名 計16名



芝崎先生の自己紹介のあと、牛とはどんな動物なのか、牛の生態や特徴などを子どもたちに語っていただいた。

牛の不思議の一つ、牛の胃の中には間違えて飲み込んでしまった鉄（釘など）が胃を傷つけるのを防ぐために細長い磁石を飲み込ませていると説明していただき、実物を見せていただいた。その磁石は、しばらく留置したあと胃から取り出し交換するとのこと。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・牛のお腹にじしゃくがあるのに驚きました。
- ・ウシの人間でいう指もんは鼻もんで、一頭一頭ちがっているところが不思議だった。
- ・薬の話がとてもおもしろかったです。とくに、乳房炎のさいに乳房にいれる薬に、しきそをまぜていて、それで普通の牛と区別することがおもしろかったです。
- ・薬の投与の仕方などや皮下注射や点滴などいろいろあっておもしろかったです。薬の種類や種類も色々あることも人間に似ているなと思いました。

普段、何気なく食べている牛肉が肉になるまでどのように飼育されているのか、また、どのように加工されているのかということや、牛の不思議の一つ、胃の中に磁石を飲み込んでいることなど、興味深い話を聞くことができた。

そして、牛が病気をして薬剤を使用した場合、肉への残留を防ぐために、食肉にしてはいけない期間が決められており、獣医師がこの判断を誤ると農家に大きな損害を与えてしまうことにもつながるということで、食の安全を守ることも、獣医師には大切な仕事であると教えていただいた。

牛の病気についても、詳しく教えていただき、牛が大切に育てられ、肉牛が肉になって流通にのるまでも多くの人の手がかかっていることが分かった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【感染症って何？】

新型コロナウイルスの感染症拡大の只中である現在、動物由来の感染症についての正しい知識を学習し、日常生活における感染症対策の重要性を知る。

開催日時：令和5年11月23日（木・祝）14:00～15:00

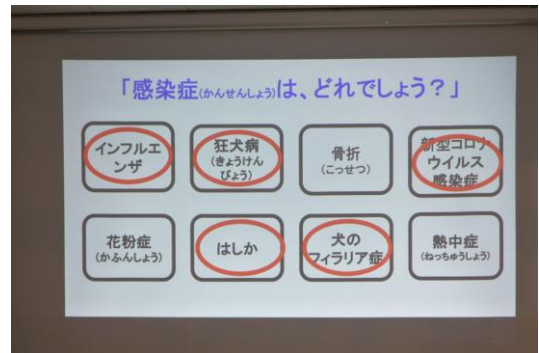
開催場所：共生センター ふれあい室

講師：大阪公立大学 獣医学研究科 獣医内科学研究グループ  
教授 笹井和美先生

参加人数：子ども10名、保護者9名 計19名



インフルエンザを例に出して感染症とは何かについて説明していただいた。子どもたちからは、「ワクチンやインフルエンザのことがよくわかった」という感想が聞かれた。



「人から人へ感染する病気」や、「動物から動物へ感染する病気」「動物から人、あるいは人から動物へ感染する病気（人と動物の共通感染症）」について教えていただいた。



感染症を媒介するダニが血を吸って大きくなる写真に見入っていた。



先生への質問では、子どもたちの関心の深さが垣間見られた。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・動物だけでなく、人間のことも加えて教えてもらったのでわかりやすかった。
- ・ダニや蚊のお話がおもしろかった。
- ・もう少し狂犬病のお話を聞きたい。

「感染症」という子どもたちにとって少し難しく感じるテーマでも、子どもたちが身近に感じられるお話から説明が始まり、興味を持って保護者と共に学んでもらうことができた。「感染症」のことだけでなく、「獣医師の仕事」についても、獣医師が様々な分野で活躍されていることを詳しく教えてくださり、「もっと先生の話が聞きたい」という感想も毎年聞かれる。令和6年度は、対象となる年齢層（学年）を広げ、高校生にも参加してもらえるようにプログラム内容を工夫したい。



## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【私たちの暮らしと動物との関わり】

人間は様々な動物との関わりの中で恩恵を受けて生きていることに気づき、それらの恩恵に感謝する気持ちを学ぶ。

開催日時：令和6年1月28日（日）14:00～15:00

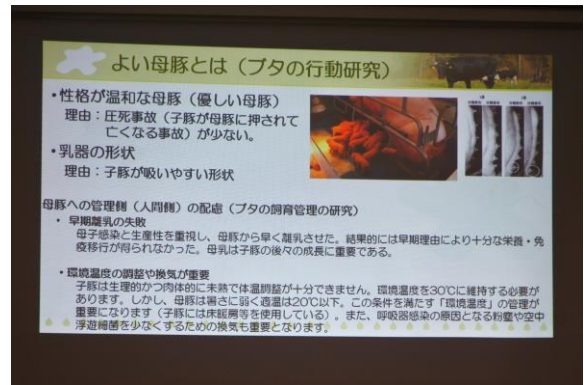
開催場所：共生センター ふれあい室

講師：兵庫県農業共済組合 家畜部 部長・畠中みどり先生

参加人数：子ども9名、保護者5名 計14名



畠中先生より、畜産動物としての牛とはどういった動物なのかというお話をしていただく。また、兵庫県には80人の産業動物獣医師が獣医師として従事している。



豚についてもお話していただいた。今でもどんどん改良がすすんでいる豚は、一度に10匹以上の子豚を産むとのこと。



日本ではお弁当もふくめ、1日一人あたりおにぎり1個分の食べ物が捨てられている。『命をいただいている』ことを考えて食べ物は感謝して大切に残さず食べましょう」とお話があった。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・牛の本当の性格や獣医師の使命が知れました。
- ・獣医師の仕事は、ただ牛の病気を治すのではなく、生産者と消費者の架け橋にもなったり、人工授精、分娩の手伝いなど様々な仕事があるのだと思いました。
- ・牛は胃が4つもあるのを知りました。4つもあるのに、ぜんぶ違う形なので面白いなと思いました。

産業動物について牛と豚のお話していただいた。牛や豚の特徴や生態についてだけでなく、私たちの口に入るまでの過程についても教えていただくことで、子どもたちも命をいただくことについて改めて感じるようになった。産業動物獣医師は産業動物の健康を守るだけでなく、人々の健康や食の安全をも守る大切な仕事だということがわかった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【人と共に生きてきた馬について】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、人が馬と共に生きてきた歴史を知ることによって共生という概念を理解する。

開催日時：令和6年3月17日（日）14：00～15:00

開催場所：しあわせの村 馬事公苑 会議室（公益社団法人神戸乗馬倶楽部）

講師：大阪公立大学 獣医学研究科・石川真悟先生

参加人数：子ども21名 保護者25名 計46名（部屋の都合上、保護者の入室無し）

獣医師体験プログラムは、生体に触れる内容ではないが、馬についてはしあわせの村内に馬事公苑があることから、馬事公苑の運営を受託されている公益社団法人神戸乗馬倶楽部様のご協力を得て、馬事公苑内で実施、厩舎の見学までさせていただいた。



今年度も馬事公苑様の会議室をお借りしての開催となった。石川先生から人とともに生きて来た動物、馬について、馬の歴史から今に至るまで、幅広く教えていただく。



先生のお話終了後、馬事公苑のスタッフの方に案内をしていただきながら、厩舎の見学を行った。実際の馬を目の前にした子どもたちは、興味津々だった。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・馬と人のちがいが面白かった。
- ・昔は馬は森などにおいて4本の指があったことは知らなかったのでおどろきました。
- ・馬と人のつながりについて詳しく知ることができました。
- ・馬に人がのること。

昨年度に引き続き（公社）神戸乗馬倶楽部様にご協力いただき、馬事公苑内の会議室にてプログラム開催することが出来た。どの子どもも最後まで熱心に先生の話聞き、質問も熱心に行っていた。また、馬に関係する話として、経済動物としての馬に経済性がなくなれば処分されてしまうが、その馬を一頭でも救おうとしている活動についてもお話をさせていただき、それを聞いた子どもたちも印象に残ったようだった。厩舎の見学もできたことで、改めて、馬について興味を持った子どもも多かった。



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【犬ともだちになろう】

犬のイラストボードや実際の犬に接しながら、クイズや心臓の音を聞くなどを通して「いのち」を実感し、犬のきもちについて学ぶプログラムである。

犬との接し方を学ぶことで、思いもかけない咬傷事故を予防するだけでなく、犬（他者）のきもちを想像したり、寄り添うきもちの大切さを考えるきっかけを与え、心臓の音を聞く拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）を用い、犬や子どもたちそれぞれの心音を聞くことで、音の違い、速さの違いといった違いに気付き、自分や自分以外の「いのち」の大切さ、「いのち」への共感ができることを目的としている。

このプログラムには、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動で経験豊富なボランティアの方々と、そのご家族である犬たちに毎回ご協力いただいている。



犬のイラストを見ながら、犬がどんな気持ちかを考えることで、犬にも人間と同じように感情があり気持ちを表していることを学ぶ。

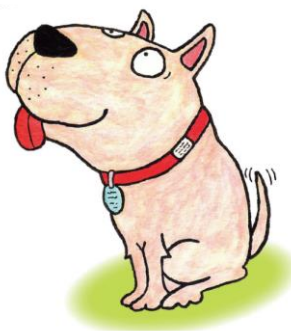
犬との挨拶の仕方を教えていただき、実際にボランティアで参加してくれている犬と、一人ずつ挨拶をする。



拡張心音計を用いて、犬と子どもそれぞれの心音を聞き比べることで、違いを実感できる。

プログラム終了後の交流時間。子どもたちの緊張もほぐれ、とても楽しそうな様子。

#### 【犬の気持ちをあらわすイラストボード】





#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

##### 【顔の表情のイラストボード】



犬の気持ちを考える際、顔のイラストボードを見せることで、犬がどんな気持ちなのかを、各々子どもたちなりに想像できるように、シンプルな顔の表情になっている。

##### <各回参加人数>

実施日	参加者	付き添い	ボランティア	参加犬
令和5年 4月8日（土）	10	10	3	3
6月3日（土）	13	10	5	3
10月29日（日）	11	12	4	3
11月18日（土）	10	12	3	3
12月24日（日）	13	12	3	2
令和6年 3月3日（日）	7	3	4	3
<b>合計</b>	<b>64人</b>	<b>59人</b>	<b>22人</b>	<b>17頭</b>

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・心のおとをきくのがたのしかった。
- ・犬とふれあえたのがたのしかった。
- ・うちでかえない犬をいっぱいさわられてたのしかったです。
- ・犬に出会ったときのせし方など学べてたのしかった。
- ・いろいろな犬をさわったり、ふれあい方を知れたり、身体であらわすひょうげんを知れてよかったです。

このプログラムを通し、子どもたちは犬との正しい接し方を学ぶことで、普段のように犬と接したら良いかを知ることができた。イラストを通して、犬にも感情があり、犬が身体のいろいろな部分を使って気持ちを表しているということを知り、犬や自分たちの心音を聞くことで、犬も自分たちも同じように生きていることを理解し、自分や自分以外の「いのち」についても考えるきっかけが持てる場となった。

今年度は未就学児の参加もあり、より安全に配慮しながら犬と接する機会が持てた。次年度においては、小学生だけではなく、未就学児や高齢者に対してもプログラムの幅を広げたい。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【いきものといっしょ】（毎週土曜日または日曜日10:30～11:30）

センターに来所した子どもたちに対し、神戸市副読本「いきものといっしょ～みちかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、動物たちのきもちについて考えるプログラムを実施する。他者に対する共感や思いやりといった情操や、動物や自然に対する理解や責任といった態度の醸成を図る。



神戸市副読本「いきものといっしょ～みちかなどうぶつに目をむけてみよう～」



家で飼っている犬や猫、家の周りにいるカラスやスズメ、学校で飼っているカメやウサギ、山にいるイノシシなど、自分の経験から書き込んでいく。未就学児や小学1年生でまだ文字が書けない子どもたちは、絵を描いて表現している。



ペット、学校飼育動物や家畜、野生動物それぞれの気持ちを考え、どんなことに気が付いたら良いのか、自分の考えを書き込み、発表してもらった。



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業



「神戸にくらす人と動物たち」のイラストマップの中では、様々な人と動物の関わりを探す。車内に置き去りの犬を見て「熱中症の危険性」に気づき、多頭飼育の場面では、「責任を持って飼える数を飼うべき」という意見が出た。山でイノシシと遭遇する場面では、「驚かせないように静かに逃げる」「野生動物のすみかに近づかない」という意見が多く聞かれた。

家族での参加が多く、保護者も一緒に学ぶことで家庭に帰ってからも話題にしたり、振り返ることができる。

今年度は、民間の学童保育施設からの要望もあり、春休みに日程調整をして実施した。小学校休業日の子どもたちの活動として学ぶ機会を提供できた。

学童保育の場合は、参加する子どもの学年も異なるため、低学年にも理解できるように説明の仕方を工夫している。

施設での振り返りだけでなく、家庭に帰ってからも話題にしてもらうために、更なる工夫を考えたい。

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ いろんな生きものの気持ちが変わったのしかった。
- ・ いろんなどうぶつのおべんきょうができたのがたのしかった。
- ・ 犬や猫を長く飼わないといけないことがわかった。
- ・ してはいけないことをもっと勉強したい。
- ・ もっと動物のことを知りたい。
- ・ 改めてペットや他の動物との関わり方を勉強し直すことができた。
- ・ ペットがどんな気持ちか考えることができて良かった。
- ・ 今まで知らなかったことを学ぶことができて良かった。家でのペットとの暮らしにも活かしたい。
- ・ 妹の方は人見知り知らない人とはしゃべれないけれど、今日はとても楽しそうにいろいろと話をしていた。自分の好きな動物のことだったら、積極的に話ができるのだとわかって驚いた。
- ・ 神戸市内の地図からどのような動物がいて、どのような問題点があるか、イラストを見て子どもと学ぶのが楽しかった。

毎週土曜日の開催としていたところを、曜日を固定せず毎週土曜日または日曜日と改めたことで、昨年度に比べて実施回数増につながった。

家族での参加が定着しており、人と動物の関わりについて学んだ内容を家庭に帰ってからも話題にする機会が提供できている。民間の学童保育施設からの要望にも応えることができ、今後も夏休みなど小学校の長期休業中の開催要望に対応していきたい。令和6年度は、土曜日または日曜日については他の新規事業の日程確保も必要であるため、固定した開催日程は月に2回（土曜日または日曜日）とし、それ以外は休館日以外の随時開催とし、曜日と時間を希望者と調整する等市民の参加希望によりきめ細やかに応えられるようにしたい。



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

##### <各回参加人数>

実施日	参加者	保護者	合計
令和5年 6月 9日 (金)	2	トライやるウィーク	2
6月25日 (日)	2	1	3
7月23日 (日)	2	1	3
7月30日 (日)	3	2	5
8月 4日 (金)	9	動物愛護スクール	9
8月11日 (金)	8	動物愛護スクール	8
9月 2日 (土)	1	2	3
9月17日 (日)	1	1	2
9月23日 (土)	3	2	5
9月30日 (土)	3	1	4
10月 7日 (土)	1	2	3
10月15日 (日)	3	2	5
10月21日 (土)	1	1	2
10月22日 (日)	2	2	4
11月 6日 (月)	2	トライやるウィーク	2
12月10日 (日)	1	1	2
令和6年 1月13日 (土)	1	1	2
2月24日 (土)	4	2	6
3月27日 (水)	6	2	8
3月30日 (土)	1	1	2
<b>合 計</b>	<b>56人</b>	<b>24人</b>	<b>80人</b>

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【VRで体験！いぬねことのくらし】

生身の動物に触れる前に、疑似体験を経験できるツール（VR）の活用を通して動物の習性や行動について理解を深める。犬猫との正しい接し方や適切な飼育について学び、動物の気持ちを想像しながら、実際に動物に接するときにはどんなことに気をつけたらいいのかが子どもたちが自ら考え、他者に対する共感や思いやりの心を育てる。VRの体験と共に、環境省発行の冊子「どうぶつといっしょにくらそう」を使って動物の気持ちを考える。動物アレルギーを持つ子どもにも安心して参加してもらうことができる。




VR教材については、ネスレ日本株式会社の支援により、日程調整の上、無償で貸出をしていただいている。

VR教材の内容は、「犬・猫のかわいさと正しいふれあい方」「適切な飼育」の二部構成となっている。

使用対象は、目の発達や仮想空間を理解することに無理のない7歳以上とされている。

視聴動画の再生、一時停止はタブレットで操作を行う。

 **PURINA** 【協力】ネスレ日本株式会社 ネスレ ビュリナ ペットケア  
Your Pet, Our Passion.®



環境省発行「どうぶつといっしょにくらそう」



「どうぶつといっしょにくらそう」ワークシート

実施日	参加者	保護者	合計
令和5年 8月9日（水）	2	2	4
8月26日（土）	6	6	12
<b>合計</b>	<b>8人</b>	<b>8人</b>	<b>16人</b>

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業



目の前に実際に犬や猫がいるような映像が流れ、手を差し出して撫でる等の疑似体験が可能となっている。



犬へのあいさつの仕方を映像を通して学んだ後は、犬の模型を活用してあいさつをする。



車の中に置き去りの犬は、「一緒にいきたいよ」「一人にしないで」と気持ちを想像。また「車の中が暑くなって、死んでしまうかも」と熱中症の危険性にも気づいた。



付添で一緒に来たVR視聴の対象年齢未満の子どもにはタブレット視聴で対応した。

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・VRでねこやいぬをかっているみたいになってうれしかった。
- ・目の前にリアルな犬やねこがでてきて、さわり方など教えてくれてよかった。
- ・えいぞうがみれてたのしかった。
- ・ねこの気持ちもよく分かったし、VRで見るのが楽しかった。
- ・ねこが「イヤ」とあらわしているかもしれないから、そういうサインもしてみたいと思った。
- ・迷子の犬と会ったときのたいしょの方法を知ることができてよかった。猫と犬についてくわしく知ることができた。

VR機材の操作方法については、事前にネスレ日本株式会社 ネスレ ペュリナ ペットケアのご担当者にレクチャーしていただいた。タブレットで操作するプログラムであるため、推奨されている対象年齢の7歳未満の子どもに対しては、VR機材を着用せず、タブレットを視聴してもらうなど、きょうだいで一緒に参加できるように配慮した。

令和6年度はサマースクールでも実施する等、アレルギーを持つ子どもが参加できる機会を増やしたい。



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【「いのちの教育」プログラム】

「いのちの教育」プログラムは、2012年に奈良県で開発された主に小学生を対象としたプログラムであり、公益社団法人Knotsは同年6月より「いのちの教育」普及展開について奈良県と連携協定を結び、10年以上にわたってプログラムの普及展開や内容のブラッシュアップなどに関わっている。

管理運営業務を受託しているこうべ動物共生センターにおいても、動物共生教育事業として「いのちの教育」プログラムを導入している。このプログラムは、人間が一方向的に動物をかわいがるといふ「愛護」から、人と動物の関係性を知り、お互いを尊重する「共生」に重点を置いた内容になっており、子どもたちが自ら参加するアクティブラーニングの手法で3つのプログラムを通して「気づき」「共感」「責任」というステップを通し、相手の立場を想像しながら互いの「いのち」の大切さを学ぶ。他者への理解を深め、共感・思いやりの心を育て、規範意識を醸成し、心豊かな市民の育成に貢献する。

令和5年度は2校の依頼を受け、神戸市立泉台小学校2年生2クラス、  
神戸市立真陽小学校3年生2クラスで実施した。

実施日時：神戸市立泉台小学校 令和5年6月22日（木）／7月13日（木）／  
9月11日（月）2限目・3限目  
神戸市立真陽小学校 令和5年7月5日（水）／9月28日（木）／  
11月16日（木）3限目  
実施場所：神戸市立泉台小学校 多目的室／神戸市立真陽小学校 多目的室  
講師：公益社団法人Knots  
事務局長 北村美代子／企画教育部 企画教育係 金藏江津子  
参加人数：神戸市立泉台小学校 児童63名（2クラス） 教員2名  
神戸市立真陽小学校 児童40名（2クラス合同） 教員2名

### 《プログラムⅠ「私たちと動物との関わり」》

プログラムⅠでは、子どもたちが大型の張り子を「街」「牧場」「自然」の3つのすみかに運ぶ。「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《ペット》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《家畜》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《野生動物》が、それぞれの環境や人間とどのようにつながっているのかということに、子どもたちが自ら気づいていく。



張り子の動物たちを3つのすみかに運び、人間と動物がどのようにつながっているのかを一緒に考えつつ、「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《ペット》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《家畜》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《野生動物》という動物とそれぞれの関わり方があることに気づく。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 《プログラムⅡ「動物と私たちのいのちは同じ」》

プログラムⅡでは、動物にも人間と同じように感情があり、それぞれの動物には、私たちと同じように「生きるために必要なもの（ニーズ）」があり、気持ちがあることを学ぶ。「生きている証拠」を探し、「いのち」を実感できるものとして拡張心音計を用いて子どもたちひとりひとりの心臓の音を聞き比べ、同じ人間でもひとりひとりの心音に違いがあることを理解していく。こうした体験を通して、人間と動物が同じたったひとつの「いのち」を持っていて、「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であるという「共感」を生む。

全員の心臓の音を聞き終わった後に、なぜ一人ひとりの心臓の「音の大きさ」「速さ」「リズム」が違うかを子どもたちにたずね、ひとりひとり違う人間だから、心臓の音＝「いのちの音」もひとりひとり違うのだと気づく。自分の持っている「いのち」は世界でたったひとつのもの。そのたったひとつの「いのち」は、私たち人間だけが持っているものではなく、動物も同じように持っていることを理解する。



拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）



人間と同じように、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズがあることを2枚のパネルの絵を見ながら、それぞれの動物の気持ちを考えた。



左上のパネルでは、挙手で意見を出してもらい、「早く散歩に行きたい」「早く走りたいよ」「うれしいな」など、現在の犬の気持ちを想像して意見を出してもらった。

右上のパネルについては、ミニホワイトボードを使って思いつく限りの犬の気持ちを記述してもらった。「ぼくだけさびしいよ」「かまってほしいよ」「なんで飼ったの?」「飼育環境がひどい!」「体もマットも洗ってほしい」など、多くの意見が出た。

相手の気持ちを想像することで、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であり、「動物にもころがある」ことを知る。

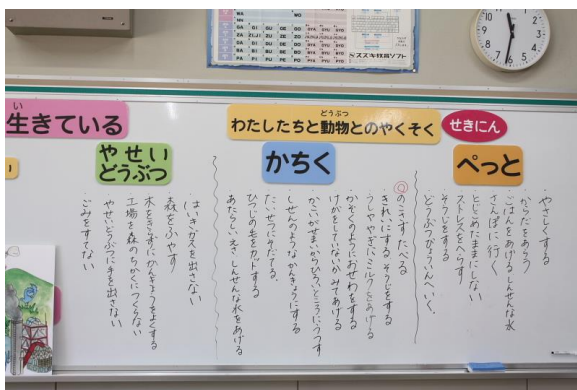
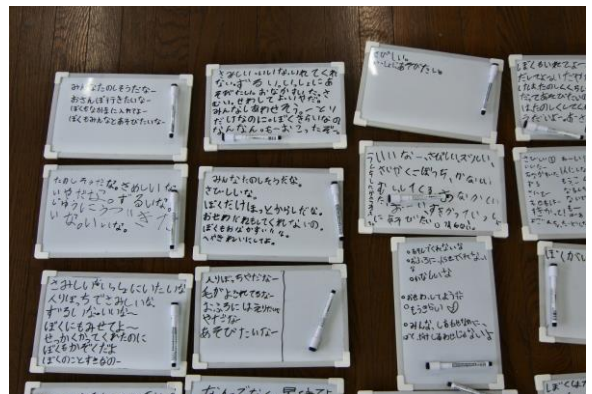


## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 《プログラムⅢ「動物のために私たちができること」》

プログラムⅢでは、私たちの周りにはいる動物たちが幸せに暮らすためにどんなことができるのか、何をしなければならないか、私たち人間が果たすべき「責任」について考える。自分たちが動物の「いのち」のために果たすことができる「責任」を「私たちと動物とのやくそく」として認識させ、身近なところから自分たちができることを考える。

「ペット」「家畜」「野生動物」が幸せに暮らすために、自分たちにできることを考えた。ここでもホワイトボードを活用し、みんなの前で意見を述べるのが恥ずかしい子どもも、自分の意見を書き込んで記録に残すことで、授業に参加したという一体感を生む工夫がされている。



《家畜》と同様に人間が世話をする《ペット》にも共通して考えられる「エサ（ごはん）・新鮮な水をあげる」「動物病院へ行く・けがをしていないかみてあげる」というような意見だけでなく、「広いところにうつす」「自然のような環境にする」「掃除をする」というような《家畜》が暮らす環境についての意見もあった。

また、人間の役に立つものを与えてくれる《家畜》に対して、「残さず食べる」といったことにも思いを馳せることができるため、食育や給食指導にもつながっている。

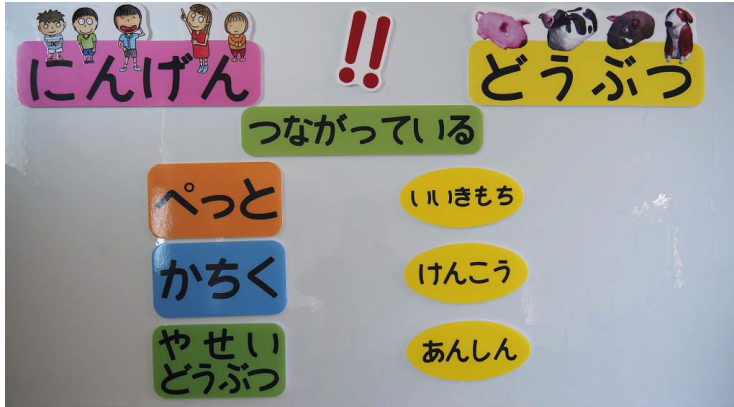
《野生動物》は人間が世話をせず自分の力で生きている動物であるため、《ペット》や《家畜》のようにエサを与えたり体を洗って清潔にしたりしない。《野生動物》のすみかである「自然」に対してできることを考える。

「排気ガスを出さない」「森を増やす」「木を切らずに環境を良くする」など、小学校低学年の学校教育では、まだ「環境」という概念を授業の中では指導していないが、人間や動物を取り巻く環境の大切さを自ら感じ取ってくれるようになる。



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

各プログラム実施の前に、前回の「ふりかえり」に十分な時間を費やしている。この「ふりかえり」の重要性については、奈良県「いのちの教育」研究協議会においても指摘されており、「ふりかえり」を行うことによって長期的に子どもたちの記憶の中に学習効果が定着すると言われている。



プログラムの要所要所で、パネルを見ながら全員で声に出して読み上げている。キーワードとなる言葉に対しては、次回のプログラムの導入部分につなげるため、記憶の固定化を促す工夫がされている。

##### 《子どもたちの感想より一部抜粋》

- ・ペットや野生動物のことがとてもくわしくなっていてうれしかったです。
- ・人間と動物がつながっているのは知らなかったから、それがすごいなと思いました。
- ・動物のたいせつさをおしえてくれてありがとう。
- ・いきものことがたくさんわかりました。いのちは人間も動物にもあるとわかりました。
- ・いのちがどれほどたいせつかがわかりました。
- ・しんぞうの音を聞いたりしたのが特に楽しかった。
- ・色々なことを教えてくれたから、少し動物に興味をもちました。人間と動物は共存して生きるべきだと思いました。
- ・しあわせの村で、こうべ動物共生センターに行ってみたいです

実施協力校が1校増え、神戸市立小学校2校で「いのちの教育」プログラムを実施することができた。ひとつの小学校ではプログラムⅢについては、オープンスクールの日に設定していただき、希望する保護者にも授業を見学していただけるよう、ご配慮いただいた。家庭においても、親子の会話の中で「ふりかえり」をする機会を提供できた。

張り子の動物を使ったこの「いのちの教育」プログラムは、動物アレルギーや動物が苦手な子どもも参加が可能であり、生体を使用しないため動物のストレスがなく、実施者も「動物に負担をかけている」というプレッシャーから解放されるというメリットがあり、子どもたちが心を開きやすくイメージしやすい動物を入り口とした汎用性の高い教育プログラムである。動物からの学びは、自分以外の他の存在に気づくこと、他者の心を知り、共感したり、感情移入することで、関わる他者に対して果たすべき責任がひとりひとりにあることなどを学ぶことができる。自分のできることから実行し、他者や社会全体の課題を自分の課題として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こすことができる「持続可能な社会の創り手」の育成にも貢献できる。令和6年度についても、泉台小学校、真陽小学校からは継続実施について相談があり、真陽小学校については実施日を調整済である。また、先生方のご異動に伴い、新たに広陵小学校からも実施依頼があり、2学期以降での実施で日程を調整している。実施校を増やしていくために今後も環境衛生課や教育委員会等と相談・調整を行っていく。

## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

### 【犬のしつけ方教室】

犬猫の飼育者が、動物の習性・生理やしつけ方等を習得することにより、適正な飼育方法の啓発を図り、他人に迷惑をかけず人と動物が共生できる快適な生活環境の確保を図る。また、当センターのみで飼い方相談事業を実施するだけでは、すべての神戸市民のニーズに応じることはできないため、その成果が広く市民に行き渡る仕組みづくりに取り組む。

#### 【今年度開催の教室】

- ①老犬との暮らし方教室      ②和犬教室

### 【適正飼養アドバイザー会議】

令和3年度より有識者・経験者で「適正飼養アドバイザー会議」を設置し、共生センターで開催するプログラムについて協議を行い、しつけ相談の対応についても適宜アドバイスをを行う。「適正飼養アドバイザー会議」の機能は以下のとおり。

- ①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
- ②上記プログラム実施に向けてのアドバイス
- ③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
- ④プラットフォームの研修体制の整備

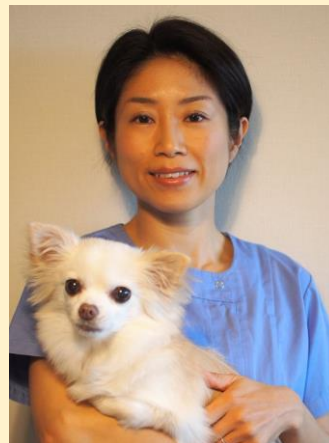
※③④については、令和4年度より取り組む予定であったが、新型コロナウイルスの影響により整備できなかったため、令和5年度に着手する。

### 適正飼養アドバイザーの先生方



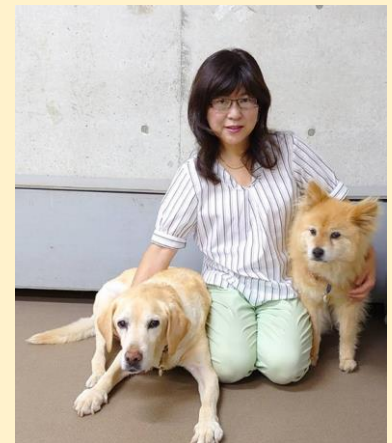
座長 村田香織先生〔獣医師〕

もみの木動物病院（神戸市）副院長／（株）イン・クローバー・代表取締役／公益社団法人日本動物病院協会（インストラクター養成講座委員会アドバイザー／こいぬこねこの教育アドバイザー養成講座メイン講師）／Veterinary Medical Network 行動学コンサルタント／動物ボランティアグループ・メイブリーズ代表／カフェ「ここっと」代表



近藤悦子先生〔獣医師〕

獣医師／「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」代表／獣医行動診療科認定医／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター



中塚圭子先生

宮崎大学客員教授／環境人間学博士／人とペットの共生環境研究所所長／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター／人と犬との共生教室「ドルチェカーネ・中塚」主催／JKC公認訓練士

## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室の参加人数と参加犬数は以下のとおりである。

開催日	教室名	講師	参加人数 (付き添い含む)	参加犬数
令和5年 5月6日 (土)	老犬との 暮らし方教室	JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 中塚圭子先生	10	7
12月9日 (土)	和犬教室	「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」 代表／獣医行動診療科認定医／ JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 近藤悦子先生	5	2
合計	2回実施		15人	9頭



【老犬との暮らし方教室】の様子



【和犬教室】の様子

2つの教室の開催を通して、市民のニーズにいかに応えていくかという課題に直面した。問題が解消しない飼い主や、継続して学ぶ意欲のある飼い主に対して、共生センターで可能な支援を行うだけでなく、地域の動物病院や教室等につないでフォローする体制の必要性を痛感した。こうべ動物共生プラットフォームを構築することで、地域でのフォローを可能にしていきたい。



## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室のプログラム開始時に、動物管理センターより内容を踏襲した以下の資料を配布し、共生センタースタッフより「飼い主の責務」について講義を行った（10分程度）。

### 犬と暮らすうえで知っておく必要のある法令

#### ◎狂犬病予防法

- ・登録と狂犬病予防注射について（狂犬病予防法で定められた「飼主の義務」です）
- 登録：犬の生涯に一回
- 狂犬病予防注射：生後90日を超えたら注射をしましょう。それ以降は毎年4月から6月の間に受けましょう。（3月下旬に（公社）神戸市獣医師会から「狂犬病予防注射のお知らせ」が郵送で届きます。）
- 鑑札と注射済票は首輪等につけておきましょう。無くした場合は（公社）神戸市獣医師会で再発行します。
- 住所変更、犬の死亡の場合等は、届出が必要になります。（公社）神戸市獣医師会に届けを出してください。

#### ◎動物の愛護及び管理に関する法律・兵庫県動物の愛護及び管理に関する条例

- ・犬の飼い主として守るべきルール
  - 放し飼いはやめましょう。散歩中に公園等でリードを放すのもやめましょう。
  - ウンチは必ず持って帰りましょう。
  - 鳴き声、臭いなどでまわりに迷惑をかけないようにしましょう。
  - ・不妊手術をしましょう  
飼えない子犬をふやさないために、必ず不妊手術（雄は去勢手術、雌は避妊手術）をして下さい。生後6か月を過ぎたら具体的に手術の日取りを考えて下さい。料金等は病院によって違います。
  - ・しつけをしましょう  
犬との信頼関係を築いたうえで犬に、人間社会で暮らしていくための、ルールをやさしく教えてあげましょう。しつけの基本は「しかるよりほめる」です。
  - ・万一、犬が迷子になってしまったら  
姿が見えなくなったらすぐに「動物管理センター（動物愛護センター）」及び「警察署の会計課」に電話して下さい。見付かった時の取り消しの電話もお忘れなく。
- ※迷子にさせないことが一番大事です！
- ※マイクロチップの装着について  
直径2mm・長さ10mm程度のマイクロチップを首の後ろの皮下埋め込みます。これには特有の番号が記録されており、登録しておくことで機械で読み取り連絡先等が分かる仕組みです。
- ・咬傷等の事故が起きたら  
最寄りの保健所（衛生監視事務所）に飼い犬事故届を提出して下さい。人を咬んだ場合狂犬病の有無について獣医師の健診を受けて下さい。

こうべ動物共生センター

各教室の報告は、次ページ以降のとおりである。

## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

### 【老犬との暮らし方教室】

対象：老犬とその飼い主 参加費：無料  
希望者は犬を連れて参加で可能とし、老犬との暮らし方において悩みごとを共有しつつ、老犬用グッズ・介護グッズ等を体験して、生活の中で工夫できることを学ぶ。

開催日程：令和5年5月6日（土） 13:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 中塚圭子先生

参加人数：飼い主10名（付き添い含む） 犬7頭



「シニアペットと暮らすには自信をもって見守り、犬も人も仲間と楽しく過ごすことも大切です。仲間とは相談し合える利点があるので、仲間同士で愛犬を見守りましょう」と先生が飼い主さんたちに語りかけてくださった。今回は「食事」「歩行」「生活」「介護」という分野に分け、食事の方法、生活におけるサポートの工夫、介護用の犬具、寝床などについて詳しく取り上げていただいた。



「食事」については、誤嚥防止への対策について詳しく教えていただいた。手作り食であれば繊維質が消化しきれなくなるため、ブレンダーなどで繊維質をよく断ち切ってから提供する。また、下痢をしていないか観察が必要である。

「歩行」については、犬のペースに合わせて外を歩き、肉球にいろいろな刺激を与えることも大切である。

「生活」全般については、排泄が自分で出来なくなってしまったときにはおむつを使用するが、排泄後にお尻を洗うことで犬も気持ちよく過ごすことができる。

## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）



犬の肺は人間のように横に広がっているのではなく、身体に沿って縦になっているため、横に寝かせると肺が潰れて苦しくなるとのこと。身体の下にクッションなどをあてて少し斜めの姿勢にすると楽に過ごせるという方法についても伝授していただいた。



立ち上がりが困難になってきたと相談された飼い主さんに対しては、介護用犬具の使い方のアドバイスと共に、その場で試用させていただいた。犬具を上手に使用することで、大型犬でも立ち上がって歩くことが可能になる。

一頭一頭抱えている悩みや課題が異なるが、ひとつひとつ丁寧に答えていただくことで、悩みごとの解消にもつながっている。

### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ケアの仕方等、とても参考になりました。知らなかったことたくさん教えていただきました。
- ・見送る日のことを考えてばかりではダメだと気付きました。
- ・久しぶりに喜ぶ姿、落ち着いている様子、立った様子などが見れて感動しました。嬉しかったです。ありがとうございます。
- ・「いかないで」と泣くよりは「ありがとう」と見送るという言葉が胸に刻んで日々一緒に過ごします。

これまでは、実際に介護に直面している飼い主の参加が多かったが、今年度は「将来に備えたい」という希望があり、まだ若い犬の飼い主の参加もあった。散歩や食事、排泄等飼い主がそれぞれ違った悩みを抱えており、その気持ちに寄り添いながら一頭一頭のケースについて助言をいただいた。このような老犬に対してのプログラムが少ないため、「回数を増やして欲しい」といった声がセンター開設当初より聞かれ、次年度はようやく回数を増やして実施できることとなった。今後も移動が困難な大型犬の飼い主の要望に応えられるよう、各地域での開催を目指したい。



## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

### 【和犬教室】

対象：生後6ヶ月齢までの和犬（和犬系の雑種犬を含む）とその飼い主 参加費：無料  
「自立心旺盛」「頑固」「警戒心が強い」という性格の特性を持った柴犬等の和犬の特性について理解を深めながら、犬を飼うことの基礎知識だけでなく、日常生活の中で必要な基本的なしつけ方、接し方等を学ぶ。

開催日程：令和5年12月9日（土） 10:30～12:30

開催場所：共生センター ふれあい室・センター前広場

講師：獣医師/JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 近藤悦子先生

参加人数：2家族（5名） 犬2頭



子犬が様々なことを経験・学習する「社会化期」と呼ばれる時期は、一般的に生後3週齢から16週齢（4ヶ月齢）と言われている。「社会化期」は、家の中だけでなく外に出て色々な人に出会ったり、散歩で他の犬とにおいを嗅ぎ合ったり、様々な刺激を受けて社会性を身に付ける大切な時期である。今回参加した犬たちはちょうど同じ月齢で誕生日も一日違いという2匹だった。



うまくおやつを使用しながら「人の手はおいしいものを与えてくれる」「人の手は怖くない」「人に会うといいことがある」と学習し、人に対する警戒心を無くしていく。

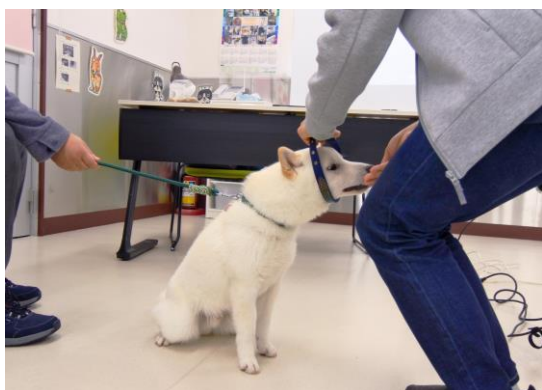
## ⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

### 屋外での散歩・遊び



外を散歩する練習。少し歩くと犬同士お互いに遊びに誘う行動も出てきた。興奮しすぎる手前で一旦休憩をさせるなど先生が見守りながらしばらくの間遊ばす。

### 室内での講義



犬のしつけにおいては、罰（体罰）を用いるのではなく、好ましい行動をほめてその行動が増えるように導いたり、人にとって嫌な行動（甘噛み等）はそのような行動が出た際無視する等して、その行動が減るように導くというやり方について詳しく説明していただいた。

他にもうまくご褒美を使用しながら、嫌がらずに首輪を装着する方法や、ブラッシングの仕方など教えていただき、普段の生活で上手に犬と付き合っていく術を学んだ。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・人間が思っている以上に犬がいやがっている場合があるため、行動を注視していかないといけないと知りました。

和犬らしい特性を持った犬が参加し、「社会化」の重要性の理解が深まったように見受けられた。小さなことと見過ごしていても、それがゆくゆくは問題行動へと発展していく可能性があるということも学ばれ、皆さん熱心に先生の話聞きながら実践されていた。

初めて犬を飼われた飼い主さんと先住犬が柴犬で2匹目も柴犬という飼い主さん、2組のご家族が参加され、一緒に参加されたお子さんもそれぞれの犬への接し方を学ぶことが出来た。引き続きフォローも行うこともお伝えした。



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 【飼い主相談】

犬猫等を飼育する前や飼育した後のしつけ・飼育等に関する飼い主等の各種相談に応じることにより、飼い主のライフスタイルに合った動物との生活の提案や、飼育継続が困難な状況等の相談への早期介入を行い、動物の終生飼養の支援や福祉部署との連携等による問題解消を図る。

ひとりひとりの市民の課題に寄り添い、ひとつひとつの「市民の幸せ」を実現することと、「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現する。

### ◎飼い方相談・犬猫のしつけ相談

犬のしつけや問題行動の解消に関する専門家が、電話や来所による面接により相談を受け付けアドバイスを行う。愛玩動物飼養管理士である専任職員が対応する。

相談内容により、市による対応が必要であると判断された事案について、市に対し情報提供を行う。

#### ●電話、メールによる相談

開所時間内は随時対応した。犬猫等の健康に関する相談については、毎月第一水曜日の獣医師による健康相談（電話）を案内。しつけや問題行動の解消に関する相談については、毎月第一金曜日の獣医師による問題行動相談（電話）や、来所による相談についても案内。

また、飼育継続困難となった等の引き取り希望の相談については、神戸市の指示により生活衛生ダイヤルを案内している。

#### ●来所による相談（事前予約制）

愛玩動物飼養管理士である専任職員だけでなく、相談内容により訓練士、インストラクター等の有資格者が相談者に助言・指導を行う体制を整えた。本橋孝志訓練士に依頼し、相談日時は月に2回×3組/1回、1組45分とし、事前予約制でマンツーマンで対応した。



市民相談室にて詳しく聞き取りを行った後、必要に応じて屋外での指導・助言等を行う。一頭一頭に合わせたきめ細かい対応を行っている。



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 電話による健康相談・問題行動相談の対応について

相談電話専用ダイヤルにて市民からの相談を無料で受け付けた。健康相談、問題行動相談共に、神戸市の事業として公益社団法人神戸市獣医師会所属の獣医師が市民相談室にて電話による相談に対応した。令和4年度からは水曜日の健康相談が第一水曜日のみとなっている。

相談専用ダイヤル：078-747-3063（直通）

◎健康相談：毎月第一水曜日 13:00～16:00

◎問題行動相談：毎月第一金曜日 13:00～16:00

当法人職員は、当番の獣医師に相談ファイル一式の受け渡し、獣医師が離席中の電話対応等を行った。また、問題行動相談については、電話だけで問題が解消できない場合について獣医師の判断で飼い主に来所してもらい相談を受け付けるケースがあり、その場合の予約管理のサポートも行った。

### 令和5年4月～令和6年3月までの来所による相談件数

年／月	相談実施日	相談件数	参加人数	参加頭数
令和5年4月	8日（土）／15日（日）／ 28日（金）	3	8	3
5月	3日（水・祝）／28日（日）	4	10	4
6月	26日（月）	1	2	1
7月	23日（日）	2	3	2
8月	12日（土）	2	4	2
9月	6日（水）	1	2	1
10月	4日（水）／28日（土）	5	10	5
11月	12日（日）	1	2	1
12月	13日（水）	2	3	2
令和6年1月	7日（日）／22日（月）	3	7	3
2月	14日（水）／24日（土）	4	8	5
3月	10日（日）／21日（木）	3	7	3
<b>合 計</b>	<b>19日実施</b>	<b>31件</b>	<b>66人</b>	<b>32頭</b>

## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 【子犬のしつけ方相談会】

対象：生後4ヶ月齢までの子犬とその飼い主 参加費：無料

成長して問題が起こってから対処するのではなく、社会化期に様々な経験を積むことで問題行動を予防し、人間社会で楽しく幸せに暮らせるようにする。

開催日時：令和5年12月17日（日）14:00～16:00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：獣医師/JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 村田香織先生

参加人数：受講者2家族 犬2頭



先生から、概ね4ヶ月くらいまでの子犬はとても頭が柔軟で、この時期、は様々な刺激に慣れることで多くのことを学んでいく「社会化期」とも言い、親犬や兄弟犬との関わりの中で犬のルールも学び、人間と触れ合うことで人に対しての社会性も身に付けていくと教えていただく。



引っ張りっこの遊びに使うロープ、人との社会化に使うおやつを入れるケース、普段のトレーニングに使うご褒美をいれておく小さなケース。ロープは子犬が遊びの中でルールを学ぶだけでなく、噛みたいという要求を満たすことで「甘噛みへの対応」にも活用できる。社会化に使うおやつは、外で初めて出会う人から与えてもらうことで、「おいしいものを与えてくれる人」「人の手はこわくない」と子犬が学習できるツールとなる。



握った手の中におやつを入れ、犬が夢中になっている間に、抱っこをしたり、犬の身体のいろいろな所に触れ、触られることに慣れさせる。

#### ≪参加者の声より一部抜粋≫

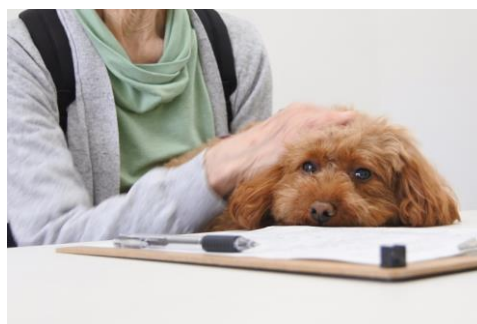
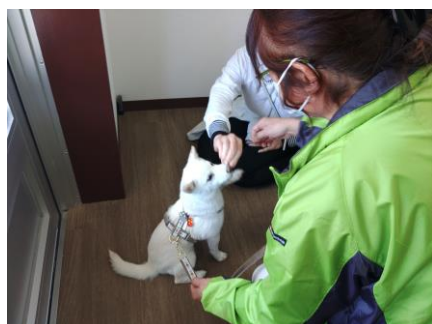
・噛まれないようにすることが大切だということを学びました。

今年度は、参加しやすいよう休日に開催した。今回は2匹とも、甘噛みに困っているという相談内容だったため、先生からはそもそも犬にとって「噛む」ということはどういったことかということや、「噛ませない」ためにはどのような対処をしていけばよいかということ、細かく教えていただいた。今後のフォローについても可能な限り対応させていただくこともお伝えした。

## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年4月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/4/8	豆柴	5ヶ月	オス	未済
相談内容				
サークルの中では排泄しない（外に出るまで我慢している）。オスワリ、フセができない（エサ/おやつを見せると飛び上がる）。シャンプーが苦手。エサの匂いを嗅ぐと要求鳴きをする。興奮しすぎておしっこを所かまわず漏らす。				
対応について				
くつろげる場所とトイレを放すことを提案。排泄時に排泄を促す言葉「ワン・ツー」等声かけをすることをすすめた。「オスワリ」の時に立ち上がらないようほうびを鼻先に持っていきコントロールしながら「オスワリ」「フセ」をさせる方法を実演し、その場で飼い主に練習をして頂いた。シャンプーを嫌がることについては、まず体をどこでもさわられるよう慣れさせたうえで身体をぬぐう練習から始め段階を踏みながら少しずつ水やシャワーに慣れさせることをすすめた。食事の時の要求吠えに関しては、吠える事で要求が通るという学習をしないように、吠えると同時に吠えた犬を置いてきぼりにし部屋から出ていったり、エサを出すのを一旦やめるなどする方法を伝えた。興奮しすぎるとおしっこを漏らすことについては年齢の問題もあるので温かく見守ると共に興奮をさせ過ぎないように心がけることをすすめた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/4/15	トイプードル	6ヶ月	メス	未済
相談内容				
歯磨きをとても嫌がる。子犬なので今後しておいた方がよいこと、気をつけることがあれば知りたい。				
対応について				
歯磨きについては長時間押さえつけて一度に全部することは避け、短時間で少しずつ慣らすことから始めることを伝えた。また子犬のうちから身体のどこでも触れるように、ごほうびなどで気を逸らしながら身体に触れて触られることに慣れさせる。「オスワリ」「フセ」「マテ」などの基礎的なトレーニングを日常的に行うことをすすめた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/4/28	トイプードル	2歳	オス	済
相談内容				
留守番の時に誰もいないとずっと吠えている。怖がりで工事の音などでも吠えてしまう。チャイムが鳴って人が来ると尻尾を振って喜んで吠える。人は大好きで人がいるとおとなしい。				
対応について				
「外が見えると反応して吠えるので、外が見えない位置や部屋に場所を移す」「クレートやキャリーに入れて、そこで待てるようにする」等を訓練方法も併せて伝えた。チャイムが鳴ると反応することについては「玄関に行かせない」留守番については飼い主が外出するふりをしてクレートで待てたら褒める、玄関を開け閉めして慣らしていくなどの方法もすすめた。				





## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年5月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/5/3	ボーダーコリー	6ヶ月	オス	済
相談内容				
お散歩に出る時、急に興奮し走り回って飛びつくことがある。飼育環境をどのようにしたらよいか。				
対応について				
ボーダーコリーの犬種特性を伝え、運動量がとても必要な犬種であり、興奮する場合は散歩に出る前に庭でボール遊びなどをして少し落ち着いてから散歩に出るなどアドバイスした。何かをするときは必ず「オスワリ」のコマンドを出してから行い。家の中でも楽しくストレス発散できる方法や頭を使いながら楽しめるノーズワークなども併せて伝え、好奇心旺盛で運動が大好きな特性を満たすようにアドバイスした。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/5/28	MIX	6歳3ヶ月	オス	未
相談内容				
兄弟犬が4匹おり3年ほど保護施設に居た子を引き取った。犬に対しての問題はないが、人が苦手で特に子どもと男性が苦手。家の中では近づく長男に対して唸りや遠吠えがあり困っている。				
対応について				
人に対して臆病なようすが見受けられたため、人に慣れさせるためにも必要な日常的なトレーニングを具体的に説明。 飼い主の指示で「オスワリ」「フセ」などできるようにした上で「マテ」をトレーニングし飼い主の指示で決まった場所で落ち着いてじっとできることを目標にすることをアドバイス。長男を含め家族全員で日常的なトレーニングをすることで少しずつ人にも慣れ、トレーニングで犬と接する機会が増えることで、犬にとっても人が安心できる存在になれることを伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/5/28.	MIX	7ヶ月	メス	未済
相談内容				
噛み癖、散歩中に吠える。トイレトレーニングについての相談。				
対応について				
噛み癖についてはまだ歯の生え変わり途中で、歯がむずむずして物を咬む欲求がある時期であることを伝え、咬む欲求を満たす咬んでもよいおもちゃを与えた上で、咬んでもよいものといけなものを教え、手などを咬んだ場合は「あっ！」と言ってその場から離れ、少しの間飼い主の姿を見せないようにすることを繰り返す、咬むことで犬にとって好ましくない状況になることを教えることで咬むことが徐々に抑えられるとアドバイス。 トイレトレーニングについても具体的な方法を伝えた。				



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/5/28	マルチーズ	1歳5ヶ月	オス	済
相談内容				
室内を走り回るのが激しい。マンションの1階に住んでいて居室のすぐ横に共用の裏口があり、そこを通る人に激しく吠えるのでやめさせたい。				
対応について				
室内での走り回りについては、犬の運動に対する欲求を十分に満たすことが必要であることを伝え、散歩の時間や遊び方についてアドバイス。共用裏口の人への出入りに対して吠えることについては、犬の自由にできる場所を制限し共用裏口の近くに行かせないようにし、カーテンなどで外の様子を見えなくしたり、テレビやラジオなどの生活音で外の様子に気づきにくくなる環境づくりを心がけることをアドバイス。				

### 令和5年6月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/6/26	チワワ MIX	13歳3ヶ月	オス	済
相談内容				
約1ヶ月前に13歳の保護犬を家に迎えたが抱っこしようとしたら咬むことがある。いつ抱っこしても咬まれないうようにしたい。信頼を深めたい。				
対応について				
犬が寝ている時やソファの上でくつろいでいる時に抱っこしようとするとう咬むとのことだったので、いきなり抱っこせず犬の方から近寄ってきた時に相手をするようにし、撫でる時も頭の上から撫でるのではなく、身体の下の方から撫で徐々に慣らしていくことを伝えた。家に来て1ヶ月弱であり、保護犬のため以前どのように飼育されていたのかわからないので、自分の名前を認識できるようおやつを使いながら名前を呼んで近寄ってくれば与えることを繰り返し、「飼い主の方に来たら楽しいことがある」という風に教え慣らすことをアドバイスした。				

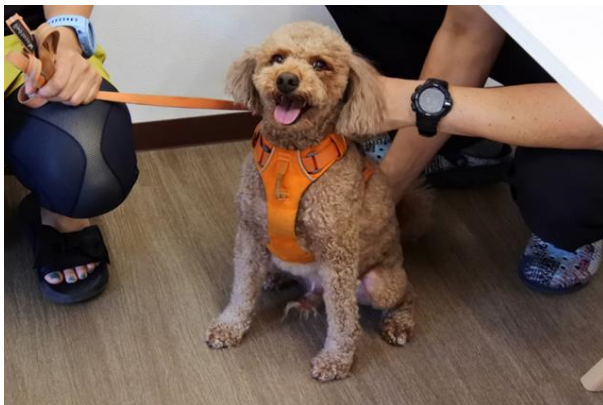




## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年7月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/7/23	トイプードル	3歳6ヶ月	オス	済
相談内容				
早朝、クレートから出すと子どもが寝ている場所に行き、寝返りをすると手に咬みつく。怖がり、警戒して吠える。				
対応について				
犬を抱き上げ背中側を飼い主の胸につけるようにし、抱っこをして力が抜けてきたと思ったら下におろすことを繰り返し身体に触れられることに慣れさせる。犬が自分でしたいことを優先することなく、飼い主の言うことを聞いたらごほうびを与えることを繰り返すことを伝えた。怖がり、吠えることについては飼い主の声かけも刺激となる場合があるため、犬が吠えても飼い主が反応しないようにし、普段から飼い主の言うことを聞けば良いことがおこる、指示に従えば褒めてもらえるということを繰り返し、普段から十分にコミュニケーションをとることで、家族が頼りになる存在であることを伝えるようにすることをアドバイス。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/7/23	キャバリア	7ヶ月	メス	済
相談内容				
覚えていたトイレが家の中で全くできなくなりました。犬が相手にされていない時など気に入らないときにおしっこを床ですしてしまう。ドッグフードを手であげないと食べなくなりました。				
対応について				
トイレについては犬の精神的なことも影響し、不安になったり、自己主張をするためにマーキングしている場合があり、犬の不安要素を取り除くことで落ち着いて過ごせるのではないかと伝え、サークル内で一定時間過ごさせることや、クレートトレーニングを行い、最初は短い時間からはじめ徐々に待つ時間を延ばし、きちんと待つことができればごほうびを与えそこに入れば飼い主が良いことをしてくれると学習させることをアドバイス。フードについて、半分は手で、残り半分は器で与えることを試すこと伝えた。				





## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年8月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/8/12	スタンダードプードル	6ヶ月	オス	未済
相談内容				
トイレの場所を覚えていそうだがトイレに前足だけ入れて排泄する。トイレから少し離れた場所で排泄してしまう。生後5ヶ月の頃にブリーダーから迎えた。普段はリビングルームで過ごし、留守中もリビングで自由にさせている。				
対応について				
トイレの設置状況を確認したところ、犬の大きさに比べて小さ目のトイレシートのワイドサイズ（45×60cm）対応のトイレを使用していたため、スーパーワイドサイズ（60×90cm）対応の大き目のトイレに変更することをすすめた。トイレの境界が犬にもはっきりと分かるようにできればサークルなどでトイレの周りを取り囲むような構造にすることをすすめた。排泄時にどういった仕草をするかを観察し、排泄のタイミングを見計らって排泄時に「ワン・ツー」などの声かけをすることを助言し、声かけと排泄行動が結びつくよう習慣づけることをアドバイス。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/8/12	トイプードル×チワワ MIX	2歳9ヶ月	オス	済
相談内容				
怖がりな面があり、無駄吠え、咬み癖がある。1歳ぐらいの頃から様々な問題が出てきて、一匹で留守番をしている時は家のチャイムが鳴っても外で物音がしても一切吠えないが、家に誰かがいるときは、家の前を通る車の音や近所の犬が吠えた声に反応して吠えるようになった。				
対応について				
普段は家で自由に行動していたため、ある程度犬の行動範囲を制限し飼い主の指示のもと一定の時間サークルやクレートで過ごさせるよう進めた。不意な動きに対しての過剰な反応が見受けられたため、飼い主が動く前に「オスワリ」などの指示を与えたり、クレートの中に入らせるなどしてから飼い主が動くように工夫し、「咬む」というシチュエーションをつくらぬよう気をつけることを伝えた。併せて、犬の行動のコントロールを行うためにも、必要な日常的なトレーニングについて具体的に伝えた。				

### 令和5年9月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/9/6	ラブラドルレトリバー	10歳	オス	未
相談内容				
飼い主の母がコロナに感染した後から、咳をすると逃げてしまう。家でも母のことだけを避け一緒に散歩に行きたがらない。				
対応について				
家での様子を伺うと朝のごはんについては飼い主の父が与えていたため、信頼関係を再構築するため母が朝夕のごはんを与えるようにすることをアドバイス。犬の嫌がることをしない（嫌がる場所に行かない）なども併せて伝えた。今年の夏の暑さは尋常ではなく、散歩に行かないのは気候や年齢的なことも影響している可能性もあるため、飼い主の母の体調が戻り、少し涼しくなるまで様子を見てそれでも散歩に行きたがらない状況が続くようであれば、再度相談してもらうよう伝えた。				

## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年10月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/10/4	トイプードル	9ヶ月	メス	済
相談内容				
無駄吠え、音に反応する、通行人に吠える。朝起きたら吠える。				
対応について				
犬が吠えることは自然なことであることを伝え、吠えてもらいたくないときに「ヤメロ」とコマンドを出して静かにできたらご褒美を与える。オスワリをして待つことができればごほうびを与えるなどを繰り返し、飼い主の指示をきけば良いことがあるということを犬が学習するトレーニングを繰り返しおこなうことを伝えた。飼い主との信頼関係を築き飼い主が犬にとって安心できる存在になることで散歩に出ても怖がるのが減り、散歩で運動量が増え満足度があがれば無駄吠えも減っていくことを伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/10/4	トイプードル	3歳9ヶ月	オス	未
相談内容				
最近、両親と同居を始めたが両親のみ咬みつく。				
対応について				
両親に犬を預けていたときは咬まなかったが、同居を始め環境が変わった不安もあり、両親のことを家族だと認識している途中ではないかと伝えた。どの犬でも撫でられたら喜ぶ訳ではなく、嫌がるサインを出していたらやめる。犬の方からかまってほしいと自分から寄ったときは直ぐに触らず、「オスワリ」などの指示を出し従ってから触るようにすることで飼い主の指示をきくことができるようになると伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/10/28.	ラブラドルレトリバー	3歳	メス	未
相談内容				
吠えるのをやめさせたい（インターフォンが鳴ると吠える。外の道路に通行人の気配があると吠える）。突撃してジャンプする。 普段リビングで犬は自由に過ごしていて、玄関にも近く外が見えすい。家は住宅街の中で静かな環境。家の中もテレビなどはあまりつけずに静か。 相談者が1ヶ月入院中、朝は大型犬の飼育経験がない人、夜は飼育経験がある人に散歩してもらっていたため、散歩に連れて行ってくれる人がインターフォンを鳴らすことでピンポンに反応するようになった。				
対応について				
犬が過ごす場所を外の様子に気づきにくい場所に移動することをすすめ、静かな環境だと外の様子に気がいきやすくなるので、ラジオやテレビなどの音を聞かせて周りの物音に気づきにくい環境にすることをアドバイス。 日常的にトレーニングをする習慣がなかったため、短時間でよいので日常的に「オスワリ」「フセ」「マテ」のトレーニングをすることをすすめた。並行し、飼い主に注意が向けられたときに犬の名前を呼んで呼び寄せやってきたらごほうびを与えることを繰り返すことをアドバイス。日常的に「マテ」などの飼い主の指示に従わせるトレーニングを繰り返すことで吠える代わりに指定の場所で待つ行動へ切り替えていくことをすすめた。				

## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/10/28	柴	1歳3ヶ月	メス	済
相談内容				
怖がりな面があり、無駄吠え、噛み癖がある。噛み癖がひどく、本気噛みをする、特に散歩中に咬む。散歩のときは先々自分が前に行こうと興奮気味、止まって座り込むことも多く無理に引っ張ると怒って咬んでくる。他の犬を見ると興奮気味になる。満足に遊べないと興奮がおさまらないのか飼い主を咬んでくることもある。				
対応について				
基礎的なトレーニングを日常的に行っていなかったため、普段の生活の中で行うことをすすめ具体的なやり方を伝えた。咬むなど、飼い主にとって望ましくない行動をしたときには、行動した瞬間に「イケナイ」などの言葉を言ってから犬から離れることを提案。「マテ」などの犬の行動を制御するトレーニングを繰り返し、飼い主にとってよくない行動をする前にとめることを伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/10/28	ミニチュアシュナウザー	6ヶ月	オス	未済
相談内容				
手や服に咬みつく（人、服、ブラッシングの際のブラシなど）。家の中では外を歩く人やインターフォンに吠える。散歩に出た際は興奮して吠えまくる（自転車やバイクなど）。拾い食い、ウンチを食べる。				
対応について				
子犬で基礎的なトレーニングを日常的に行っていなかったため、普段の生活の中で行うことをすすめ、ごほうびを使った「オスワリ」「フセ」などのやり方を具体的に説明し実際にも体験していただいた。併せて名前を呼んで呼び寄せごほうびを与えることや、指定した場所で「マテ」ができるようにトレーニングすることを伝えた。				



## 令和5年11月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/11/11	スタンダードプードル	6ヶ月	メス	未済
相談内容				
ひどい甘噛みと要求吠えのしつけに困っている。大型犬なので早めに何とかしたい。サークル、クレートは使わずに普段は自由に過ごさせていて、夜は寝室で一緒に寝ている。				
対応について				
サークル、クレートトレーニングをおすすめし一定の時間過ごさせることを提案し、甘噛みについては咬んでよいもの咬んではいけないものを決めて、咬んではいけないものを咬んだときは「イケナイ」などの声を出して部屋から立ち去り一定の時間、犬を一人ぼっちにさせることを提案した。				



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和5年12月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/12/13	柴	3ヶ月	メス	未済
相談内容				
散歩に行こうとして、首輪を着けようとしたり抱っこしようとしたら咬みつく。食事のときに咬みつく。				
対応について				
<p>基本的なトレーニングについて具体的に伝え、「マテ」や呼び寄せのトレーニングを十分に行い、優しく撫でるなどして体にふれさせることに慣らしながら、ゆっくりと抱き上げるように伝えた。</p> <p>また、器にフードを一度に入れずに飼い主の手から与えたり、少しずつ器に入れて飼い主の手に慣れさせる方法を伝えた。</p> <p>子犬のため十分に運動をしエネルギーを発散させ欲求を満たしながら遊び、おもちゃについては与えっぱなしにせず、その都度片付け独占欲がつかないように気をつけるよう伝えた。</p> <p>4～5ヶ月になってもおさまらない場合はしつけ教室も検討するようにすすめた。</p>				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/12/13	柴	5歳	メス	済
相談内容				
2週間前に繁殖引退犬を引き取った、特に大きな問題はないが、これから犬との生活をどうすれば良いか。家で留守番中に見守りカメラで観察すると脚をずっと舐めているようすが映っていた。犬にも人にも吠えることはなく、犬にも無関心なようす。				
対応について				
引き取って2週間ということで環境に慣れさせるため、名前を呼んで呼び寄せることや、「オスワリ」「フセ」などの基礎的なトレーニングを繰り返すことをすすめた。				



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和6年1月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/1/7	ミニチュアシュナウザー	2歳6ヶ月	オス	済
相談内容				
家のトイレで排出できない散歩し始めたら家でしなくなった。定期的に庭か散歩に出て排出させている。散歩のときにかなり引っ張り吠える。				
対応について				
先住犬のトイレと隣接してトイレがあるとのこと。トイレを離すことと、先住犬にマーキングされないように周りを囲って排泄時のタイミングでトイレに連れて行きそこで排泄を促す言葉かけをすることを提案。散歩中の引っ張りについては日常生活の中で基礎的なトレーニングを心がけ、特に名前を呼んで近くに呼び寄せるトレーニングを繰り返すことを提案。 散歩時には引っ張ろうとする時には、飼い主が呼び寄せ横につけるよう心がけると共にリードを常時張らないようにコントロールする、飼い主の主導の下で犬の方が飼い主についていくようにすることを心がけるよう伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/1/7	トイプードル	7ヶ月	メス	未済
相談内容				
散歩が怖いのかすぐ帰ろうとする、そのため散歩は家の周り、他の犬と出会っても逃げ回り交流できない。一旦離れると捕まえられない。拾い食いをする。銀杏、ガム、タバコのフィルターなど口に入れるなど。				
対応について				
日常生活の中で基礎的なトレーニングを心がけ、呼び寄せると来るようにすることを目標とし具体的なトレーニング方法についても伝えた。 おもちゃ等は、与えっぱなしではなく飼い主の管理の元でその都度出し、遊び終わったら片付ける習慣をつけるように伝えた。 日常のトレーニングを繰り返し、家の外でも飼い主の指示に従えるように徐々にトレーニングすることをすすめ、クレートトレーニングの具体的な方法も伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/1/22	トイプードル	9歳4ヶ月	メス	済
相談内容				
5年前に知人から引き取った。あまりかまってもらっていなかった様子。 吠える。物への執着が強く、前触れもなく急に咬みつく。おしっこをシートでしてくれない。 ケージに入れている時間が長い。				
対応について				
基礎的なトレーニングをすすめ具体的な方法を伝えた。長時間ケージに入れることは避け自由に出入りできるようにし、トイレスペースを広めにしていずれもケージ内のトイレを使えるようにすることをすすめた。咬むことに関しては咬んだときには犬から離れ無視をすることで犬にとって好ましくない状況をつくる。おもちゃに執着した場合は他のおもちゃやおやつなど別のもの誘導し離させ、その都度片付け与えっぱなしにしないよう伝えた。				

## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和6年2月来所による相談の対応事例

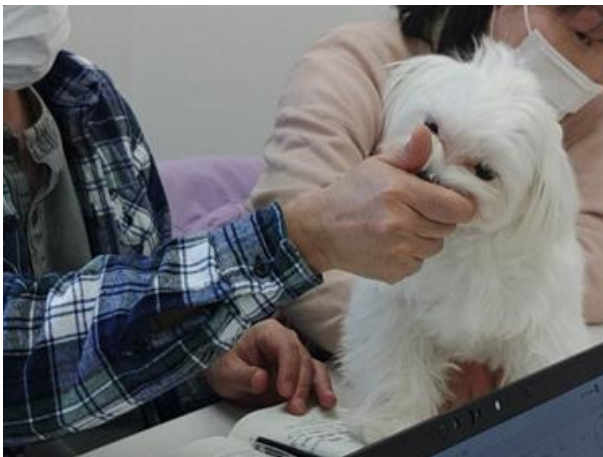
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/2/14	カネ・コルソ / グレートデーン	2歳 / 6ヶ月	メス / メス	済 / 未済
相談内容				
犬に飛びつく 動物に飛びつく				
対応について				
基本的なしつけをきちんとするように（座る・待つ・呼んだら絶対にくる） 犬の都合のよいようにするのではなく、飼い主に集中でき制御できるようにしていく。 呼んで来ることができれば、次に待てるように、待つことができるようになれば指示があるまで待てるように。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/2/24	マルチーズ	1歳11ヶ月	メス	済
相談内容				
自分の脚を舐める頻度が多くなっている。薬などは塗っていないが痒くてなのかストレスなのかがわからない。飼い主が帰ってきてソファーにいる時にしきりに舐めることが多く声をかけても無視をする。				
対応について				
舐めたときにはかまひ過ぎずその場から離れるなど犬にとって好ましくない反応を飼い主がする。ボール遊びなど犬が疲れる遊びや地域岸駒を与えて退屈しない工夫をする。 トッピングの野菜が原因の可能性も考えられるため与えるのを止め様子を見る。 ひどく舐めたり、悪化するようであれば皮膚科認定医のいる動物病院への受診もすすめた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/2/24	MIX（ウェスティ×マルチーズ）	6歳7ヶ月	メス	済
相談内容				
本気で咬むことがあり困っている。元々神経質な性質だったが特に犬が3歳の頃に娘が生まれてからは縄張りに近づいただけで唸り、娘は目が合っただけで何度か本気で咬まれた。 娘を犬に近づけないよう気をつけているがマンションの室内飼いのため完全に隔離は難しく犬も日々ストレスを感じていると思う。				
対応について				
犬の攻撃行動に移る課程やボディランゲージによるストレスサインについて話し、普段から犬を刺激しないように気をつけ、唸ってから避けるのではなく唸る前の段階でごほうびを与えるなどして「場所守り行動」をさせないよう気をつけるよう伝える。 咬む状況をつくらず、犬がストレスを発散させることが必要だと伝えた。				





## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/2/24	マルチーズ	7ヶ月	オス	未済
相談内容				
保護犬として迎えられ一緒に暮らし始めて4ヶ月が経過「家族（夫婦）を咬む」「興奮して吠える」「同居猫と犬が仲良くできずケンカに至る」という行動について。				
対応について				
<p>「して欲しくないことはさせない」というポイントを伝え4つのアドバイスを伝えた。</p> <p>同居猫との関係を悪化させないように、飼育スペースを分ける「平和な環境づくり」を提案。</p> <p>「家庭内の物の管理」犬が口に入れたら困るものを届くところに置かず口に入れることを防ぐ。</p> <p>「体に触れる練習」おやつを渡すと犬の所有物になり守って咬もうとするので飼い主が持った状態で食べさせながら少しずつ体に触れるなど食べて夢中になっている間に体に触れる練習をすすめた。</p> <p>「投薬の検討」興奮しやすく興奮状態が続いてブレーキが無い状態に対し、問題行動診療の専門家のアドバイスとして脳のブレーキの役割を補う薬を検討した方が良い場合もあると伝えた。</p>				



## ⑥ 「お困りごと」 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

### 令和6年3月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/3/10	MIX（マルプー）	1歳3ヶ月	オス	済
相談内容				
咬みつくことと、吠えることに困っている。				
対応について				
基本的なしつけをきちんとするように伝え、一定時間待つトレーニングを5分を目標に少しずつ待つ時間をのばすようにアドバイス。また咬む行動を抑える方法を伝えた。吠える行動については吠える前に名前を呼んだり指示を与え吠える対象から飼い主に注意をそらす方法を伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/3/10	トイプードル	5ヶ月	メス	未済
相談内容				
咬み癖が直らず、妻の服や靴下を咬む。じゃれて指を咬んでくる。散歩時は足にまとわりつき進めない。				
対応について				
子犬のため歯がムズムズして咬む時期なので、咬んでもよいおもちゃを与えて欲求を満たすと共に、普段遊ぶおもちゃについては飼い主が管理して与えっぱなしにはせず遊びが終わる都度片付けることを伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2024/3/21	MIX（チワプー）	6歳		
相談内容				
散歩に行っても歩きたがらない、嫌な人に唸ったり吠えたりして自分勝手。				
対応について				
嫌な人に出会ったらその人からおやつをもらうようにし少しずつ慣れさせる。犬の要求を通さず飼い主の指示に従うようにする。				



「咬む」という行動の中には、しつけでは対処できない、場合によっては投薬を検討した方がよいケースもあった。そのような場合は、専門的なアドバイスと処方ができる動物病院につなぐ必要があるため、問題行動診療のできる獣医師のサポートを得て相談業務を行ったが、そのような件数が多くなると来所による無料相談だけでは対応が困難となる。

電話でのフォローアップも行ったところ、電話がつかない家庭以外は問題行動の解決に向けて各家庭で頑張っておられる様子が伺えた。今後、継続したアドバイスが必要なケースに備え、自分の地域でも相談できるプラットフォームのような仕組み作りを進めていきたい。

## ⑦「参加してみよう！」 飼い方相談事業

### 【お散歩診断】

散歩が苦手、落ち着いて歩けない等、日常の散歩で困っている飼い主対象に専門家から困りごとへの適切なアドバイスをもらいながら、犬も人も安全で楽しく散策する。雨天時は、飼い主のみの参加で座学の講習を実施。

開催日程：第3木曜日 13:00～14:30

開催場所：共生センター・しあわせの村内いやしの小径等

講師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 渡辺ひろこ先生

開催日	参加人数	参加犬
第1回 令和5年4月20日（木）	8	4
第2回 5月11日（土）	3	2
第3回 座学 6月8日（木）	5	0
第4回 10月12日（木）	11	8
第5回 11月9日（木）	8	5
第6回 座学 12月14日（木）	7	0
第7回 令和6年3月14日（木）	11	10
合計	53人	29頭



#### お散歩前の安全確認

首輪が緩すぎないか、散歩時のリードの長さ等の確認を行ってから散歩へ。「距離を取って離れて歩く」等毎回テーマを設けて安全に楽しく散歩ができるよう配慮してもらっている。歩調も全体のペースを見ながら調整していただいている。



休憩タイムのゲームもトレーニングの一環として行われている。



## ⑦「参加してみよう！」 飼い方相談事業

### 座学【犬のボディランゲージを学ぶ】



「犬のボディランゲージ」の理解を深めることで、更に飼い主と犬のコミュニケーションがスムーズに図れるようになることを目的に単独で座学講座を開催。犬が発するサインを読み取ることで散歩時だけではなく、日常生活においても、意思の疎通を図ることができ、飼い主と犬との絆が深まる。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・とても参考になった。今日から早速実践したい。
- ・リードの持ち方、体の位置などの指導がとても参考になった。
- ・犬同士の距離の注意、飼い主として犬を全力で守る、周囲の様子に気を配るなど普通の教室とは違う環境、初めて会う犬たちと受講できてとても良かった。

#### (座学)

- ・犬が居なかったのでじっくりと受けることができ、よく内容を理解できた。
- ・犬のボディランゲージを知って、是非愛犬を見てみようと思う。
- ・早くお散歩に行きたくなった。
- ・先生に各自の質問にコメントいただけてとても嬉しかった。

今年度は、通常の「お散歩診断」に加えて、「座学（犬のボディランゲージを知ろう）」も新たに開催した。

「お散歩診断」では、しあわせの村内を散歩しながらその都度先生のアドバイスをいただいた。途中の休憩時間には全員でゲームをするなど、飼い主と犬が楽しみながらしつけを学ぶことが出来た。

また、「座学」では、犬からのボディランゲージをより細かく知ることで、犬の問題行動を減らすことに繋がり、飼い主と犬との信頼関係を構築することで、より犬との生活が楽しいものとなると感じることができた。参加された飼い主の皆さんも、今までわからなかった犬の気持ちを知ることが出来たと喜ばれていた。

## ⑦「参加してみよう！」 飼い方相談事業

### 【楽しくしつけを学ぼう～ ドッグスポーツにチャレンジ！】

犬と共に楽しむ活動のひとつであり、基本のしつけをベースに様々な動きを組み合わせることで犬と一緒にダンスにチャレンジしてもらおう。楽しみ方を専門家の先生が丁寧にアドバイスをもらいながら、しつけができていないと感じる飼い主も愛犬と楽しい時間を共有することができるプログラムである。今年度は主に「ふれあい室」で実施。

開催日程：第3金曜日 10:30～12:00

開催場所：ローンホールズ場・共生センターふれあい室

講師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 高山美佐先生

開催日	参加人数	参加犬
第1回 令和5年5月19日（金）	10	7
第2回 6月16日（金）	12	7
第3回 10月20日（金）	8	7
第4回 11月17日（金）	7	6
合計	37人	27頭



お互いの距離に気をつけながら、ダンスの基本の動きを覚え、様々な動きに発展させていく。



犬は飼い主の顔を見てアイコンタクトを取りながら、課題に取り組む。一緒にできることが増えてくると、しつけを通して共に楽しい時間を過ごせることが実感でき、飼い主のモチベーションも上がっていく。

## ⑦「参加してみよう！」 飼い方相談事業



一つの動きを覚えたら、また新しい動きを覚える。それを組み合わせていくことで、動きも複雑になってくるが、徐々にダンスへと近付いてくる。



飼い主は動きを覚えて音楽に合わせることに必死だが、犬の方が余裕で動きを覚えている。先生から「最高！」と褒めてもらう。



音楽に合わせて踊るといっても、いきなりどの飼い主も愛犬と一緒に踊れないため、基本のしつけの「オスワリ」「マテ」「オイデ」などが土台となり、様々な動きを組み合わせでダンスへとつなげていく。

### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・身体を動かして、他の犬とも交流できて良かったです。
- ・犬と共に目標達成したとき、とても嬉しかったです。
- ・最初は気が他の方に向いているので、どうなるかと心配したが、最後の方はちゃんと参加できてよかった。
- ・犬だけでなく、私の頭のトレーニングになりました。リードを離すのはNGとのことですが、動きによってはリードが足にからんでやりにくかった。
- ・新しい環境で、新しい経験が出来て良かったです。

このプログラムで取り入れているドッグダンスは、ケーナイン（K9）フリースタイルと呼ばれ、ドッグスポーツの一種。犬と飼い主がコミュニケーションをとりながら、音楽に合わせて多彩な動きを行う。共生センターでは基本の動きを教えたただきながら、短い音楽に合わせて一緒にダンスを行う。普段、音楽に合わせて動くことが無いという飼い主にとっては、犬への指示と同時に音楽に合わせて動くことが最初は難しいが、プログラムが終わる頃には音楽に合わせてダンスを行うことが出来るようになることで、達成感を味わうことができる。基本的なしつけを学びながら愛犬との絆を深めていくことができ、これまで経験したことのない新しいことにもチャレンジできる場があることを引き続き発信していきたい。



## ⑦ 「参加してみよう！」 身体障害者補助犬の普及啓発事業

### 【教えて！介助犬】

身体障害者補助犬法に基づく身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）に対する社会的理解を進める。基本的な取り組みの方針として、障害のある人もない人も、共に幸せに暮らすことができる「誰も取り残さない」社会の実現を目指しつつ事業運営の応援を行い、身体障害者補助犬の普及啓発に貢献する。

開催日程：土・日・月曜日 14:00～15:00

開催場所：共生センターふれあい室

協力：認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会

開催日		参加人数
第1回	令和5年 4月23日（日）	19
第2回	5月27日（土）	5
第3回	6月 5日（月）	16
第4回	11月5日（月）	18
第5回	令和6年 2月17日（土）	4
第6回	3月20日（祝・水）	16
合 計		78人



介助犬は身体障害者補助犬の中でもまだまだ認知度は低い。



介助犬と書かれたマントを着たらお仕事とわかるようになっている。「これを着ているときはお仕事なので話しかけたり触れたりしないようにしてください」と説明がある。

## ⑦ 「参加してみよう！」 身体障害者補助犬の普及啓発事業



身体障害者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）についての説明。



訓練は厳しいのではという質問が多いが、「ルールのある遊びが基本」と説明していただいた上で、普段の訓練の様子を再現。



障害者が靴を履いて脱ぐこと一つ取っても大変時間がかかる。この介助があることにより外出にも意欲的となる。



プログラム終了後は、参加者の方との触れあいの時間を設けている。

### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・初めて介助犬を近くで拝見しました。
- ・人がたくさんいても、ぐっすり寝ている姿にびっくりした。
- ・介助犬・盲導犬の区別もよくわからなかったが、介助犬というものがよくわかった。
- ・こんな犬がいるんだなあと思った。

身体障害者補助犬の種類、それぞれの補助犬が果たす役割なども丁寧に解説していただき、参加された方からは補助犬に対する理解が深まったと感想があった。今年度は日曜日など休日に開催するなど参加者も参加しやすい日を設定することで、家族連れなど、子どもさんも一緒に参加されることが多かった。介助犬への認知度はまだまだ十分とは言い切れない。このプログラムを通して少しでも多くの方に介助犬・補助犬について知ってもらうことが出来るよう、来年度も引き続き介助犬プログラムを開催する。

## ⑦「参加してみよう！」防災関連

### 【「ペットとの災害避難マップ」を作ってみよう！】

神戸市が令和5年8月にペットの飼い主の日頃の心魔替えや避難所でのペットの受け入れルール等を「災害時のペットとの避難ガイドライン」としてまとめた。このガイドライン等を使って住んでいる地域を回り、災害が起こりやすい場所はどこか、災害が起こったときにペットと避難所までどのようにして避難すれば良いか、避難するときに危険な場所はないか等についてまとめた「ペットとの災害避難マップ」を作り、神戸市主催の展示会への応募してもらう。

同時に、一般社団法人日本損害保険協会等が主催する「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」への応募を呼びかける。「ペットとの災害避難マップ」作成を通して、子どもが楽しみながら防災意識を高めつつ、同行避難の重要性について理解する。



A colorful poster for the "第20回 小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 作品募集中!" (20th Bousai Search Team Map Competition). The theme is "地域を探検して" (Explore the area) with sub-themes: "防災" (Disaster), "防犯" (Crime Prevention), and "交通安全" (Traffic Safety). The main goal is to "安全マップを作ってみませんか?" (Would you like to make a safe map?). The poster includes instructions for participation, such as "まずは事前エントリーをしよう!" (Let's do the pre-entry first!) and "みんなで作って発表して応募しよう!" (Let's make it together and apply!). It also lists prizes: "文部科学大臣賞" (Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology Award), "防災担当大臣賞" (Disaster Management Minister Award), and "消防庁長官賞" (Fire and Disaster Management Agency Award). The deadline for entries is "2022年11月5日以降に、小学生が複数(2人以上)で作成したマップであること" (Submitted after November 5, 2022, by multiple elementary school students (2 or more people)). The map submission deadline is "2023年11月6日(月)必着" (Must arrive by Monday, November 6, 2023). Contact information for the "小学生のぼうさい探検隊マップコンクール事務局" (Bousai Search Team Map Competition Secretariat) is provided, including a phone number (03-6625-7424) and an email address (info@edpmap-entry.jp). A QR code is also present.

#### ぼうさい探検隊とは？

子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備を見て回り、マップにまとめる実践的な安全教育で、探検の結果をマップにまとめ、マップを発表する場として、一般社団法人日本損害保険協会等主催の「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」が開催されている。

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに、防災教育や地域防災の重要性が明らかになったことから、一般社団法人日本損害保険協会では、楽しみながら学ぶことで、身近な危険について小学生が自分たちの力で気づき考えてもらうことや、地域の人たちとの交流が深まり、地域への関心や愛着を持ってもらうことを目的とし、「ぼうさい探検隊」の活動を開始された。



## ⑦ 「参加してみよう！」 防災関連

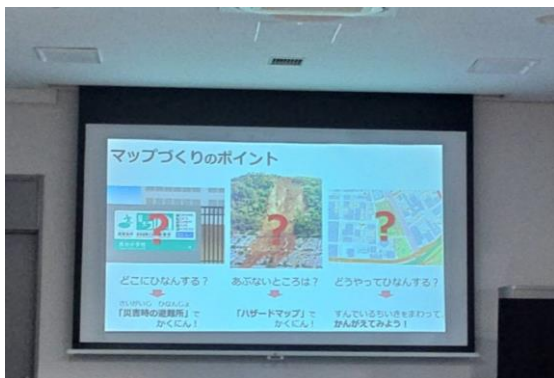
令和5年度は、「ペットとの災害避難マップ」の作り方と併せて神戸市の展示会への応募、「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」への応募について説明会を2回実施した。

【協力】 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
こども本の森 神戸

開催日時：令和5年9月18日（月・祝） 14:00～16:00

開催場所：こども本の森 神戸

参加人数：子ども4名 保護者5名 計9名



「こども本の森 神戸」は建築家・安藤忠雄さんの寄附で誕生し、こどもたちが命の大切さを学び、豊かな感性と創造力を育む場を創ることを目的に開館した図書館で、阪神・淡路大震災の慰霊と復興のモニュメントが設置されている神戸市の東遊園地に設置されている。今回は1回目の説明会の会場としてご協力いただいた。

2017年に市民の安全・安心等4分野で神戸市と包括連携協定を締結され、神戸市人と猫との共生に関する条例に基づき設置されている「神戸市人と猫との共生推進協議会」の一員として、日頃から人と猫が共生する社会の実現のために協力いただいているあいおいニッセイ同和損害保険株式会社様には、説明会において、マップ作成を進めるにあたっての安全確保やケガに対する補償（保険の見直し）、「ぼうさい探検隊マップコンクール」への応募の仕方の説明等にご協力いただいた。

当日は読売新聞社が取材のため来訪され、翌日の朝刊に掲載された。

開催日時：令和5年9月24日（日） 14:00～16:00

開催場所：共生センター ふれあい室

参加人数：子ども3名 保護者2名 計5名



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
神戸支店 支店スタッフ 担当次長 和田様  
「普段歩いている街には、気づいていない危険な場所があるかもしれません。自分の街ではどんな危険が想定されるか、保護者の皆様もお子さんと一緒に探検してください」

神戸市健康局環境衛生課 今田係長  
「大雨のときに増水するような川が近くにないか、地震で倒壊するような塀がないかなど、ご家族と一緒に危険な場所がないかを確認しながら、安全な避難ルートを探してみてください」

## ⑦「参加してみよう！」防災関連

神戸市の「ペットとの災害避難マップ」展示会へ2点の応募があり、表彰式は防災わんにゃんフェスタの中で執り行った。

【協力】 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

開催日時：令和6年1月21日（日）13:00～13:30

開催場所：こうべ動物共生センター ふれあい室

参加人数：子ども4名 保護者2名 計6名



「しのたま探検隊」様には、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社神戸支店様より「あいおいニッセイ同和損保賞」が、「maedaキッズ」様には、神戸市より「こうべ動物共生センター長賞」が贈られた。

同時に「第20回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」にも応募されたところ、全国の小学校や子ども会など658団体から8,904人が参加されたこのコンクールで、1,708の応募作品の中から、「しのたま探検隊」様、「maedaキッズ」様が共に、佳作に選ばれた。

### ペットとの災害避難マップ2023年度公募作品

(左) maedaキッズ様

(右) しのたま探検隊様



「災害時のペットとの避難ガイドライン」公開から説明会まで広報に時間的余裕がなかったため応募数は少なかったが、「ペットとの同行避難」の視点が他になく、全国規模のコンクールで入賞の実績ができた。令和6年度は余裕を持って告知を行い、説明会だけでなく作成会も実施し、より多くの市民に参加してもらえよう努める。



## ⑧受託者企画事業の展開

SDGsのゴールに貢献する「しあわせの村」将来像を共有し、「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針」に求められる取り組みの推進に向け、「国内外の動物との共生に係るあらゆるステークホルダーが、神戸市のあたたかな共生社会構築に尽力できる」「こうべ動物共生センターで質の高い成果を上げ、その成果が広く神戸市民に行き渡り、情報発信される」仕組み創りを提案。以下の4つの事業を行い、先進的なセンター事業推進環境を整備し、PDCAサイクル（計画→実施→評価→改善）による高品質な「こうべ動物共生センター」運営を目指す。

### 【セラピー研究フィールド】（P.24～36参照）

- ・国内外の研究者の参画による「試み・開発の場」としてだけでなく、学生や企業等による「人材育成の場」として研究フィールドを構築してきた。
- ・しあわせの村における新たな取り組みの中で課題となっている「パラ・スポーツの振興」「認知症予防」「あらゆる子どもの成長支援」「アニマルセラピー」の全てにAAI（動物介在介入）が関わることができ、また、その研究手法については、様々なセラピーにも活用できるものであることから、将来的には「しあわせの村」と連携して、しあわせの村全体での「セラピー研究フィールド」として整備を進める。
- ・セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方については、P.24に記載。

### ◎令和5年度の取り組み

- ・アニマルセラピーの一環として「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を実施した。プログラム、研究内容等の詳細については、「アニマルセラピー」動物ふれあい事業の章（P.25～33）に記載。
- ・本事業においては、株式会社シーエーシー様のご協力により、犬に読み聞かせを行った子どもの動画撮影データについて、表情認識のAIを活用して分析を行った。



令和5年度はマウスシールドを着けずに実施し、読み聞かせの様子を撮影して、音声の録音を行う。

令和5年度に収集したデータを基に、人と動物の相互の影響を科学的に明らかにし、ウェブサイト等での情報発信を通して、市民に研究の成果を伝えていく。人に対する研究は令和5年度で終了するが、犬に対する研究は、さらに研究精度を上げるために引き続きデータの収集を行っていく。



## ⑧受託者企画事業の展開

### 【こうべ動物共生プラットフォームの構築】

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。

市民はサービスの受け手でもあり、送り手でもある。主体的に市民が関わることができ、神戸の市民力を向上させられるような仕組み創りを目指す。

神戸市民に向けて「質の高い動物と共生する暮らし」を実現していくには、動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップが肝要である。動物との共生に直接関わる者だけでなく、賛同する企業・団体・個人の参加も促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築する。

また、神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。研修・情報提供も積極的に行い、神戸市の動物との幸せな共生を支える「人材育成の場」としても活用する。

### 《こうべ動物共生プラットフォーム》

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築

#### 「試み・開発の場」「人材育成の場」

動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップのため、賛同する企業、団体、個人の参加を促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築。

※神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。

※各地域：地域包括支援センター／社会福祉協議会／自治会／病院／学校とも連携・協働



#### 将来的な展望

P.4の事業概念図で示したとおり、将来的にはプラットフォームに係る情報を市民に提供しつつ、新たなビジネス活性の機会を創出することも検討する。

#### 《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》

プラットフォームに係る情報を市民に提供し、交流の場を構築し、事業者ビジネス活性の機会を提供。

《専用ウェブサイト》

内外への  
情報発信  
収集



### ◎令和5年度の取り組み

動物取扱業登録事業者の方々を中心に関連する方々に呼びかけ、プラットフォーム構築の合意を得るまでを目指したが、令和6年度以降に持ち越しとなった。神戸市の意向により、現在は他の事業を優先して実施しているが、共生センターだけでは解決できない市民からの相談事例（高齢者が終生飼養できない等）も増えてきており、環境衛生課と協議をしながら将来的に支援できる仕組みを整えていきたい。

## ⑧受託者企画事業の展開

### 【市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集】

① 専用ウェブサイトの更新・保守 (P.13~18「センターの管理・運営業務」に記載)

#### ② 出沒・こうべ動物共生センター (出張型事業)

防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、各区で年に1回、「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等を実施する。

共生センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集する。各地域の動物取扱業登録業者を中心に、プラットフォームのメンバー候補にも広く参加いただく。

この事業を通じ、各地域で「神戸市の幸せな動物との共生」に関心の高い市民を発掘し、各地域での密な連携が自律的に実現していきけるような事業を行っていく。様々な課題解決にコミュニティーの力が再評価されており、このような事業を通じて市民力の向上とコミュニティー再構築にも寄与する。

事業協力・課題解決 **こうべ動物共生センター**

<b>一緒に暮らそう</b> ・保護動物の譲渡および見学	<b>一緒に学ぼう! For Kids</b> ・獣医師体験プログラム ・いきものといっしょ ・犬ともだちになろう ・「いのちの教育」プログラム	<b>参加してみよう!</b> ・お散歩診断 ・楽しくしつけを学ぼう ～ドッグスポーツにチャレンジ! ・介助犬と歩こう!	<b>お困りごと</b> ・獣医師等による電話相談 ・来所相談(予約制) ・パピーのお困りごと相談会
---------------------------------	--	--	---

《出沒・こうべ動物共生センター (出張イベント)》  
防災イベントとコラボし、各区で年1回、しつけ教室、相談、身体障害者補助犬紹介をイベント的に実施。センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集。

センターを市民に広報



こうべ動物共生センターから遠方の市民も、自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。出沒イベントをとおして、市民ひとりひとりにセンターが認知される。

**市民** ひとりひとりに寄り添う課題解決

#### ◎令和5年度の取り組み

令和5年度は各地域で開催されるイベントに出展する形で、「きたきたまつり」や「しあわせの村まつり～村の小さな夏まつり」において事業のチラシを配布したりパネル展示をする等PRを行った。

## ⑧受託者企画事業の展開

### 【こうべ動物共生情報の提供・収集】

《こうべ動物共生プラットフォーム》と市民を有機的に「つなぐ」場「市民交流の場」を創出する。専用ウェブサイト上に、《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》を設ける。

《こうべ動物共生プラットフォーム》に係る情報を市民に提供し、交流の場を構築すると共に、事業者ビジネス活性の機会を提供する。

#### 《「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」での提供情報》

市民は、ワンストップで、自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。

#### 1. 「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」 ペットとの暮らしを支える

獣医療／ペットショップ／トリミングサロン／しつけ方教室／ドッグカフェ／ペットと入居可能な住宅や施設／ペットと泊まれる宿泊施設／保険／信託など

#### 2. 「動物でつながる社会の豊かさ」

イベント情報／動物に係る教育実施情報／その他情報交流

#### 3. 防災情報

ペットが入れる避難所／ペット用品を配布している拠点など

### ◎令和5年度の取り組み

《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築の準備を進める計画であったが、予算化が難しく、専用ウェブサイト上に情報提供コーナーを設けることも次年度以降に持ち越しとなった。

令和5年8月に神戸市が「災害時のペットとの避難ガイドライン」を作成、公開したことにより、同行避難について市民に啓発する機会が増えた。ペットと一緒に避難できる避難所等の防災情報から専用ウェブサイトに掲載する等、可能な情報提供について検討していきたい。



「災害時のペットとの避難ガイドライン」は神戸市ホームページでダウンロード可能であるが、冊子にしたものを共生センター窓口で必要とする市民に配布している。



## ⑨センター広報

### 【専用ウェブサイト】（P.13～17参照）

こうべ動物共生センターのコンセプトや事業内容について情報発信を行うと共に、各事業の参加者募集案内や事業実施レポートを随時更新し、こうべ動物共生センターおよび事業のPRを行った。資料・報告を専用ウェブサイト上で提供することで、来所できない市民への利便を図っている。しつけ方教室や飼養相談およびその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供している。こうべ動物共生センターで実施している事業の成果を活用し、市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せている。専用ウェブサイトは日本語だけでなく、英語、ドイツ語、中国語などにも対応し、国内外への情報発信も行った。このように、専用ウェブサイトは、市民がこうべ動物共生センターの事業に参加するなどして関わる「市民とのコミュニケーションの場」として、「国内外への広報」として、重要な役割を担っている。



トップページに配置のスライド式バナーは、各事業の様子がダイレクトに伝わる写真を活用し、各事業の紹介ページにリンクを貼り、バナー画像は定期的に更新している。リンク先からさらに参加申込フォームへとリンクさせており、申込フォームから直接参加申込ができる。ウェブサイトからの申込受付は、開館時間外でも市民が各種プログラムに参加申込を行うことを可能にしている。



プログラムレポートと近日開催のプログラムの最新情報はトップページで確認することができる。

専用ウェブサイトを見てプログラムの見学依頼をいただくこともあるため、参加者募集の告知や実施報告は丁寧に正確に発信できるように心がけている。特に実施報告は、来所・受講できない市民に対しても、成果をフィードバックするという点で重要である。



「IAHAIOについて」のページではIAHAIOの紹介だけでなく、IAHAIO白書に基づいて事業を実施している旨を情報発信し、IAHAIO白書をダウンロードできるようにしている。

## ⑨センター広報

### ◎こうべ動物共生センター 公式Instagram

こうべ動物共生センターの公式Instagramは、投稿を含め環境衛生課で管理していただいている。ホームページのトップページのバナーから共生センターのInstagramにとべるようになっていて、Instagramの更新については環境衛生課で行い、譲渡動物の情報以外に共生センターのプログラムについてもアップしてもらうなどしている。



### ◎しあわせの村ウェブサイト・SNS

しあわせの村（公益社団法人こうべ市民福祉振興協会）のウェブサイトやSNSで事業等の紹介をしていただいている。特にウェブサイトのイベント情報から、共生センターの事業を知り、参加申込をされる方も増えてきている。



しあわせの村ウェブサイトから、共生センターのウェブサイトにもアクセス出来ることで、申し込み可能となっている。

## ⑨センター広報

### 【メディア実績】

新聞、テレビ等の取材依頼に応じた。

#### ◎新聞

【令和5年度（取材日）】

- ・ 1月31日 共同通信社（こうべ動物共生センターの見学他）
- ・ 3月7日 神戸新聞（高齢者のペット飼育熟慮を）
- ・ 3月20日 共同通信社（教えて！介助犬取材）

#### ◎テレビ・ラジオ

事前に取材・収録を行い、下記のとおり放送された。（令和6年3月31日現在で視聴可能であったものはURLを併記している）

【令和5年度（収録日）】

- ・ 9月24日 サンテレビ キャッチプラス（9月28日放送）  
「ラピちゃんのセンター長交代式」  
<https://www.youtube.com/watch?v=7DsHG2ZGpJw>
- ・ 1月21日 サンテレビ ニュースSUNデー（1月21日放送）  
「ペットの防災対策」  
<https://www.sun-tv.co.jp/suntvnews/news/2024/01/21/75197/>  
NHK総合 ニュース・気象情報（関西）（1月21日放送）



令和5年9月24日 サンテレビ



令和6年1月21日 サンテレビ・NHK



## ⑨センター広報

### 【制作物】

こうべ動物共生センターを広く知っていただくため、リーフレット類や共生センターグッズ、事業のチラシ等を制作し、配布した。

### ◎クリアファイル

犬と猫のキャラクタークリアファイルは、プログラムに参加する子どもたちや、見学・視察に来られた方へ共生センター資料の配布等に使用したが、令和5年11月で配布を終えた。



### ◎紹介カード・リーフレット

共生センターオープン前に名刺サイズの共生センター紹介カードと、A5サイズのリーフレットを作成し、来所者、プログラム参加者に配布した。また、共生センターだけでなく、動物管理センターや市役所等でも配布している。A5サイズのリーフレットについては、在庫が25部となっているため、情報を刷新し新たに増版するかどうかは検討課題となっている。出前型事業においても、「どんな施設か」と問われることが多く、説明に活用する媒体としての必要性が高い。



共生センターオープン前に、事業を紹介する写真などで構成できていないため作成したもの。より多くの市民に配布することで、共生センターのPRが可能となり、来場者数の増加につながると思われる。

# ⑨センター広報

## 【事業チラシ】

### ◎令和5年度作成実績

事業（プログラム）の案内・参加者募集のため、アニマルセラピー 動物ふれあい事業、子どもを対象とした動物共生教育事業のチラシを作成し、専用ウェブサイトに掲載した。また、しあわせの村の本館、温泉健康センターにもチラシの設置をお願いした。

- ・わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）
- ・獣医師体験プログラム
- ・教えて！介助犬
- ・いきものといっしょ
- ・「いのちの教育」プログラム
- ・VRで体験！犬猫との暮らし

共生センターでのプログラムの参加者の方々に、他のプログラムのPRをさせていただくと共にチラシを配布した。

**令和5年度 こうべ動物共生センター教育事業**  
犬に本を読み聞かせることで心の成長をながさ取り組みを「R.E.A.D. (Read to Enjoy Reading Assistance Dog) プログラム」といいます

**わんちゃん読書会** (読書と動物のふれあいを)

門司市・しあわせの村の「こうべ動物共生センター」ふれあい室

【実施日時】  
4月18日(日) 9時30分～11時30分 | 5月23日(日) 9時30分～11時30分  
6月13日(日) 9時30分～11時30分 | 7月18日(日) 9時30分～11時30分  
8月13日(日) 9時30分～11時30分 | 9月18日(日) 9時30分～11時30分  
10月13日(日) 9時30分～11時30分 | 11月18日(日) 9時30分～11時30分  
12月13日(日) 9時30分～11時30分

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

子どもが本を読み聞かせることによって、言葉や音声を字と結びつけて覚えることができ、読書への興味や関心を高めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**こうべ動物共生センター教育事業**  
**参加者募集！** 参加費無料

**獣医師体験プログラム**

【実施日時】  
5月14日(日) 10時～12時 | 6月11日(日) 10時～12時 | 7月28日(金) 16時～18時 | 8月10日(木) 16時～18時 | 9月3日(日) 10時～12時 | 10月21日(土) 11月23日(水) 2024年 1月28日(日) 3月17日(日)

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

獣医師の仕事は、感染症や食品衛生、ペットとの暮らしや畜産動物の飼育、健康問題など、人が生活していく上で数多くのお役に立っています。そうした幅広い領域の世界を体験し、学びを深めることにより、人と動物の共生とは、人の生活に深く関わるものであることの大切さを学び、様々な動物の生活のあり方についての理解を深めます。

また、専門家として現場に関わっているプロに接することで、子どもたちの職業選択の視点を広げることができます。プログラムに参加してくださるお子さんを歓迎しますので、ご協力をお願いします。

**楽しみながらいんな動物との関わりについて学ぶことができますよ**

**こうべ動物共生センター教育事業**  
**参加者募集！** 参加費無料

**犬ともだちになろう**  
【2023年4月～2024年3月まで6回実施】

神戸市・しあわせの村の「こうべ動物共生センター」で実施します

【実施日時】  
2023年4月8日(日) 9時30分～11時30分 | 5月13日(日) 9時30分～11時30分 | 6月10日(日) 9時30分～11時30分 | 7月8日(日) 9時30分～11時30分 | 8月5日(日) 9時30分～11時30分 | 9月2日(日) 9時30分～11時30分

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

犬ともだちになろう。犬とのふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**ワンちゃんと一緒に「いのちへの共感」を学ぼう**

動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**こうべ動物共生センター教育事業**  
**参加者募集！** 参加費無料

**いきものといっしょ**

【土曜日より日曜日10:30～11:30実施】

神戸市・しあわせの村の「こうべ動物共生センター」ふれあい室

【実施日時】  
6月18日(日) 10時30分～11時30分 | 7月18日(日) 10時30分～11時30分 | 8月18日(日) 10時30分～11時30分 | 9月18日(日) 10時30分～11時30分 | 10月18日(日) 10時30分～11時30分 | 11月18日(日) 10時30分～11時30分

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**神戸に「くらす」といふ暮らしのありかたについて考えてみよう**

**こうべ動物共生センター教育事業**  
**参加者募集！** 参加費無料

**VRで体験！いぬねこの暮らし**

【実施日時】  
2023年 8月9日(水) 10:30～11:30 | 9月26日(土) 10:30～11:30

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**どうぶつといっしょに暮らそう**

**こうべ動物共生センターにおける教育事業ご協力をお願い！**  
**実施協力校(クラス)を募集しています！**  
動物共生教育(「いのちの教育」プログラム)

【令和5年度に2回実施(3つのプログラムで構成)・実施無料】

【実施日時】  
2023年 8月9日(水) 10:30～11:30 | 9月26日(土) 10:30～11:30

【参加費】無料

【対象年齢】小学生～中学生

動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。

**「いのちの教育」プログラムで使用するツール**  
3つのVRリアリティを示す専用のVRヘッドセット(20歳未満の子供には「インシニ」が45～50cm)

動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。また、動物のふれあいを通じて、動物の気持ちや行動を理解し、動物とのふれあいを深めることができます。



## 令和5年度 こうべ動物共生センター教育事業

犬に本を読み聞かせることで心の成長をうながす取り組みを「R.E.A.D. (リード) [Reading Education Assistance Dogs] プログラム」といいます



### わんちゃん読書会 (R.E.A.D.プログラム)

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

実施  
予定

2023年

① 4月16日 (日) / ② 4月29日 (土・祝) / ③ 5月21日 (日) / ④ 6月18日 (日)

⑤ 9月18日 (月・祝) / ⑥ 10月9日 (月・祝) / ⑦ 11月3日 (金・祝) / ⑧ 11月26日 (日)

2024年

⑨ 12月16日 (土) / ⑩ 1月13日 (土)

実施時間：14：00～15：00

⑪ 2月4日 (日) / ⑫ 2月25日 (日)

※各回定員3名 (対象：小学1～6年生)

子どもが犬に本の読み聞かせを行うことによって、音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長をうながすことを目的としたプログラムです。

プログラムに参加して下さるお子さんを募集しています。



参加費  
無料



犬は人間の  
ことを笑ったり  
しないので安心して  
読むことが  
できるよ



「うまく読まなくちゃ」とか「間違えたら叱られる」ということを気にせず、自分のことを否定せずに寄り添って耳を傾けてくれる犬は、子どもたちに安心感と自己肯定感を与えてくれます。

※専門家の適性をクリアした犬を使用し、大人のスタッフが付き添って適切な管理の元に実施いたします。

犬と一緒に  
いてくれる  
だけで  
自信が湧いて  
くるんだ!



本を読むのは好きだけど  
人前にできると緊張しちゃうんです...



わんちゃん  
とふれあ  
いなが  
ら  
本を  
読ん  
でみ  
よう!



## 保護者の皆さまへ

アメリカでは、すでに動物を介在した医療の一環として行われている取り組みで、こうべ動物共生センターではAAA（動物介在活動）として実施します。犬は、人間が上手に読んだりそうでなかったりすることを評価したり、笑ったりすることはありませんので、自分に自信を持つことができない子どもが、犬との関わりを通して自己肯定感を持ち、心の成長を促すことを目的としています。

こうべ動物共生センターは、こうした取り組みの中で、最先端のAI技術等を使って、人と動物相互の影響を科学的に明らかにしていければと考えています。実施に際しては、下記の専門家のアドバイスや留意事項を遵守しながら行いますので、皆さまのご協力をお願い致します。



01

### アドバイザー紹介 国内外のアドバイザーの先生方の協力のもと実施します。

- ・中山 裕之 先生（東京大学名誉教授／動物医療センターPeco 獣医療研究所長）
- ・土居 裕和 先生（長岡技術科学大学 工学研究院 情報・経営システム系 准教授）
- ・柴内 裕子 先生（赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）相談役）
- ・島村 俊介 先生（大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授）
- ・木下 美也子 先生（※1 グリーン・チムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所教育プログラム部長／神戸市出身）
- ・アンドレア・ビーツ 先生（MA心理学／博士号（心理学）／博士号（特殊教育）特別・インクルーシブ教育教授 IU国際応用科学大学・ドイツ）

※1 グリーン・チムニーズ（アメリカ・ニューヨーク州）とは：情緒障害・学習障害等を持つ子どもを治療するための長期療養型施設。自宅から通学する子どももいるが、半数は寄宿舎で暮らし、生活も共にしている。自然や動物たちに囲まれた環境の中で、その自然や動物との関わりを通して命あるものを大切にすることを育み、自己肯定感につながる教育を行っている。子どもたちは、専門家によるサポートを受けながら、社会復帰を目指す。

02

### ご協力いただきたい内容（対象：小学1～6年生）

次の3つのパターンで適性がある犬を相手に本を読み聞かせてデータを取り、心理・認知的効果を調査します。 ※神戸市と大学等の専門機関の個人情報保護基準に則って実施します。

#### ① 犬に向けた音読 ② ヒトに向けた音読 ③ 一人での音読 ※各10分程度を予定

- ・音読中の表情 ※2（表現力・心理状態の指標） ※2 表情認識のAIを使用
- ・音読音声の特徴 ※3（表現力・理解度の指標） ※3 録音音読音声を専用ソフトで分析
- ・音読後の文章内容に関する記憶（理解度の指標）
- ・音読に対する意識のアンケート調査



03

### 留意事項

- ① 取得したデータや動画などの個人情報については、神戸市及び大学等の専門機関の基準に沿って管理します。
- ② お子さんが楽しんで参加してもらえることを最優先します。
- ③ 動物にストレスを与えないため、適正な実施方法を遵守して実施します。
- ④ 専門家による判定をクリアした動物を使用します。
- ⑤ 保護者同伴でご参加いただけます。



#### 【こうべ動物共生センターとは？】 <https://kobe-chai.jp/>

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。



問合せ先 こうべ動物共生センター

電話：078-747-3061 メール：info@kobe-chai.jp

こうべ動物共生センター教育事業

# 参加者募集!

## 獣医師体験プログラム

参加費  
無料



実施  
予定

2023年 5月14日(日) ※同日に2回開催 / 6月11日(日) ※同日に2回開催

7月28日(金) / 8月7日(月) / 8月10日(木) / 9月3日(日) ※同日に2回開催

10月21日(土) / 11月23日(木・祝) / 2024年 1月28日(日) / 3月17日(日)

※各回定員 20名 (小中学生)

開催日が変更になる場合がございますので、申し込みの際にウェブサイトでご確認下さい。

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室 ほか

第7回  
人と動物の関わりには  
長い歴史があります



獣医師の仕事は、感染症や食品衛生、ペットとの暮らしや産業動物の飼育、環境問題など、人が生活していく上で必要な多くの分野に関わっています。そうした幅広い獣医師の世界を体験し、学びを深めることにより、人と動物の共生とは、人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な人と動物の共生の在り方についての理解を深めます。

また、専門家として現場に関わっているプロに接することで、子どもたちの職業選択の視点を広げることにもつながります。プログラムに参加して下さるお子さんを募集しますので、ご協力よろしくお願いいたします。



水族館や  
動物園にいる  
動物たちのお世話  
も獣医師の仕事  
だよ



楽しみながらいろんな動物との  
関わりについて学ぶことができるよ





## アドバイザー紹介

獣医師のアドバイザーの協力監修のもと実施します。

- ・堀尾 政博 先生（獣医師／獣医学博士）



## 実施内容

水族館／野生動物／動物園／エキゾチックアニマル／小動物／大動物／産業動物／公衆衛生／公務員の9つの分野で、様々な獣医師の仕事を知るためのプログラムを体験します。

## 参加予約方法



こうべ動物共生センターのウェブサイトからご予約ください。

<https://kobe-chai.jp>



開催日	タイトル	分野	協力依頼	到達目標
2023年 5月14日(日) ① 13:00~14:00 ② 14:30~15:30	水族園動物のお医者さん	水族館	神戸市立須磨海浜水族園	水族園には多様な生きものが暮らしています。その健康を守るには、本来の生育環境や生態を背景とした生きものの特徴を知ることが大切です。水族園に暮らす動物たちの病気や治療についてお話しします。
6月11日(日) ① 13:00~14:00 ② 14:30~15:30	野生動物との共生	野生動物	株式会社野生動物保護管理事務所	里山では野生動物による農作物の被害が多発しているが、なぜそういったことが起こるのかを学ぶ。地球は人間だけのものではなく、多くの野生動物や昆虫などの生き物が共に生きる場所であることを知り、どうすれば野生動物と共生できるのかを考える。
7月28日(金) 14:00~15:00	多様な動物が生きる「地球」という環境	動物園	神戸市立王子動物園	地球（動物園）には様々な種類の動物が生活しているが、それぞれが生きていくために必要な食べ物や環境などが違う。そうした多様な生物が生きていくことができる地球を持続可能な環境として保持するために必要なことを学ぶ。
8月10日(木) 14:00~15:00	エキゾチックアニマルの生態と診療	エキゾチックアニマル	公益社団法人神戸市獣医師会	家庭でも飼育されることが多くなったエキゾチックアニマルの生態や診療について学ぶ。
8月21日(月) 14:00~15:00	公務員としての獣医師の仕事	公務員	神戸市健康局環境衛生課	公務員獣医師の仕事は、食の安全の確保、人畜共通感染症対策、動物愛護や福祉の増進、野生動物保護等自然環境保全対策等の広範な分野にわたるが、その中の動物愛護や福祉の増進について学び人と動物の幸せな共生について考える。
9月3日(日) ① 13:00~14:00 ② 14:30~15:30	いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには	小動物	大阪公立大学	人間にとって、いちばん身近に存在する動物「ペット」の健康と幸せ（福祉）を守るためには、どういったケアが必要なのかを学び、飼い主が日常的に健康状態を観察して獣医師と連携してペットの健康を守ることの大切さを学ぶ。
10月21日(土) 14:00~15:00	身近な大動物・牛	大動物	芝崎牛の診療所	小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、牛が私たちの生活のあらゆる場面で関わりを持っていることを理解する。
11月23日(木・祝) 14:00~15:00	感染症って何？	公衆衛生	大阪公立大学	新型コロナウイルス感染症の発生を題材に、動物由来の感染症についての正しい知識を学習し、日常生活における感染症対策の重要性を知る。鳥インフルエンザについても学ぶ。
2024年 1月28日(日) 14:00~15:00	私たちの暮らしと動物との関わり	産業動物	兵庫県農業共済組合(神戸市立六甲山牧場)	人間は様々な動物との関わりの中で恩恵を受けて生きていることに気づき、それらの恩恵に感謝をする気持ちを学ぶ。
3月17日(日) 14:00~15:00	人と共に生きてきた馬について	大動物	公益社団法人神戸乗馬倶楽部 / 大阪公立大学	小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、人が馬と共に生きてきた歴史を知ることによって共生という概念を理解する。

※内容が変更になる場合がございます。

【こうべ動物共生センターとは？】こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号  
電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp





こうべ動物共生センター教育事業

# 参加者募集!

## 犬とともにだちになろう

【2023年4月～2024年3月までに6回実施】

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」で実施します

実施  
予定

2023年 4月8日(土) / 6月3日(土) / 10月29日(日) / 11月18日(土) / 12月24日(日) /

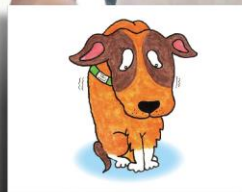
2024年 3月3日(日) 【実施時間：14:00～15:00 定員20名(対象：小学生)】



### ワンちゃんと一緒に「いのち」への共感を学ぼう!

実際のワンちゃんに接しながら、クイズや心臓の音を聞くなどのプログラムをとおして、「いのち」を実感しながら犬の気持ちについて学びます。

犬との接し方を学ぶことで、咬傷事故を予防するだけでなく、ワンちゃん(他者)の気持ちを想像したり寄り添う気持ちの大切さを考えるきっかけを与えます。



こうべ動物共生センターの  
サイトからご予約ください。

【こうべ動物共生センターとは?】こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号

電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp





こうべ動物共生センター教育事業

# 参加者募集!

## いきものといっしょ

【土曜日または日曜日 10:30~11:30 実施】

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

2023年【土曜日/日曜日】

4月 1日/9日/15日/22日 5月 7日/13日/20日/28日

6月 4日/10日/17日/25日 7月 2日/8日/15日/23日

8月 5日/12日/20日/27日 9月 2日/9日/17日/24日/30日

実施  
予定

参加費  
無料



### 神戸にくらす人とどうぶつたち

この街で共に生きるいきものについて考えてみよう

このイラストの中に、神戸のまちでくらす人とどうぶつのかかわりをさがしてみよう!



神戸市は海と山、都会と田園地帯など、多様な環境が混在する地域です。そうした環境にはたくさんのいきものが人間と共に生活をしています。そうしたいきものとの関わりを、まちがい探レクイズなどが掲載された冊子を使って学習することができます。親子で対話をしながら、「人と動物の共生」について一緒に考えることができる内容になっています。

06 | 神戸市・神戸にくらす人とどうぶつたち



こうべ動物共生センターの  
サイトからご予約ください。



【こうべ動物共生センターとは?】 こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号

電話: 078-747-3061 FAX: 078-747-3062 メール: info@kobe-chai.jp



こうべ動物共生センター教育事業

# 参加者募集!

## いきものといっしょ

参加費  
無料



【土曜日または日曜日 10:30~11:30 実施】

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

2023年【土曜日/日曜日】

10月 7日/15日/22日/28日 11月 4日/12日/19日/25日

2024年

12月 2日/10日/16日/23日 1月 6日/13日/20日/27日

2月 3日/11日/18日/24日 3月 2日/10日/17日/23日/30日

実施  
予定

### 神戸にくらす人とどうぶつたち

#### この街で共に生きるいきものについて考えてみよう

このイラストの中に、神戸のまちでくらす人とどうぶつのかかわりをさがしてみよう!



神戸市は海と山、都会と田園地帯など、多様な環境が混在する地域です。そうした環境にはたくさんのいきものが人間と共に生活しています。そうしたいきものとの関わりを、まちがい探しクイズなどが掲載された冊子を使って学習することができます。親子で対話をしながら、「人と動物の共生」について一緒に考えることができる内容になっています。

06 | 神戸市・神戸にくらす人とどうぶつたち



こうべ動物共生センターの  
サイトからご予約ください。



【こうべ動物共生センターとは?】 こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号

電話: 078-747-3061 FAX: 078-747-3062 メール: info@kobe-chai.jp

いきものといっしょ | 07



こうべ動物共生センター教育事業

# 参加者募集！

参加費  
無料



## VRで体験！いぬねことのくらし

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

実施  
予定

2023年

8月9日（水）10:30～11:30 / 8月26日（土）10:30～11:30

【対象年齢：7歳以上】

※各回定員 20名（小学2年生～中学生）



 **PURINA**  
Your Pet, Our Passion.®

【協力】ネスレ日本株式会社 ネスレピュリナペットケア

### どうぶつと いっしょにくらそう

あなたのきもちはとどくかな？



 環境省  
Ministry of the Environment

生身の動物に触れる前に、疑似体験を経験できるツール（VR）の活用を通して動物の習性や行動について理解を深めます。動物アレルギーを持つお子さんにも安心してご参加いただける内容です。犬猫との正しい接し方や適切な飼育について学び、動物の気持ちを想像しながら、実際に動物に接するときにはどんなことに気をつけたらいいのかを子どもたちが自ら考え、他者に対する共感や思いやりの心を育てます。VRの体験と共に、環境省発行の冊子「どうぶつといっしょにくらそう」を使って動物の気持ちを考えます。

こうべ動物共生センターのサイトからご予約ください



#### 【こうべ動物共生センターとは？】

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。



問合せ先

こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号

電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp



# こうべ動物共生センターにおける教育事業ご協力をお願い 実施協力校(クラス)を募集しています!



## 動物共生教育 (「いのちの教育」プログラム)

【令和5年度に2回実施(3つのプログラムで構成)・実施無料】

アクティブラーニングの手法を用いて、すでに多くの自治体での導入実績がある奈良県「いのちの教育」プログラムは実施した小学校の評価も高く、全国の自治体職員や教育関係者が研修に参加し、すでに多くの自治体でも導入されています。

奈良県「いのちの教育」研究協議会(会長・国立大学法人奈良女子大学の天ヶ瀬正博教授、副会長・公益社団法人Knots理事長)が設置され、プログラムの内容を適宜ブラッシュアップし、教育効果の測定と効果の向上を実現する工夫を行っている先進的な取り組みです。このプログラムの実施に協力をして下さる学校(クラス)を募集しています(ご説明にお伺いさせていただきます)。

### 「いのちの教育」プログラムで使用するツール

・3つのエリアを示す扇型のパネル ・20種類の張り子の動物たち(イノシシ、ブタなど=45~50cm)

**ボクたちは自然の中で自分の力で生きています!**

私たちは野生動物も豊かな自然に安心します

**野生動物**

**ボクたちは人間と一緒に生活しています!**

私たちはペットと暮らすことで楽しい気持ちをもっています

**ペット**

**共感**

**責任**

私たちは牧場で人間に世話をしてもらっています!

**家畜**

私たちは家畜を利用することで健康をもらっています

神戸市内 小学校での実施の様子

### 01 実施方法

1体 45~50cm ほどある大型の張り子の動物 20 体とパネル類を使用し、それらの動物を子どもたちが動かしながら人との関わりを学びます。  
また、個々に配られたホワイトボードに書いたり、拡張心音計で自分と友達の心臓の音を聞き比べたりして、子どもたちが積極的に参加しながら実施します。  
実施完了後は各学校と連携をして「ふりかえり」を行い、実施後に子どもたちの意識がどのように変化したのか調査・分析を行います。



02

**こころの成長に必要な3つの要素を学ぶことができます**

「いのちの教育」プログラムは、以下の3つのプログラムに分かれています。それぞれのプログラムで、「気づき」「共感」「責任」について学ぶことができます。

プログラムⅠ

私たちと動物の関わり ..... (私たちと動物とのつながり)

**気づき**

プログラムⅡ

動物たちと私たちの「いのち」は同じ ..... (動物たちの気持ちを考えよう)

**共感**

プログラムⅢ

動物たちのために私たちにできること ..... (私たちが動物たちに果たす責任)

**責任**



子どもたちが、手作りの大型張り子を運びながら、人間と動物との関わりに「気づき」、そして彼らの《いのち》に対する「共感」と「責任」を学びます。

03

**学校の先生や保護者、子どもたちからも高い評価を受けています！**

「いのちの教育」プログラムは、学校の様々な場面で実施可能です。こうべ動物共生センターの職員が実施いたしますが、先生方に実施方法をお伝えさせて頂き、自校式としての実施も可能です。

- ・プログラムのツール一式が揃っているので手間がかかりません。
- ・道徳や生活科の授業などで、「生命尊重」の授業として実施できます。
- ・授業参観でも実施可能。
- ・遠足と組み合わせて実施もできます。



アクティブラーニングの手法を用いているため、子どもたちが積極的に授業に参加する内容になっています。発言が苦手な子どもでも「書く」という行為や、相談しながら動物を「運ぶ」行為、自分と友達の心臓の音を聴き比べて「感じる」という手法も取りれており、子どもたちの関心を惹き付ける工夫がなされています。

**【こうべ動物共生センターとは？】 <https://kobe-chai.jp/>**

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。



問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号  
電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp